

2023年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧表

西日本看護専門学校 看護専門課程 看護学科

	授業科目	単位数	時間数	実施時間		
				1年	2年	3年
新課程	人間関係論	1	30	30		
	法と人権	1	15	15		
	病理学	1	30	30		
	臨床薬理学	1	30	30		
	臨床栄養学	1	15		15	
	臨床検査	1	15	15		
	診断治療論 1	1	30	30		
	診断治療論 2	1	30	30		
	診断治療論 3	1	30	30		
	診断治療論 4	1	30		30	
	診断治療論 5	1	30		30	
	診断治療論 6	1	15		15	
	看護における病態理解	1	15		15	
	医療概論	1	15	15		
	公衆衛生学	1	30		30	
	社会保障制度	1	30		30	
	関係法規	1	15		15	
	基礎看護学概論	1	30	30		
	基礎看護学共通基本技術 1	1	30	30		
	基礎看護学共通基本技術 2	1	15	15		
	基礎看護学共通基本技術 3	1	30	30		
	基礎看護学共通基本技術 4	1	15	15		
	基礎看護学生活援助技術 1	1	30	30		
	基礎看護学生活援助技術 2	1	30	30		
	基礎看護学診療補助技術 1	1	30	30		
	基礎看護学診療補助技術 2	1	30	30		

2023年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧表

西日本看護専門学校 看護専門課程 看護学科

	授業科目	単位数	時間数	実施時間		
				1年	2年	3年
新 課 程	基礎看護学臨床援助技術	1	30	30		
	看護研究	1	30		30	
	暮らしの理解	1	15	15		
	地域・在宅看護論概論	1	30		30	
	地域・在宅看護論援助技術	1	30		30	
	地域・在宅看護論 [対象に応じた看護]	1	15		15	
	成人看護学概論	1	30	30		
	成人看護学症状別看護	1	15		15	
	成人看護学機能障害別看護 1	1	15		15	
	成人看護学機能障害別看護 2	1	30		30	
	成人看護学経過別看護	1	30		30	
	成人看護学技術	1	30		30	
	老年看護学概論	1	30	30		
	老年看護学援助論 1	1	30		30	
	老年看護学援助論 2	1	15		15	
	小児看護学概論	1	15	15		
	子どもの成長発達の支援と看護	1	30		30	
	健康障害のある子どもの看護	1	30		30	
	母性看護学概論	1	15	15		
	母性看護学援助論 1	1	30		30	
	母性看護学援助論 2	1	30		30	
	精神保健看護学概論	1	15	15		
	精神看護学援助論 1	1	30		30	
	精神看護学援助論 2	1	30		30	
	薬物療法と看護	1	20		20	
	家族看護	1	20		20	

2023年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧表

西日本看護専門学校 看護専門課程 看護学科

授業科目	単位数	時間数	実施時間		
			1年	2年	3年
周手術期看護	1	30		30	
終末期看護	1	30		30	
看護過程演習	1	30		30	
看護倫理	1	15		15	
基礎看護学実習 1	1	45	45		
基礎看護学実習 2	2	90		90	
地域・在宅看護論実習 1	1	45		45	
成人看護学実習 [セルフマネジメント実習]	1	45		45	
老年看護学実習 1	1	45		45	
老年看護学実習 2	2	90		90	
新課程計	64	1,750	660	1,090	0
旧課程	成人看護学実習Ⅱ	2	90		90
	成人看護学実習Ⅲ	3	135		135
	小児看護学実習	2	90		90
	母性看護学実習	2	90		90
	精神看護学実習	2	90		90
	在宅看護論方法論Ⅱ	2	45		45
	統合技術演習Ⅱ	1	30		30
	医療安全と災害看護	1	30		30
	看護管理	1	15		15
	看護観演習	1	30		30
	在宅看護論実習	2	90		90
	統合実習	2	90		90
	旧課程計	21	825	0	0
合計	85	2,575	660	1,090	825

2023年度 Syllabus

(1年生)



西日本看護専門学校

授業科目	人間関係論	担当 教員	氏名	山本 素子
単位・時間数	1単位・30時間		所属	アクティブサポートネットワーク
対象学生	2023年度・1年生		担当者実務経験	産業カウンセラーとして勤務
受講要件	なし			
授業概要	心理学やカウンセリングの理論に基づき、それをいかに具体的に、人との関係性の中に活かしていくかを学んでいく授業である。 毎回の授業は、講義と演習とを織り交ぜながら進めていく			
到達目標	人間の多様性を知り、違いを受け入れ、活かすための方法を習得する。また看護師として必要なコミュニケーション技法を知り、学生生活や看護師としての実務の中で使えるようになる。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	2		イントロダクション、コミュニケーションの基礎知識	講義/演習
2	2		自己理解と他者理解①偏愛マップを使って	講義/演習
3	2		自己理解と他者理解②自己概念	講義/演習
4	2		自己理解と他者理解③価値観	講義/演習
5	2		自己理解と他者理解④多様性の理解	講義/演習
6	2		言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	講義/演習
7	2		カウンセリングスキル①	講義/演習
8	2		カウンセリングスキル②(積極的傾聴)	講義/演習
9	2		伝えるスキル① 論理的思考	講義/演習
10	2		伝えるスキル② アサーティブネス	講義/演習
11	2		チームワーク リーダーシップとフォロワーシップ	講義/演習
12	2		モチベーション(やる気)	講義/演習
13	2		メンタルヘルス・ストレスケア	講義/演習
14	2		「幸せ」についての考察・幸福学	講義/演習
15	2		まとめ	講義/演習
授業時間外の学習	【予習】各回の講義前に、シラバスで提示された内容について、自分なりに調べておくこと。(例：自己概念⇒自己概念の言葉の意味を調べておく、等) 【復習】講義終了後は配布されたプリントを見直し、自分の言葉でまとめ、整理しておくこと。			
テキスト	なし。講義時にプリントを配布する。			
参考文献	講義中に適宜紹介する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	最終試験をもって成績評価とするが、講義態度が著しく悪い学生、また指示された提出物を出さない学生については、最終試験点数より若干のマイナス点で評価する。マイナスの度合いについては、おおむね10%程度とする。			

授業科目	法と人権	担当 教員	氏名	村里 淳
単位・時間数	1単位・15時間		所属	思永法律事務所
対象学生	2023年度・1年生		担当者実務経験	法律事務所に弁護士として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>社会が成立するには、法をはじめとする規範が必要です。国を単位として構成される現代社会では、国の基本的な理念である憲法を中心に、国民が守るべき規範と罰則（刑事法）、国民が社会生活を送るうえで生じる利害の調整（民事法）など、いろいろなルールが定められており、法律体系として明文化されています。</p> <p>私たちは、日頃法律を意識して生活することは少ないですが、実際はさまざまな法律の網の中で暮らしています。社会の公平性や生活の安全も、法律が守ってくれています。本授業では、人々が暮らす社会を理解するために法について理解してほしいと思っています。</p> <p>また、現代社会は、多様な人々、さまざまな価値観を持つ人々が暮らしています。多様性を持つ人々を尊重し、共生していくためには、どのようにすればよいのかその思考方法を身につけ、人権意識の高揚を図ることも目指しています。</p>			
到達目標	<p>1.法をはじめとする規範がどのように社会を成り立たせているのかを理解する。</p> <p>2.さまざまな価値観を持つ人々の人権を守るための考え方を身につける。</p>			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	法の体系・憲法（人権） テキスト第1章・第9章	講義
	2	2	憲法（統治） テキスト第8章	講義
	3	2	民法（契約法・消費者法） テキスト第2章・第3章	講義
	4	2	民法（不法行為） テキスト第4章	講義
	5	2	民法（家族法）・会社法・労働法 テキスト第5章・第10章・第11章	講義
	6	2	刑法 テキスト第6章・第7章	講義
	7	3	人権と国際法 テキスト第12章・第13章	講義
授業時間外の学習	予習・復習を行う。			
テキスト	池田真朗 編：プレステップ法学(第5版)，弘文堂			
参考文献	必要に応じて、講義中に適宜紹介する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の出席状況，受講態度・発言の有無等（30%） ・最終試験（70%） 			

授業科目	病理学		担当 教員	氏名	槇原 康亮	
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	九州労災病院 病理診断科	
対象学生	2023 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて病理医として勤務	
受講要件	なし					
授業概要	病理学とは、全身・臓器において疾病として現れる構造的・機能的異常を理解する学問である。この科目では、担当教員の実務経験をもとに、疾病を原因や成り立ちをもとに整理し、病気の本質について理解を深め、医療従事者として知っておくべき医学の基礎を教授します。					
到達目標	病気を正しく理解するための知識を習得し、各種疾病の成因・病態を科学的・系統的に理解する。腫瘍の種類・特徴・進展・病因を科学的・系統的に理解する。考える看護を実践するために、実地臨床において必要な基本的な知識も習得する。					
授業計画 回	時間	内容			方法	
1	2	総論	病理学の領域	細胞・組織とその障害	再生と修復	講義
2	2		循環障害	炎症		講義
3	2		免疫とアレルギー	感染症		講義
4	2		代謝障害	老化と老年病		講義
5	2		新生児の病理	先天異常		講義
6	2		腫瘍	生命危機		講義
7	2	各論	循環器系		講義	
8	2		呼吸器系		講義	
9	2		歯・口腔系 消化器系		講義	
10	3		消化器系 まとめ		講義	
11	2		内分泌系		講義	
12	2		造血器系 腎・尿路系		講義	
13	2		生殖器・乳腺 脳・神経系		講義	
14	3		感覚器系 運動器系 まとめ		講義	
授業時間外の 学習	各時間の予習復習を行う。					
テキスト	渡辺照男 編集：カラーで学べる病理学，ヌーヴェルヒロカワ					
参考文献	笹野公伸 他：シンプル病理学，南山堂 長村義之 他：NEW エssenシャル病理学，医歯薬出版 など					
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法	該当なし					
成績評価の 方法と基準	総論で1回、各論で2回、計3回の試験を行う。 各100点満点で実施し、それぞれ60点以上を合格とする。					

授業科目	臨床薬理学	担当 教員	氏名	横山 修子
単位・時間数	1単位・30時間		所属	北九州総合病院
対象学生	2023年度・1年生		担当者実務経験	病院にて薬剤師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>薬が疾患の治療に用いられる理由を理解し、薬の投与から投与後の経過観察までの一連の過程における薬の適正使用に関する考え方を教授する。</p> <p>担当教員の病院での実務経験を踏まえ、臨床場面を意識した実際の看護に求められる薬の知識と薬の投与時の注意事項を理解できるよう授業をすすめる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・薬がどのように人体に影響を与えるのか、作用と副作用について理解する。 ・薬の投与方法、投与量と薬理効果の関係について理解する。 ・薬を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	第1章 総論1 薬物療法の目的、薬理作用と作用機序、薬物動態、副作用、薬物相互作用	講義 小テスト
	2	2	第1章 総論2 新薬の開発、医薬品の管理	講義 小テスト
	3	2	第2章 末梢神経系作用薬 自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬	講義 小テスト
	4	2	第3章 中枢神経系作用薬 麻酔薬、鎮痛薬、睡眠薬、抗精神薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、抗アルツハイマー病薬	講義 小テスト
	5	2	第4章 循環器系作用薬 降圧薬、強心薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、抗高脂血症薬	講義 小テスト
	6	2	第4章 循環器系作用薬 輸液、利尿剤、貧血治療薬、止血薬、抗血小板薬、抗凝固薬	講義 小テスト
	7	2	第5章 抗炎症薬 副腎皮質ステロイド剤、NSAIDs、抗アレルギー薬、免疫抑制薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬	講義 小テスト
	8	2	第6章 呼吸器系作用薬 気管支喘息治療薬、鎮咳去痰薬	講義 小テスト
	9	2	第7章 消化器系作用薬 胃酸分泌抑制薬、胃粘膜保護薬、制吐剤、下剤、止痢剤	講義 小テスト
	10	2	第8章 ホルモン系作用薬 糖尿病治療薬、抗甲状腺薬、甲状腺ホルモン薬、骨粗鬆症治療薬	講義 小テスト
	11	2	第8章 生殖器系作用薬 前立腺肥大症治療薬、子宮収縮薬	講義 小テスト
	12	2	第9章 抗感染症薬 基礎知識、βラクタム系（ペニシリン系、セフェム系）、アミノグリコシド系、マクロライド系、テトラサイクリン系、ニューキノロン剤、抗結核薬、抗ウイルス薬、消毒薬	講義 小テスト
	13	2	第10章 抗悪性腫瘍薬 殺細胞性抗腫瘍薬（アルキル化剤、代謝拮抗剤、抗腫瘍性抗生物質、ビンカアルカロイド系、タキサン系、白金製剤、トポイソメラーゼ阻害剤）、分子標的治療薬	講義 小テスト
	14	2	第11章 漢方薬 漢方薬	講義

15	2	まとめ 第1～10章のまとめ	講義
授業時間外の学習		予習においては、教科書の該当頁を熟読し、理解できない個所を明確にし、授業に参加する。復習においては、教科書、講義資料を用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。また、毎回の講義後に配布する小テストにて重要なポイントの理解を深める。	
テキスト		安原 一，小口 勝司：編集わかりやすい薬理学，ヌーヴェルヒロカワ	
参考文献		なし	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		到達目標に対する達成度を終了試験（100%）にて評価する。	

授業科目	臨床検査	担当 教員	氏名	中園 朱美 他
単位・時間数	1単位・15時間		所属	産業医科大学病院
対象学生	2023年度・1年生		担当者実務経験	病院にて臨床検査技師として勤務
受講要件	無			
授業概要	<p>医療分野では多くの検査が実施され、診断のための重要な役割を果たしている。看護師は、検査を受ける患者の看護を行うとともに、得られた検査データの持つ意味を理解し、患者に必要な看護を実践することが求められる。</p> <p>この科目では、担当教員の実務経験をもとに各種検査の目的や方法、検査内容と病態、解剖生理とのつながり、検査データのもつ意味を教授し、看護における判断の基礎的知識となるよう授業を進める。</p>			
到達目標	<p>1. 診療における臨床検査の役割について理解する。</p> <p>2. 臨床検査の方法を理解する。</p> <p>3. 検査目的や内容と解剖生理、病態とのつながりを理解する。</p>			
授業計画 回	時間	内容		方法
1	1	<p>1. 総論 臨床検査技師の歴史、臨床検査技師の業務範囲・関連法規 臨床検査の役割、検査のすすめ方、検査の流れと看護師の役割 検査における注意点：検体採取、保存、移送方法 看護師の感染・患者の感染の可能性等（針刺し事故等） 看護師が実施する検査（POCT検査について概要）</p>		講義 / 中園
2	2	<p>2. 臨床検査方法と検査結果の見方・考え方 [<ul style="list-style-type: none"> 検査における注意点、検査結果に影響を及ぼす要因 検査値の基準範囲と臨床的意義] <p>① 生化学・内分泌検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精度管理 ・基準範囲と臨床判断値、パニック値 ・検査結果に影響を及ぼす要因（溶血・乳びなど） ・糖代謝、脂質代謝、ビリルビン代謝について ・血清酵素検査、腎機能検査、水・電解質検査について ・血液ガス検査 ・腫瘍マーカー・ホルモンの検査 </p>		講義 / 比嘉
3	2	<p>2. 臨床検査方法と検査結果が示すもの</p> <p>② 免疫・輸血・感染症検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもて試験・うら試験、おもてうら不一致について ・新生児の血液型検査 ・特殊な血液型 ・輸血の同意取得（感染症検査含む）について ・緊急時の輸血対応について ・輸血副作用、不適合輸血、GVHD、輸血後感染症 ・抗原・抗体反応 ・輸血後感染症検査（HBV,HIV等）結果の解釈 ・輸血後感染症遡及調査について 		講義 / 坂西
4	2	<p>2. 臨床検査方法と検査結果が示すもの</p> <p>③ 血液検査・凝固検査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・採血方法・採血順による検査結果に与える影響・注意点 ・検査結果に影響を及ぼす要因 ・血液像と骨髓像、骨髓穿刺における患者説明 ・凝固カスケード 		講義 / 日高

		・検査値の基準範囲と臨床的意義	
5	2	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ④ 感染微生物検査 ・感染防止対策の基本と感染対策上重要な耐性菌 ・細菌検査の流れとその特徴 ・検体採取、輸送・保管による検査結果に与える影響・注意点 ・各種感染症と届出感染症の種類	講義 / 川上
6	2	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑤ 循環器・神経検査 ・循環器検査について ・心電図の誘導と波形パターン、重要な検査所見 ・循環器検査を行う場合の注意点 ・脳波検査について ・その他、脳神経検査について	講義 / 中川
7	2	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑥ 呼吸機能検査 ・看護師が検査する場合の注意点、患者への説明 ・簡易検査について ・肺活量、1秒量・1秒率と臨床的意義	講義 / 立花
8	1	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑦ 一般検査 ・採尿時の注意点 ・採取後、検体提出における注意点 ・試験紙の判定と結果に与える影響 ・尿沈渣で認められる所見と臨床的意義 ・便潜血検査、髄液検査等の注意点、臨床的意義	講義 / 諸岡
9	1	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑧ 超音波検査・総括 ・超音波の原理 ・超音波画像と解剖 ・POCT 超音波検査（褥瘡・消化管内糞便エコー） ・FAST エコー（心嚢液、腹水・胸水貯留、心不全など） ・臨床検査のまとめ	講義 / 中園
授業時間外の学習		各時間の予習復習を行う。	
テキスト		奈良信雄・和田隆志 編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院	
参考文献		濱崎直孝 監修：臨床検査精度保証教本，社団法人日本臨床衛生検査技師会 本田孝行 編著：ワンランク上の検査値の読み方・考え方ルーチン検査から病態変化を見抜く一第2版，総合医学社 下正宗 編集：エビデンスに基づく 検査データ活用マニュアル第2版，学研 認定輸血検査技師制度協議会カリキュラム委員会 編集：スタンダード輸血検査テキスト第3版	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		終了試験（100点）を実施する。	

授業科目	診断治療論 1	担当 教員	氏名	高水間亮治 他
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	北九州総合病院
対象学生	2023 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患を器官系統別に分類し、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 1 では、内科系疾患のうち呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、消化器系、肝・胆道系、内分泌系疾患についてオムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。			
到達目標	代表的な内科系各科疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。			
区分	時間	内容		方法
A. 呼吸器疾患	2	呼吸器症状とその病態生理		講義
	2	呼吸器疾患の検査と治療・処置		講義
	2	呼吸器疾患（1） ①炎症性疾患、②気管支喘息、③慢性閉塞性肺疾患		講義
	2	呼吸器疾患（2） ④肺循環疾患、⑤肺結核、⑥気胸、⑦腫瘍		講義
B. 循環器疾患	2	循環器症状とその病態生理 循環器疾患の検査と治療・処置		講義
	2	循環器疾患（1） ①心臓の疾患：先天性心疾患、虚血性心疾患、心筋症 心不全、心タンポナーデ、不整脈、 炎症性疾患、弁膜症		講義
	2	循環器疾患（2） ②血管系の疾患：大動脈瘤、大動脈解離 ③血圧異常：動脈硬化症、本態性高血圧、二次性高血圧 起立性低血圧		講義
	2	循環器疾患（3） ④ショック：心原性ショック、出血性ショック		講義
C. 腎泌尿器疾患	2	腎内科疾患の病態と診断・治療 ①炎症性疾患、②慢性腎臓病、③腎不全		講義
	2	泌尿器科疾患の病態と診断・治療 ①腎尿路結石、② 排尿障害、③腫瘍		講義
	2	男性生殖器の疾患の病態と診断・治療 ①前立腺疾患、②男性性機能障害		講義
D. 消化器疾患	2	消化器症状とその病態生理 消化器疾患の検査と治療・処置 消化器疾患（1） ①上部消化器疾患：炎症性疾患、潰瘍性疾患 ②下部消化器疾患：イレウス、排便障害		講義
	2	消化器疾患（2） ①肝臓・胆嚢・膵臓の疾患炎症性疾患、肝硬変、腫瘍、 脂肪肝、アルコール性肝炎、胆石症		講義

E. 内分泌代謝疾患	2	内分泌疾患の病態と診断・治療 ①間脳・下垂体疾患、②甲状腺疾患、③副甲状腺疾患 ④副腎皮質・髄質疾患	講義
	2	代謝疾患の病態と診断・治療 ①メタボリックシンドローム・肥満症、②糖尿病 ③脂質異常症、④高尿酸血症、痛風、⑤ビタミン欠乏症	講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。		
テキスト	A：浅野浩一郎 他：系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器，医学書院 B：吉田俊子 他：系統看護学講座 成人看護学3 循環器，医学書院 C：今井亜矢子 他：系統看護学講座 成人看護学8 腎・泌尿器，医学書院 D：南川雅子 他：系統看護学講座 成人看護学5 消化器，医学書院 E：黒江ゆり子 他：系統看護学講座 成人看護学6 内分泌・代謝，医学書院		
参考文献	各講師の配布資料		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100点）を行う。 最終評価の割合は、A・Bは各25%、Cは20%、D・Eは各15%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。		

授業科目	診断治療論 2	担当 教員	氏名	野上健一郎 他
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	北九州総合病院
対象学生	2023 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患を器官系統別に分類し、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 2 では、内科系疾患・外科系疾患のうち脳神経系、運動器系、アレルギー腎・感染症、血液・造血器系疾患、画像診断と放射線治療についてオムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。			
到達目標	代表的な内科系・外科系各科疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。			
区分	時間	内容	方法	
A. 脳神経疾患	2	脳神経系症状とその病態生理 ①意識障害、②頭蓋内圧亢進症状、③脳ヘルニア 等 脳神経系疾患の検査と治療・処置	講義	
	2	脳神経疾患（1） ①脳血管障害：脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、 もやもや病	講義	
	2	脳神経疾患（2） ②変性疾患：パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症 ③脱髄疾患、④認知症、⑤感染症	講義	
	2	脳神経疾患（3） ⑥機能性疾患（てんかん）、⑦腫瘍 ⑧末梢神経疾患：ギランバレー症候群、顔面神経麻痺 ⑨筋・神経筋接続部の疾患：筋ジストロフィー 重症筋無力症	講義	
B. 運動器器疾患	2	運動器疾患の症状とその病態生理 運動器疾患の検査と治療・処置	講義	
	2	運動器疾患（1） ①骨関節疾患：骨折、脱臼、捻挫 腫瘍、変形性関節症、腰痛症	講義	
	2	運動器疾患（1） ①骨関節疾患：脆弱性疾患（骨粗鬆症）、炎症性疾患 ②脊髄損傷	講義	
C. アレルギー・膠原病・感染症	2	アレルギー疾患の病態と診断・治療 ①アレルギーとは、②花粉症、③蕁麻疹、 ④接触性皮膚炎、⑤アナフィラキシーショック	講義	
	2	膠原病疾患の病態と診断・治療 ①自己免疫疾患とその機序、 ②全身性エリテマトーデス、③関節リウマチ、 ④シェーグレン症候群	講義	
	2	感染症の病態と診断・治療 ①感染症とは、 ②感染症の診断と治療、③感染症（呼吸器・消化器等） ④ヒト免疫不全ウイルス感染症	講義	

D. 血液・造血器疾患	2	血液・造血器疾患の検査と診断、症候・病態生理・治療 ①貧血、②白血球減少、③出血性疾患(輸血療法を含む)	講義
	2	血液・造血器疾患の検査と診断、症候・病態生理・治療 ④腫瘍	講義
E. 放射線療法	2	画像診断 ①X線診断、②CT、③MRI、④超音波診断 ⑤核医学、⑥IVR・血管造影	講義
	2	放射線治療総説：放射線治療の原理、有害反応、 照射法の種類	講義
	2	放射線治療各論 放射線防護	講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。		
テキスト	A：井手隆文 他：系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経，医学書院 B：田中栄 他：系統看護学講座 成人看護学10 運動器，医学書院 C：岩田健太郎 他：系統看護学講座 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症， 医学書院 D：飯野京子 他：系統看護学講座 成人看護学4 血液・造血器，医学書院 E：長尻博也 他：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学，医学書院		
参考文献	各講師の配布資料		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100点）を行う。 最終評価の割合は、Aは25%、B・C・Eは各20%、Dは15%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。		

授業科目	診断治療論 3		担当 教員	氏名	①日暮愛一郎 他 ②中藪誠 ③寺田由紀 他
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	①②北九州総合病院 ③小倉歯科医師会
対象学生	2023 年度・1 年生			担当者実務経験	①病院にて医師として勤務 ②病院にて理学療法士として勤務 ③歯科医院にて歯科医師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患を器官系統別に分類し、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 3 では、外科系疾患、リハビリテーション療法、歯・口腔疾患についてオムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な外科系疾患・歯口腔疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。また、リハビリテーション療法の考え方と方法を説明できる。				
区分	時間	内容		方法	
A. 外科疾患	4	外科総論 手術療法と生体の反応、炎症、感染症、創傷治癒 外科治療の実際		講義	
	4	消化器疾患の治療 ①上部消化器疾患、②下部消化器疾患		講義	
	4	消化器疾患の治療 ③肝臓・胆嚢・膵臓疾患 腹壁疾患		講義	
	2	呼吸器疾患の治療 肺疾患：肺がん、気胸		講義	
	2	乳腺疾患の治療		講義	
B. リハビリテーション療法	2	リハビリテーション・障害の概念、 障害の評価		講義	
	2	運動器系の障害とリハビリテーション 中枢神経系の障害とリハビリテーション		講義	
	2	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション 感覚器系の障害とリハビリテーション看護		講義	
	2	リハビリテーション療法の実際		演習	
C. 歯・口腔疾患	2	歯科概論		講義	
	2	小児・妊婦の歯科疾患、歯周病		講義	
	2	高齢者の歯・口腔疾患		講義	
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。				

テキスト	A：矢永勝彦 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院 北島政樹 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論，医学書院 B：原三紀子 他：系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護，医学書院 C：渋谷絹子 他：系統看護学講座 成人看護学15 歯・口腔，医学書院
参考文献	各講師の配布資料
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100点）を行う。 最終評価の割合は、Aは50%、B・Cは各25%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。

授業科目	医療概論	担当 教員	氏名	青山和義・竹田貴雄
単位・時間数	1単位・15時間		所属	北九州総合病院
対象学生	2023年度・1年生		担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>これから看護を学ぶ学生に、医療の全体像を概観し、医療のあり方や医療従事者に求められる姿をそれぞれの力で考えることを期待し、講義を進めていきます。</p> <p>医療は医師や看護師だけではなく、さまざまな専門職がそれぞれの役割を果たし協働することによって成り立っています。また、社会のニーズによって変化していきます。しかし、人々の生命の尊厳はどのような場面においても尊重されなければいけません。この講義は、病院で日々医療に携わる教員が、その経験を活かしながら、医学、医療における諸活動、医療を取り巻く社会や経済、政策などの講義を行い、医療のあり方を考えていきたいと思っています。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.保健医療を取り巻く社会の動向を理解し、医療のあり方や医療従事者に求められる姿を考える。 2.生命の尊厳や生命倫理、医の倫理、患者の権利についての考え方について理解する。 3.我が国の医療保障制度、医療経済の現状と問題点を理解する。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	生きることと死ぬこと	講義
	2	2	医学と医療	講義
	3	2	保健・医療・介護、社会保障制度	講義
	4	2	保健・医療・介護、社会保障制度	講義
	5	2	医療倫理・医療安全・医薬品	講義
	6	2	医療情報・最先端医療の概要と課題	講義
	7	3	医療と社会、医療経済と政策医療 まとめ	講義
授業時間外の学習	予習復習を行い講義に臨んでほしい。			
テキスト	廣永英生：系統看護学講座医療概論，医学書院			
参考文献	必要に応じ随時指示する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	終了テスト（100点）を行う。			

授業科目	基礎看護学概論	担当 教員	氏名	佐藤 節美
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	教員
対象学生	2023 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	看護とは何か、看護の対象は何か、看護が成り立っている制度や歴史、その活動領域について理解させ、看護の概念を教授する。看護を理解する上で理論は必須であり、どのような理論がどのような看護を導きだしているのか理解させる。看護師の倫理観や看護学生としての倫理的行動を考えさせる。臨床の場で遭遇するであろう事例を提示し、考えさせることで理解を深めさせ、基礎看護技術や各看護学に結びつける礎となる内容とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護とは何かを知り、理論の必要性について理解し説明できる。 2. 看護の対象としての人間を理解する。 3. 職業としての看護と看護者の養成制度、看護職者の倫理について学び適切な行動とはなにか説明できる。 4. 看護サービス提供の場と看護制度を理解する。 5. 看護の活動領域について理解し、説明できる。 			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	2	看護とはなにか・私の理想の看護師像	演習	
2	2	看護の歴史・看護の定義	講義	
3	2	看護の本質とはなにか 看護理論	講義	
4	2	看護理論	講義	
5	2	看護の役割と機能	演習	
6	2	看護の対象	講義	
7	2	看護の対象 健康と生活	演習	
8	2	健康と生活	講義	
9	2	看護教育の変遷 看護の提供者と看護職の教育制度とその課題	講義	
10	2	看護職者の倫理	演習	
11	2	看護職者の倫理	講義	
12	2	看護の提供のしくみと看護の継続性・看護サービスの管理	講義	
13	2	看護をめぐる制度と政策 看護サービスと経済のしくみ	講義	
14	2	看護管理とは・医療安全と看護業務	講義	
15	2	看護の国際協力と災害時の看護	講義	
授業時間外の 学習	湯楨ます 他 訳：看護の基本となるもの、日本看護協会出版社 小玉香津子 他 訳：看護覚え書き 日本看護協会出版社 小玉香津子 他 訳：新訳・ナイチンゲール書簡集 現代社 以上の3冊を熟読する			

テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論，医学書院
参考文献	学内の図書室にある、理論家の書物すべて
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験を 45 分で実施。 筆記試験 70 点、課題レポート(2 枚)30 点、計 100 点で評価する。 授業中に毎時間の私語や寝ている状況があれば減点する。

授業科目	基礎看護学共通基本技術 1		担当 教員	氏名	松井 なつみ
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>基礎看護技術とは、看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術である。その中でも土台となる看護技術を共通基本技術とし、当科目では、「生活環境技術」および「安全を守る技術」を教授する。生活環境技術では、環境は健康と密接に関連していること、環境を調整する意義や目的、環境を整える際の視点や方法について教授する。また安全を守る技術では、医療を患者が安全に安心して受けるために必要な看護師としての知識、技術、姿勢について臨床経験を活かし教授する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントおよび調整する目的や方法を説明できる。 2. 療養環境の整備・調整、ベッドメイキングおよび臥床患者のリネン交換が実施できる。 3. 医療中の安全確保の基礎知識と事故防止について理解できる。 4. 感染の成り立ちおよび感染予防の意義と方法について理解できる。 5. 感染防御策及び無菌操作を実施できる。 				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	看護技術とは 環境とは：「環境」の概念理解、「環境」と「看護」			講義 グループワーク
2	2	療養生活と環境 療養環境のアセスメントと調整方法			講義 グループワーク
3	2	ベッド周囲の環境整備、環境調整の方法			演習
4	2	病床を整える ベッドメイキング・リネン交換の目的・方法			講義・演習
5	2	ベッドメイキングの実際			演習
6	2	臥床患者のリネン（下シーツ・包布・枕カバー）交換			演習
7	3	安全確保の基礎知識 事故防止のための技術と対策			講義
8	2	感染とその予防の基礎知識 標準予防策（スタンダードプリコーション） 感染性廃棄物の取扱い			講義
9	2	スタンダード・プリコーションの実施 ・衛生的な手指手洗い ・プラスチックエプロン、手袋の着脱 ・廃棄区分ごとの廃棄			演習
10	4	臥床患者の療養環境を整える（事例）			演習
11	2	感染経路別防止策：接触予防策・飛沫予防策・空気予防策 院内感染発生時の対応			講義
12	2	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識と技術 無菌操作			講義
13	3	感染予防の実際 無菌操作（滅菌物の取り扱い、滅菌手袋）・ガウンテクニック 廃棄区分ごとの廃棄			演習

授業時間外の学習	授業の予習と復習、課題レポート、各技術の手順書を参考にセルフトレーニング
テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子他：系統看護学講座専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	必要時、紹介する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	環境調整技術として、1.快適な療養環境の整備、2.臥床患者のリネン交換、65.安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)について演習時にチェックリストを用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。 感染予防技術として、57.スタンダード・プリコーションに基づく手洗い、58.必要な防護具の選択・着脱、59.使用した器具の感染防止の取扱い、60.感染性廃棄物の取扱い、61.無菌操作について、演習時に自己評価・他者(学生)評価を実施、さらに技術試験を実施して到達確認を行う。
成績評価の方法と基準	①筆記試験(45分) ②技術試験で評価を行う。①、②は各100点とし、それぞれ60点以上を合格とする。 (ただし、授業や演習態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。) 科目の最終評価は、①筆記試験70%、②技術試験30%として算出する。

授業科目	基礎看護学共通基本技術 2		担当 教員	氏名	川島 己知
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護実践においてコミュニケーションは、相手の心と心の交流を図り信頼関係の構築や看護上の問題を解決するために用いられるなど、効果的な介入を行う際に必須の技術である。看護・医療におけるコミュニケーションの目的や重要性を理解し、関係構築のためのコミュニケーションについての知識・技術・態度を習得し実践できるよう、臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象との関係を築くために必要なコミュニケーション技術の基礎について理解する。 2. 医療・看護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、適切なメッセージを伝える方法および対象に応じた効果的な対応を実践できる。 				
授業計画	回	時間	内容		方法
	1	2	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素		講義
	2	2	関係構築のためのコミュニケーションの基本		講義
	3	2	効果的なコミュニケーションの実際		講義
	4	2	効果的なコミュニケーションの実際		講義
	5	2	プロセスレコードの目的 プロセスレコードの記入方法 プロセスレコードの実施		講義・演習
	6	2	コミュニケーション障害への対応		講義
	7	3	看護におけるコミュニケーションの実際 ロールプレイング		演習
授業時間外の学習	・授業中に課題（プロセスレコードなど）を提示するので決められた期日に提出する				
テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I，医学書院				
参考文献	授業中に必要に応じて指定する				
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし				
成績評価の方法と基準	課題レポート（個人レポート 2 回、GW レポート 1 回）、筆記試験（45 分）で評価する。課題レポートの評価は評価表を用いて行い、個人レポートは第 1 回 30 点、第 2 回 20 点、GW レポートは 10 点、筆記試験は 40 点とし、計 100 点で評価する。				

授業科目	基礎看護学共通基本技術 3		担当 教員	氏名	大木 克己
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>看護師として全人的に人を捉えるヘルスアセスメントの実施は必要不可欠なものである。そのなかでも健康査定を行うための具体的方法であるフィジカルアセスメントは、患者の安全・安楽、対象に応じた看護を提供するための重要な視点であり、看護師の臨床判断能力につながる。まずは、基本となるバイタルサイン（生命徴候）測定の方法の習得を目指す。また、フィジカルイグザミネーションとインタビューから正常か異常（正常からの逸脱）を判断し、看護に結びつけてゆく過程を学ぶ。これらは、教員の臨床での実務経験を活かし教授する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヘルスアセスメントの意義と目的、全体の概要が理解できる。 バイタルサインの観察や測定、計測などフィジカルイグザミネーションの意味を理解し、説明・実施できる。 フィジカルアセスメントの基本手技（視診・触診・打診・聴診）の意味や方法を理解し、手技ができる。 系統別アセスメントを行うためのフィジカルイグザミネーションとその根拠がわかり、手技ができる。 フィジカルイグザミネーションで得た情報を分析し、報告の必要性とその対処方法を考えることができる。 				
授業計画	回	時間	内容		方法
	1	2	ヘルスアセスメントの意義と身体計測と記録・報告		講義 演習
	2	2	バイタルサインとは 体温維持に関する基礎知識と測定方法		講義 演習
	3	2	呼吸・循環に関する基礎知識と測定方法		講義 演習
	4	2	血圧測定方法		演習
	5	2	一連のバイタルサイン測定		演習
	6	2	中間試験（30分） フィジカルアセスメントにおける共通基本技術 視診、触診、打診、聴診		講義
	7	2	呼吸器系のフィジカルアセスメント（視診、触診、聴診）		講義
	8	2	循環器系のフィジカルアセスメント（触診、聴診）		講義
	9	2	呼吸、循環器系のフィジカルアセスメントの実際		演習
	10	2	腹部・消化器系のフィジカルアセスメント（触診、聴診、打診） 脳・神経系のフィジカルアセスメント（意識レベル、対光反射など）		講義
	11	2	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（MMT、関節可動域など） 外皮・リンパ系のフィジカルアセスメント		講義
	12	2	腹部、脳神経系、筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際		演習

13	2	フィジカルアセスメント技術演習	演習
14	2	事例検討準備（観察、アセスメント）	グループワーク 演習
15	2	事例検討発表	演習
授業時間外の 学習		<ul style="list-style-type: none"> ・各講義前には必ず、課題となる臓器の解剖生理の復習を行い講義に臨む。 ・授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。 ・演習前は課題となる臓器の解剖生理の復習、技術の予習を行い演習に臨む。 ・演習後は事後レポートを提出する。（詳細は演習時に説明） 	
テキスト		茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I，医学書院 香春知永他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア	
参考文献		坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体と構造と機能[1]解剖生理学，医学書院 渡辺照男：カラーで学べる病理学，ヌーヴェルヒロカワ 井手隆文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経，医学書院	
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法		<ul style="list-style-type: none"> ・51.身体計測の技術に関しては、演習中に評価表を使用し自己と他者(学生)にて評価する。 ・50.バイタルサインの測定、52.フィジカルアセスメントの技術に関しては、技術試験評価表を使用し、技術試験にて評価する。 	
成績評価の 方法と基準		①筆記試験（中間 30 分、最終 45 分）、②技術試験で評価を行う。 ①筆記試験は 2 回（中間試験・最終試験）に分けて実施する。 ＊中間試験は 1～5 回目の講義内容、最終試験は 6～15 回目の講義内容を試験の範囲とする。 ＊中間試験を 40 点、最終試験を 60 点とし、合計 100 点とし、60 点以上を合格とする。 ②技術試験は 2 回（バイタルサイン測定・フィジカルアセスメント）実施する。 評価は技術試験評価表を使用し、各 100 点とし、それぞれ 60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、①筆記試験 50%、②技術試験は各 25%として算出する。	

授業科目	基礎看護学共通基本技術 4	担当 教員	氏名	大木 克己
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	看護過程は、看護の対象となる人に対して、個々に応じた科学的な看護を実践するための方法を示した思考過程である。ここでは、看護過程の基盤となる考え方を理解し、事例を用いて、看護過程の各段階であるアセスメント、問題の明確化、計画、実施、評価を通して、看護実践における思考過程の方法の理解を促す。また、臨地実習において活用できる看護過程の展開を理解し、看護判断能力及び問題解決能力を養えるよう、臨床経験を活かし教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を用いる意義や看護過程の基盤となる考え方について理解できる。 2. 看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。 3. 事例を基にアセスメント、問題の明確化、看護計画、実施、評価の各段階について、基本的な考え方を理解し、記載することができる。 			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	2	看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方	講義	
2	2	アセスメント：データアセスメント枠組みを用いた情報収集	講義	
3	2	アセスメント：データの解釈と全体像	講義	
4	2	看護問題の明確化と目標の設定および優先順位の決定、看護計画	講義	
5	2	看護計画、実施、評価の方法、看護要約	講義	
6	2	事例による看護過程の展開	演習 グループワーク	
7	3	事例による看護過程の展開の発表 まとめ	演習 グループワーク	
授業時間外の 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前にテキストの内容を確認した上で授業に臨むこと。 ・個人ワーク、グループワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示をする。授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 			
テキスト	有田清子他：系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術 I，医学書院 永田明，石川ふみよ：看護がみえる vol.4 看護過程の展開，メディックメディア V ヘンダーソン著：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会			
参考文献	井手隆文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経，医学書院 江口正信他：検査値早わかりガイド，医学芸術社 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論，医学書院 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論[1] 成人看護学総論，医学書院 黒田裕子：改訂版 黒田裕子の入門・看護診断，照林社 論理学で指定されたテキスト、文献、またはプリント			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			

成績評価の方法と基準	①筆記試験（45分）50点、②課題成果物（看護過程の展開）を、看護過程評価表を用いて50点で評価し、計100点で評価とする。 ②看護過程の展開は、指定期日までに提出がなければ1日につき1点の減点とする。
------------	--

授業科目	基礎看護学生生活援助技術 1	担当 教員	氏名	川島 己知
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>看護師の業務には療養上の世話がある。患者の療養上の世話に関する基礎的技術を生活援助技術とし、当科目では、活動・休息におよび食事に関する援助技術について教授する。活動と休息援助技術においては、その意義と日常生活に必要な活動・運動および睡眠・休息を促進する援助技術についての理解を促す。ボディメカニクスを活用して体位変換や移乗・移送、関節可動訓練 (ROM) の技術を習得する。食事援助技術においては、食事の意義を理解し、対象に応じた食事援助を考える基礎的知識・技術・態度の習得をめざす。実務経験のある担当教員の指導のもと各援助の実際を理解する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての活動の意義について理解し、動かないことによっておこる弊害が理解できる。 2. ボディメカニクスを活用し、最小のエネルギーで安全・安楽に身体を動かし、保持する基本的技術および移乗・移送技術の基本が習得できる。 3. 食事の意義・栄養・食行動のアセスメントおよび食事時の注意事項を説明できる。 4. 対象の状況に合わせた食事援助を実施できる。 5. 経鼻経管栄養法の適応、方法と管理を説明できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	活動・休息の意義、基本的な体位、安楽な体位とは	講義
	2	2	ボディメカニクスに必要な知識と体位変換	講義
	3	2	体位変換の実際	演習
	4	2	移乗・移送援助の基本知識 (杖、車椅子、ストレッチャー)	講義
	5	4	<p>移乗・移送の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.杖・歩行器、松葉杖などの歩行の援助、ストレッチャーへの移乗と移送 2.車椅子への移乗、移送の実際、ポータブル便器への移乗 	演習
	6	2	廃用症候群と予防 (関節可動域訓練)、肢位固定	講義
	7	2	肢位固定と関節可動域訓練の実際	演習
	8	2	睡眠のメカニズムと不眠時の看護	講義
	9	2	<p>食事とは</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.食事の意義 2.食事行動 3.食物の流れ、摂食・嚥下のメカニズム 	講義
	10	2	<p>栄養・食行動のアセスメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.栄養状態 2.摂食能力 3.嚥下機能 4.食欲 	講義
	11	2	<p>食事援助</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.食事療法 2.食事援助の目的 3.看護師の役割 4.援助の実際 	講義
	12	4	<p>食事援助の計画作成(グループ学習)</p> <p>事例 a.臥床患者 b.視力障害のある患者 c.車いす患者</p> <p>事例別食事援助の実際 (嚥下障害のない患者の食事介助)</p>	演習

13	2	食事援助の振り返り 非経口的栄養法 1.非経口的栄養法の目的、種類と方法 ①IVH	講義・演習
授業時間外の学習	授業の予習と復習、課題レポート		
テキスト	任 和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院		
参考文献	湯槇ます 他 訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会 小玉香津子 他 訳：看護覚え書き，日本看護協会出版会		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	活動・休息援助技術の 13.車椅子での移送、14.歩行・移動介助、15.移乗介助の技術に関しては、技術試験評価表を使用し、技術試験にて評価する。16.体位変換・保持、18.ストレッチャー移送、69.安楽な体位の調整、食事の援助技術の 3.食事介助（嚥下障害のある患者を除く）は、演習時にチェックリストを用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。		
成績評価の方法と基準	①筆記試験（45分）、②技術試験で評価を行う。 ①、②は各 100点とし、それぞれ 60点以上を合格とする。（ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。） 科目の最終評価は、①筆記試験 70%、技術試験 30%として算出する。		

授業科目	基礎看護学生生活援助技術 2		担当 教員	氏名	鉦賀 千夏
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	この科目では、人間の基本的・生理的欲求の中の衣生活・清潔および排泄の援助について教授する。看護の対象である生活する人間の「衣生活」と「清潔」および「排泄」に関する日常生活行動の持つ意味、ニーズを充足するために必要な基本的知識、具体的な援助方法の理解を促す。どちらの項目も極めてプライベートな部分であるため、プライバシーや自尊心への配慮が必要となる。また、対象の健康状態を把握するための観察の良い機会にもなる。以上を踏まえ、必要な知識・技術・態度を、講義・演習を通し習得していく。看護師としての実務経験を活かし、臨床の場面を伝えることで学生の想像を促し、自ら考え学べるように臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活における衣・清潔、排泄の意義やニーズについて説明ができる。 2. 衣・清潔援助を行う際のアセスメントおよび安全・安楽・自立を考えた方法を理解し実践できる。 3. 排泄のメカニズムを説明することができ、アセスメントおよび自然排泄を促す援助を理解し実践できる。 				
授業計画			内容	方法	
回	時間				
1	2	清潔援助の概要 ・人間にとっての清潔の意義の理解 ・清潔援助の基礎知識 ・身体清潔のための援助方法の決定と留意点			講義
2	2	衣生活の援助 ・人間にとっての衣生活の意義 ・衣生活に関するアセスメントと援助方法			講義
3	2	様々な状況における寝衣交換の実施			演習
4	2	臥床患者の歯ブラシを用いた口腔ケアの実際			演習・講義
5	2	洗髪 ・洗髪の意義・目的 ・洗髪に必要な基礎知識 ・アセスメントと方法選択、援助方法			講義
6	4	臥床患者の洗髪の実施（ケリーパッド）			演習
7	2	入浴・部分浴・全身清拭・陰部の保清 ・意義、目的 ・アセスメントと方法選択、援助方法			講義
8	4	臥床患者の全身清拭・足浴演習			演習
9	2	排泄に関する基礎的知識 ・人間にとっての排泄の意義の理解 ・排尿・排便のメカニズムと排泄機能障害			講義
10	2	尿・排泄物の観察とアセスメント方法 対象に応じた排泄援助方法			講義
11	2	自然排泄を促す援助の実施 （ポータブルトイレ、床上排泄を促す援助、オムツ交換、陰部洗浄）			演習
12	2	事例を用いた自然排泄援助の理解			グループワーク
13	2	事例を用いた排泄援助の実施			演習

<p>授業時間外の学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各講義の前には、授業範囲の教科書、看護技術の参考書を読み、考えをまとめ、手順の把握を行っておく。 ・実技演習前には、講義で学んだ内容を復習し、実技演習中に行動できるようにイメージトレーニングを行っておく。イメージがつかない場合は、図書室の DVD や参考書の動画を視聴するなどしておく。 ・演習後に課題に沿ったレポート等を提示する。
<p>テキスト</p>	<p>任 和子 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院</p>
<p>参考文献</p>	<p>藤本 真記子：看護がみえる vol.1 基礎看護技術，メディックメディア 吉田 みつ子 他：写真でわかる基礎看護技術アドバンス，インターメディアカ</p>
<p>「看護師教育の技術項目」の到達確認方法</p>	<p>清潔・衣生活援助技術の 19.足浴・手浴、20.整容、21.患者の寝衣交換、23.陰部の保清、26.口腔ケアについて、演習時に評価表を用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。24.清潔、25.洗髪については、演習時に評価表を用いて自己評価、他者(教員)評価を行う 排泄援助技術の 7.排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)について、演習時に評価表を用いて自己評価・他者(学生)評価を実施する。また、事例を用いた演習を実施しグループ評価を行う。</p>
<p>成績評価の方法と基準</p>	<p>筆記試験 100 点 (ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。)</p>

授業科目	基礎看護学診療補助技術 1	担当 教員	氏名	川島 己知
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>看護師の役割のひとつに、患者の診察・治療・検査など診療に関わる過程での援助がある。これら治療過程の援助技術は生命の危機に直結することも多いため、看護師の役割、責任を認識し、正確かつ確実な技術を習得することが極めて重要である。ここでは、看護師による専門的な診療の補助の意義と方法および看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について講義や演習を通して学習できるようにする。</p> <p>与薬の技術は、直接的な身体への影響が大きい技術であり、安全かつ正しい指示に基づいて正確に行われなければならない。担当教員の実務経験をもとに基礎的な知識、技術が身につけられるよう、講義や演習を通して教授する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 与薬における看護師の役割について説明できる。 2. 与薬を安全かつ正確に実施するための方法を説明できる。 3. 筋肉内注射、採血の準備、実施、片づけの一連の手技を安全かつ正確に実施できる。 4. 点滴静脈内注射の実施手順と留意点を説明できる。また、輸液速度の調整ができる。 5. 診察・検査における看護師の役割について説明できる。 6. 処置における看護師の役割について説明できる。 7. 創傷管理、包帯法における基礎知識を理解し、安全・安楽に援助を実施できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	薬物療法の基礎知識 与薬における看護師の役割 薬剤等の管理	講義
	2	2	経口及びその他の方法による与薬 (内服薬、バツカル錠、舌下錠、経皮・外用薬の投与、坐薬の投与)	講義
	3	2	経口及びその他の方法による与薬	演習
	4	2	注射の基礎知識(皮下注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内注射)	講義
	5	2	注射の実施法	講義
	6	2	点滴静脈内注射 輸液療法と看護	講義
	7	1	注射法(筋肉内注射、採血、点滴静脈内注射) 演習前オリエンテーション	講義
	8	4	注射法(皮下注射・筋肉内注射)	演習
	9	2	注射法(採血)	演習
	10	2	点滴静脈内注射 輸液療法の実際	演習
	11	1	注射法(筋肉内注射、採血、点滴静脈内注射) 振り返り	講義
	12	2	診察・検査における看護師の役割 (検体検査、生体検査)	講義
	13	2	処置における看護師の役割 創傷管理の基礎知識、創傷処置(創保護、包帯法)	講義
	14	2	薬物の管理 創傷処置(創保護、包帯法・三角巾固定含む)	演習

15	2	検査の介助 検体の取り扱い（尿・便・喀痰、尿比重測定含む） 放射線の被ばく防止策の実施	講義・演習
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。 ・演習後は事後レポート、チェックリストを提出する。（詳細は演習時に説明） 		
テキスト	任 和子 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院		
参考文献	岡庭 豊 他 編：看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版，メディックメディア 吉田みつ子 他 編：実習で使える看護技術アドバンス，インターメディカ		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	<ul style="list-style-type: none"> ・36.創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)、38.経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)、39.経皮・外用薬の投与、40.坐薬の投与、41.皮下注射、42.筋肉内注射、43.静脈路確保・点滴静脈内注射、44.点滴静脈内注射の管理、55.静脈血採血、60.感染性廃棄物の取り扱い、64.患者の誤認防止策の実施に関しては、演習中に評価表を使用し、自己評価と教員評価を行う。 ・45.薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)、53.検体(尿、血液等)の取り扱い、56.検査の介助、62.針刺し事故の防止、66.放射線被ばく防止策の実施の技術に関しては、演習中に評価表を使用し、自己評価と他者評価(学生)を行う。 		
成績評価の方法と基準	筆記試験 100点 （ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。）		

授業科目	基礎看護学診療補助技術 2		担当 教員	氏名	岩丸 花奈
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護は、看護が提供される場で看護の対象となる人々と実際に関わりながら看護実践を行うことが重要である。そのためには、基礎的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学び、看護技術を具現化していくことが求められる。看護を行う上で対象の状況をどのように把握し、看護援助の根拠や基盤を踏まえながら統合し実践へとつながるように、健康状態の経過からみた特徴と看護、主要な症状を示す対象者への看護、治療や処置を受ける患者の看護について担当教員の実務経験をもとに教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の健康状態の経過に基づき、それぞれの経過の特徴や対象者のニーズ、看護援助について理解できる。 2. 対象の症状をもとに、看護を実践するための根拠および思考のプロセス、具体的看護援助方法について理解できる。 				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護		講義	
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルとニーズ ・家族の機能とニーズ ・生活と療養の場とニーズ 			
3	2	健康状態の経過に基づく看護		講義 グループワーク	
4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・健康の維持・増進を目指す看護 ・急性期における看護 ・慢性期における看護 ・リハビリテーション期における看護 ・終末期における看護 			
5	2	主要な症状を示す対象者への看護 <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸に関する症状を示す対象者への看護 ・呼吸機能障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・呼吸機能障害に関するニーズ充足のための援助 (効果的な換気促進援助、酸素投与、酸素ボンベ) 		講義	
6	2	<ol style="list-style-type: none"> 2. 循環に関する症状を示す対象者への看護 ・循環機能障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・循環機能障害に関するニーズ充足のための援助 (血液循環の促進、心負荷の軽減、急変対応：心電図・除細動器) 		講義	
7	2	<ol style="list-style-type: none"> 3. 栄養や代謝に関する症状を示す対象者への看護 ・栄養・代謝障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・栄養・代謝障害に関するニーズ充足のための援助 (食欲不振・過食時の看護、嚥下訓練、非経口栄養法) 		講義	
8	2	呼吸に関する症状を示す対象者への看護の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な換気促進援助、酸素投与、酸素ボンベ 循環および栄養・代謝に関する症状を示す対象者への看護の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・ショック体位 ・経管栄養 		演習	
9	2	<ol style="list-style-type: none"> 4. 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 ・排泄障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・排泄障害に関するニーズ充足のための援助 (排泄機能障害を補う援助、二次的予防の予防、薬剤や医療処置を用いた援助：導尿・摘便・浣腸) 		講義	
10	4	排泄に関連する症状を示す対象者への看護の実際 <ul style="list-style-type: none"> ・導尿：一時的導尿・持続的導尿 ・浣腸 ・摘便 		演習	

1 1	2	5. 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 ・安全や生体防御機能のメカニズムとアセスメント ・安全や生体防御機能障害に関するニーズ充足のための援助 (安全を守るための援助、高体温・低体温の援助、 視覚・聴覚障害のある対象への援助)	講義
1 2	2	安全・生体防御機能障害、安楽の変調に対する看護の実際 ・罨法	演習
1 3	2	6. 安楽に関連する症状を示す対象者への看護 ・安楽に関する症状メカニズムとアセスメント ・安楽に関するニーズ充足に向けた看護援助 痛みのアセスメント、痛みに対する援助、リラクゼーション法 嘔気・嘔吐に対する援助	講義・演習
1 4	2	事例による看護実践の展開 医療機器を安全使用するための基礎的知識と看護	講義・演習
授業時間外の 学習		・提示された課題に対し、自分が実践する姿をイメージし、多角的視点で思考し実習でも使用できるよう工夫すること。 ・演習後は事後レポート等を提出する。(詳細は演習時に説明)	
テキスト		香春知永 他：系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院	
参考文献		吉田みつ子 他 編：実習で使える看護技術アドバンス，インターメディカ 近藤一郎 他：看護がみえる vol.2 臨床看護技術，メディックメディア	
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法		食事援助技術の 5.経管栄養法による流動食の注入について、6.経鼻胃チューブの挿入、 排泄援助技術の 8.膀胱留置カテーテルの管理、9.導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入、 10.浣腸、11.排便、呼吸・循環を整える援助の 29.体温調節の援助、30.酸素吸入療法の実 施、安楽確保の技術の 70.安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアについて、演習時にチェ ックリストを用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。	
成績評価の 方法と基準		筆記試験 100 点 (ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては 減点することもある。)	

授業科目	基礎看護学臨床援助技術		担当 教員	氏名	大木 克己
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>看護基礎教育において臨床判断力の向上が課題となっている。臨床判断は、患者情報、臨床的な知識、状況に関する情報を考慮し、認知的な熟考と直感的な過程によって、観察事項、観察された情報の推論、援助活動の決定を下すことであることから、臨床や模擬的な臨床状況での実践を通して発達すると言われている。本科目では、既習（基礎分野・専門基礎分野・専門分野）の知識・技術を統合し、対象の特徴を踏まえ、看護目標を持った看護技術が実践できるように実務経験を活かし教授する。</p> <p>事例を提示し、グループワークを通して対象の状態に応じた看護目標を設定し、日常生活の援助計画を立案し、援助計画に沿った援助を実施できる能力を習得できるよう教授する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の特徴を考え、看護目標を持ち、援助技術を組み立てることができる。 2. 対象の状態を考慮した援助を実施することができる。 3. 実践の中での気づきを援助に活かすことができる。 4. グループメンバーとしての役割を果たすことができる。 5. 看護者としての自己のあり方について考えることができる。 				
授業計画	回	時間	内容	方法	
	1	2	ガイダンス 事例演習紹介（5 事例）	講義・演習	
	2	2	状況をふまえた技術の構築（事例 1）	演習	
	3	2	状況をふまえた技術練習（事例 1）	演習	
	4	2	状況をふまえた技術の構築（事例 2）	演習	
	5	2	状況をふまえた技術練習（事例 2）	演習	
	6	2	状況をふまえた技術の構築（事例 3）	演習	
	7	2	状況をふまえた技術練習（事例 3）	演習	
	8	2	状況をふまえた技術の構築（事例 4）	演習	
	9	2	状況をふまえた技術練習（事例 4）	演習	
	10	2	状況をふまえた技術の構築（事例 5）	演習	
	11	2	状況をふまえた技術練習（事例 5）	演習	
	12	2	技術テストオリエンテーション、状況をふまえた技術の構築	講義・演習	
	13	2	状況をふまえた技術練習	演習	
	14	2	状況をふまえた技術練習	演習	

15	2	まとめ	講義・演習
授業時間外の学習	授業に関する内容の予習と復習、演習課題の実施		
テキスト	茂野香おる 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 香春知永他：系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院		
参考文献	看護学教科書全般		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	環境調整技術の 1.快適な療養環境の整備、2.臥床患者のリネン交換、排泄援助技術の 7.排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)、活動・休息援助技術の 15.移乗介助、16.体位変換・保持、清潔・衣生活援助の 24.清拭、25.洗髪、感染予防技術の 58.必要な防護具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱、安楽確保の技術の 71.精神的安寧を保つためのケアについて、自己評価・他者(学生)評価を実施、さらに技術試験を実施して到達の確認を行う。		
成績評価の方法と基準	①課題レポート 100 点 (別紙評価表による)。60 点以上を合格とする。 (ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ等によっては減点することもある。) ②技術試験は 100 点とし、60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、①課題レポート 50%、②技術試験 50%で算出する。		

授業科目	暮らしの理解	担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・1年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	本科目では「暮らす」ということがどういうことなのかを多角的に考え、暮らしのなかでの生活の困難さや人と人がつながって生きる事の大切さについて演習を通して学びを深められるよう教授する。また、環境が健康に与える影響についても演習を通して考えられるよう病院での実務経験を活かし教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 暮らしを多方面から理解する。 2. 地域で暮らしを営む生活者を理解する。 3. 地域における人と人とのつながりについて知り、支えあうことの意義について理解する。 4. 暮らしの基盤としての地域を理解する。 5. 環境が健康に与える影響について考えを述べる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	オリエンテーション・人々の暮らしについて	講義
	2	2	暮らしの基盤としての地域の理解 オリエンテーション：フィールドワーク（「身近な人の暮らし」「暮らす地域の特性」）について	講義
	3	2	グループワークのオリエンテーション グループワーク① （フィールドワークのレポートを持ち寄り、「地域で健康的に暮らすための課題」「健康障害をもつ人が地域で暮らしつづけるための課題」について検討する）	演習
	4	2	グループワーク②	演習
	5	2	発表準備	演習
	6	3	発表会「暮らしと健康」	演習
	7	2	まとめ	講義
授業時間外の学習	夏季休暇中に「身近な人の暮らし」「暮らす地域の特性」についてフィールドワーク（インタビューを含む）を行い、レポートを作成する。			
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域在宅看護の基盤、医学書院			
参考文献	講義中必要に応じ随時紹介する			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	個人レポート 20 点、グループワークの参加度 20 点、最終レポート 60 点、計 100 点で評価を行う。			

授業科目	成人看護学概論	担当 教員	氏名	東本 七重
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・1年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	成人看護学が対象とする「成人」の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解させ、成人の健康状態や健康問題を最新の情報やデータを基に変動する社会生活から理解できるようにする。そして、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方や方法を学ばせる。さらに、各健康レベルの対象と看護の概要について理解させ、後に続く方法論に繋がる思考となるようにする。臨床での経験を活かし、事例を用いて学生がイメージ化できるようにする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題が理解できる。 2. 成人の生活スタイルと健康問題が理解できる。 3. 健康の保持増進と疾病予防のための対策が理解できる。 4. 成人の能力や生活背景を踏まえた看護が理解できる。 5. 職業に関する健康障害と看護が理解できる。 6. 感染症対策および成人のセクシュアリティに関する現代の問題が理解できる。 7. 成人を看護するときの基本的アプローチについて理解する。 8. 各健康レベルの特徴と看護が理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ガイダンス（科目の目標・学習内容など） 成人の概念、発達課題 成人各期（青年期・壮年期・向老期）の特徴	講義
	2	2	成人の生活スタイルと健康問題	講義
	3	2	健康に関する指標、生活と健康障害、職業と健康障害、 ストレスと健康障害、感染症の動向と問題 ほか	
	4	2	健康の保持増進と疾病予防のための対策と看護	講義
	5	2	基本的アプローチ	講義
	6	2	大人の学習と看護、人間関係、集団学習、倫理的判断、危機理論、 ストレス・ストレスコーピング、セルフケア、エンパワーメント、 コンプライアンス、自己効力、家族への支援、家族・患者会による 支援 ほか	
	7	2		
	8	2	健康の保持・増進のためのアプローチの実際	演習
	9	2		
	10	2	健康レベル別看護の特徴・・・急性期の看護	講義
	11	2	健康レベル別看護の特徴・・・周手術期の看護	講義
	12	2	健康レベル別看護の特徴・・・回復期の看護	講義
	13	2	健康レベル別看護の特徴・・・慢性期の看護	講義
	14	2	健康レベル別看護の特徴・・・終末期の看護	講義
	15	2	まとめ（国家試験問題に取り組み、振り返り）	講義

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前に教科書や資料の準備をした上で授業に臨むこと。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。グループ編成及び内容については別途指示する。 ・授業で説明した基本的アプローチの方法を使い、事例に合った看護を考える。
テキスト	小松浩子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論，医学書院 国民衛生の動向 2022/2023，厚生労働省統計協会
参考文献	授業中に必要に応じて指定する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）100点で評価する。

授業科目	老年看護学概論	担当 教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・1年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>超高齢社会の中で生活する高齢者の全体像を理解するために老いるということはどういうことか、高齢者疑似体験や高齢者へのライフインタビューを通して個々の生きてきた生活背景や人生を知り、ライフサイクルの中で老年期をとらえ、高齢者の特徴と健康生活について学習を進める。また、高齢者の安全や権利擁護、倫理的課題等社会的背景を理解し、社会の中で求められている老年看護の役割を「高齢者」「家族」「生活環境」「ヘルスケアシステム」の4つの側面から学習を進める。本科目は、これから老年看護を学修する学生の礎となる重要な科目である。教員の実務経験を活かし臨地での場面を取り上げながら授業を進める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期の特徴が理解できる。 2. 高齢者の健康と生活を支える保健医療福祉政策が理解できる。 3. 老年看護に携わる看護師の倫理的態度について理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	老いるということ 老いをいきるということ 高齢者の特徴と理解	講義
	2	2	高齢者の特徴と理解 ライフインタビュー 身体の高齢変化	講義
	3	2	身体の高齢変化 (呼吸、循環、運動器、感覚器、消化器、腎臓、ホルモン) 【高齢者疑似体験】	演習
	4	2	身体の高齢変化 (呼吸、循環、運動器、感覚器、消化器、腎臓、ホルモン) 【高齢者疑似体験】	演習
	5	2	身体の高齢変化 高齢者の生活機能を支える セクシャリティ 社会参加	講義
	6	2	高齢者の特徴と理解 超高齢社会と社会保障	講義
	7	2	高齢者をとりまく社会 高齢社会における保健医療福祉の動向	講義
	8	2	老年看護の基本 老年看護の役割 老年看護における理論	講義
	9	2	高齢社会における権利擁護	講義
	10	2	生活・療養の場における看護 高齢者とヘルスプロモーション 保健医療福祉施設における看護 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護	講義
	11	2	「身近な地域で生活する高齢者の理解」	演習
	12	2	「身近な地域で生活する高齢者の理解」	演習

13	2	高齢者のリスクマネジメント 高齢者と医療安全	講義・演習
14	2	高齢者と救命救急 高齢者の災害	講義
15	2	エンドオブライフケア 「生ききる」ことを支えるケア 高齢者の尊厳をまもるための支援	講義
授業時間外の 学習		授業に関する内容の予習と復習 課題の実施	
テキスト		北川公子 他：系統看護学講座 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 老年看護・病態・疾患論，医学書院	
参考文献		国民衛生の動向 2023 /2024 国民の福祉と介護の動向 2023/2024	
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法		該当なし	
成績評価の 方法と基準		筆記試験 100 点満点で評価する。 60 点以上を合格とする。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。	

授業科目	小児看護学概論	担当 教員	氏名	下川原 尚子
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて助産師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	小児看護とは何か考える上で対象を理解するために必要な知識を教授する。小児看護の対象は健康障害のある子どもだけでなくあらゆる健康レベルにある子どもとその家族である。子どもの成長発達の特徴を理解し、それらを学ぶ意義について考えられるようにする。また、子どもと家族を取り巻く社会について学習し、広い視野をもち対象を理解できるようにする。子どもの権利についても教授し、一人の人として子どもとどのように向き合うのか考えられる授業とする。小児看護の役割と課題についての理解を深め、小児看護とは何か考える基礎となるように実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の対象を理解する。 2. 小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目標について理解できる。 3. 小児看護における倫理と子どもの権利を守るための看護を理解できる。 4. 子どもと家族を取り巻く環境を理解し、社会がどのように子どもや家族を保護し、対策を講じているかを統計的・行政的側面から理解できる。 5. 小児看護の特徴と機能・役割について理解できる。 6. 子どもの成長発達と評価の視点を理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	小児看護の特徴と理念・小児看護の変遷・小児看護における倫理	講義
	2	2	子どもと家族をとりまく環境・家族の特徴とアセスメント	講義・演習
	3	2	小児保健・児童虐待	講義・演習
	4	2	母子保健・予防接種・学校保健	講義
	5	2	子どもの成長発達（身体的発達）	講義・演習
	6	2	子どもの成長発達（身体的発達）	講義・演習
	7	2	子どもの成長発達（心理社会的発達）・子どもの安全	講義
	8	1	まとめ（子どもの理解）	講義・GW
授業時間外の学習	チャイルドビジョンを実際に用い、活動する。 教科書の該当箇所を読み、疑問や分かりにくい所を明らかにして講義を受ける。 事前課題・授業終了後の課題に取り組み期日までに提出する。			
テキスト	奈良間美保 他：系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院 奈良間美保 他：系統看護学講座 小児看護学 2 小児看護学各論，医学書院			
参考文献	筒井真優美：小児看護学，日総研 など			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	筆記試験 100 点で評価する。			

授業科目	母性看護学概論		担当 教員	氏名	右田 文
単位・時間数	1単位・15時間			所属	無
対象学生	2023年度・1年生			担当者実務経験	保健所にて助産師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	母性看護の基盤となるセクシャリティとリプロダクティブヘルス/ライツの概念を教授する。母性看護は、女性の一生を通通じて考える必要があることを理解できるようにする。また、母性・父性の役割を考えさせ、母性のライフサイクル各期の特徴やそれらを取り巻く環境を理解し、対象に応じた看護を理解できるように実務経験を交え教授する。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.母性とは何かを知り、母性看護の基盤となる概念（セクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ）を理解できる。 2.ヒトの発生・性分化のメカニズムと性周期について説明できる。 3.母子保健統計に関する日本・世界の動向を理解できる。 4.母性看護における倫理的問題を理解できる。 5.母子の健康に関する法律・制度・支援施策について説明できる。 6.女性のライフサイクル各期における看護が理解できる。 				
授業計画	回	時間	内容		方法
	1	2	母性看護の基盤となる概念		講義
	2	2	母性看護の基盤となる概念		講義
	3	2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷		講義
	4	2	母性看護の対象を取り社会の現状		講義
	5	2	母性看護の対象の理解		講義
	6	2	女性のライフステージ各期における看護：思春期		講義
	7	2	女性のライフステージ各期における看護：成熟期		講義
	8	1	女性のライフステージ各期における看護：更年期・老年期		講義
授業時間外の学習	母性保健統計に関する課題				
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 母性看護学 1 母性看護学概論，医学書院 小田清一他：国民衛生の動向 2023/2024，厚生労働統計協会				
参考文献	増田 雅暢他：国民の福祉と介護の動向，厚生労働統計協会 DVD 目で見える解剖と生理 Vol 13 生殖（47分）				
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし				
成績評価の方法と基準	終了試験 80 点、課題（母性看護に関する統計）20 点の計 100 点で評価する。				

授業科目	精神保健看護学概論		担当 教員	氏名	鉦賀 千夏
単位・時間数	1単位・15時間			所属	専任教員
対象学生	2023年度・1年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>精神の健康の回復・維持・向上を目的とする精神看護および精神保健の観点から、心の健康問題の身近さや心の健康の重要性および精神の健康を維持するしくみや精神の危機について概説する。また、日本における精神保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷および日本が抱える課題を踏まえ、精神看護に携わる者としてのケアの前提や原則、理論について教授する。看護師経験および精神看護学領域担当として実習指導により得た知識・経験をもとに、実践に活かせる知識・技術の教授を行う。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心の健康問題が誰にでも起こり得る身近なものであることを認識し、精神医療・看護における基本的人権と倫理問題を理解し、説明できる。 2. こころの構造と機能が説明でき、こころの健康概念を理解することができる。 3. 集団力動、精神健康を保つための機能（防衛機制、ストレスマネジメント等）について理解できる。 4. ライフサイクル各期の発達課題に応じた精神的危機と看護の役割が理解できる。 5. 精神保健・医療・福祉のこれまでのあゆみを理解することができ、精神保健・医療福祉における現状と課題について考えることができる。 				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	<p>ガイダンス</p> <p>第1章 精神看護学で学ぶこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神看護学とはなにか ・「心のケア」と現代社会 		<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の体験と精神看護 ・精神看護の課題 	講義
2	3	<p>第2章 精神保健の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神の健康とは ・心身の健康に及ぼすストレスの影響 ・精神障害の捉え方 			講義
3	2	<p>第3章 人間の心のはたらきと人格の形成</p> <p>心のはたらき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神力動理論（フロイト） ・自我の構造と防衛機制 			講義
4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・精神症状を理解するための基礎知識 			講義
5	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルと精神保健 			講義
6	2	<p>第4章 関係のなかの人間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システムとしての人間関係 ・人間と集団 		<ul style="list-style-type: none"> ・全体としての家族 	講義
7	2	<p>第7章 社会のなかの精神障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神障害と法制度 			講義
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前に教科書の内容を確認した上で授業に臨むこと。 ・ワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示する。 ・課題は指定された期限日までに提出する。 				

テキスト	武井 麻子他：系統看護学講座 精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎，医学書院 萱間真美，稲垣 中：精神看護学Ⅰ 精神保健・心の健康と地域包括ケア，南江堂
参考文献	川野 雅資：精神看護学Ⅱ（精神臨床看護学），ヌーヴェルヒロカワ 森 千鶴：これからの精神看護学，ピラールプラス 平澤 久一：非言語的コミュニケーション UP 術，メディカ出版 水谷 緑：精神科ナースになったわけ，KADOKAWA（コミック本） 佐藤 秀峰：ブラックジャックによろしく，モーニング KC（コミック本）
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）100点で評価する。 授業態度、課題の遅れ等は減点することがある。

授業科目	基礎看護学実習 1	担当 教員	氏名	大木 克己															
単位・時間数	1 単位・45 時間		所属	専任教員															
対象学生	2023 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務															
受講要件	なし																		
授業概要	看護を行う上で、対象者の治療環境や療養環境を理解することは重要なことである。ここでは、既習内容と教員の看護師としての実務経験を基に患者の療養環境を理解させ、入院が患者に及ぼす影響や患者のニーズとは何か考えさせ、看護援助の体験を通してその意味について臨地の状況に合わせ学習させる。また、看護師としての姿勢について学習し、自己の態度を振り返り、看護を展開する基礎的な考え方を学ぶ実習としたい。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場である病院の役割や機能および患者の療養環境が理解できる。 2. 患者を支える看護師を中心とした医療従事者の役割・機能を理解できる。 3. 入院に伴う患者の気持ちを考え、患者を尊重した態度で接することができる。 4. 患者とより良い人間関係を成立させるために、患者および患者を取り巻く人々と効果的なコミュニケーションが図ることができる。 5. 全人的な視点の持ち方を理解するとともに、患者の未充足のニーズを見出し、必要な援助を考えることができる。 6. 安全・安楽・自立を踏まえ、患者のニーズを充足させるための援助を指導者の指導のもとで実施できる。 7. 対象に必要な看護を展開する過程を理解し、実践できる。 																		
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>時間数</th> <th>内容</th> <th>実習時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A. 病院の理解</td> <td>6 時間</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院および看護の機能・役割 2. 看護師としての基本姿勢 </td> <td>1 年次 6 月 1 日間</td> <td>北九州総合病院</td> </tr> <tr> <td>B. 入院患者の理解</td> <td>39 時間</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養環境の理解、快適な入院生活を送るために必要な環境の在り方 2. 自己のコミュニケーション傾向およびコミュニケーションが他者に与える影響 3. 入院に伴う患者の心理、未充足のニーズに対する看護 </td> <td>1 年次 1 月 5 日間</td> <td>①北九州総合病院 ②学内</td> </tr> </tbody> </table>				区分	時間数	内容	実習時期	実習場所	A. 病院の理解	6 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院および看護の機能・役割 2. 看護師としての基本姿勢 	1 年次 6 月 1 日間	北九州総合病院	B. 入院患者の理解	39 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養環境の理解、快適な入院生活を送るために必要な環境の在り方 2. 自己のコミュニケーション傾向およびコミュニケーションが他者に与える影響 3. 入院に伴う患者の心理、未充足のニーズに対する看護 	1 年次 1 月 5 日間	①北九州総合病院 ②学内
区分	時間数	内容	実習時期	実習場所															
A. 病院の理解	6 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院および看護の機能・役割 2. 看護師としての基本姿勢 	1 年次 6 月 1 日間	北九州総合病院															
B. 入院患者の理解	39 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の療養環境の理解、快適な入院生活を送るために必要な環境の在り方 2. 自己のコミュニケーション傾向およびコミュニケーションが他者に与える影響 3. 入院に伴う患者の心理、未充足のニーズに対する看護 	1 年次 1 月 5 日間	①北九州総合病院 ②学内															
授業時間外の学習	<p>実習前に事前学習を行う。詳細は事前学習作成時に説明する。事前学習は臨地で見直すことが求められるため、項目、内容ともに不備のないよう作成すること。</p> <p>基礎看護学実習 1 A では病院の役割、院内の環境、療養環境について学習する。基礎看護学実習 1 B ではコミュニケーション、人間の基本的ニーズ、発達課題、療養環境、日常生活援助に関する内容について学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習までに、各自実習で行うバイタルサイン測定や看護技術の練習をすること。 ・まとめ発表および事例検討会の際は担当教員の指導の下、テーマの理解が深められるように資料を作成して臨むこと。 																		

テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術 I ，医学書院 任 和子他：系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護技術 II ，医学書院 香春知永他：系統看護学講座 基礎看護学 4 臨床看護総論 ，医学書院 任 和子他：基礎・臨床看護技術 ，医学書院
参考文献	各科目の授業で使用された文献を使用する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	技術経験録による。
成績評価の方法と基準	(1) 「基礎看護学実習 1 A」及び「基礎看護学実習 1-B」の実習評価表を用いて各 100 点満点で評価する。(基礎看護学実習 1-B は 60 点未満の場合、再実習とする) (2) 基礎看護学実習 1 全体の評価割合は、基礎看護学実習 1-A10%、②基礎看護学実習 1-B90%で算出し、その合算を最終評価点とする。

2023年度 Syllabus

(2年生)



西日本看護専門学校

授業科目	臨床栄養学	担当 教員	氏名	今村 恵美子
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	産業医科大学病院
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて管理栄養士として勤務
受講要件	なし			
授業概要	各ライフステージや疾病の予防、健康障害時の適切な栄養素の摂取について学び、健康を保つための「食」と看護の関連について病院での実務経験をもとに講義する。また、治療食に対する理解を深められる授業とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージ各期における食事摂取基準の特徴と望ましい食生活を説明できる。 2. 健康と栄養の関連を理解し、疾病予防および疾患ごとの食事栄養療法を理解し病態に応じた栄養補給について説明できる。 3. 栄養アセスメントの方法と判定基準を理解し、栄養・食事指導と関連づけることができる。 			
授業計画 回	時間	内容		方法
1	2	食品成分と食事摂取基準		講義
2	2	人生各期における健康生活と栄養		講義
3	2	療養生活と栄養		講義
4	2	疾患別の栄養食事療法		講義
5	2	疾患別の栄養食事療法		講義
6	3	栄養食事療法のための治療用食品の実際		演習・講義
7	2	栄養アセスメントと食事指導、看護にいかす栄養管理		講義
授業時間外の 学習	テキストの重要用語や学習達成チェックを活用し、授業で学んだことを復習する。 課題提出 2 回（第 1 回配布 ⇒ 第 2 回提出、第 5 回配布 ⇒ 第 6 回提出）			
テキスト	關戸 啓子 編集：ナーシンググラフィカ 臨床栄養学，メディカ出版 日本糖尿病学会 編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第 7 版，文光堂			
参考文献	必要に応じ随時指示する。			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			
成績評価の 方法と基準	評価はテスト 80 点、課題提出 20 点、計 100 点で評価する。			

授業科目	診断治療論 4		担当 教員	氏名	①竹田貴雄 他 ②金澤耕介
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	①北九州総合病院 ②九州労災病院
対象学生	2023 年度・2 年生				担当者実務経験
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患や治療、病期に伴う疾患の定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 4 では、麻酔、救急、輸血療法、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科について、オムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	手術療法や急性病態を支える麻酔や救急、代表的な耳鼻科・眼科・皮膚科系疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。また、輸血療法の考え方と方法を説明できる。				
区分	時間	内容		方法	
A. 麻酔	2	麻酔総論 麻酔とは 局所麻酔・全身麻酔		講義	
	2	麻酔各論 麻酔下の管理、麻酔の実際		講義	
B. 救急	4	救急総論 救急医療とは 救急時の対応、救急患者の評価		講義	
	4	主要病態に対する救急処置		講義	
	4	BLS 演習		演習	
C. 精神疾患	2	総論：偏見、脳機能障害と精神障害、精神疾患分類 診断：面接法、精神症状、検査		講義	
	2	治療：薬物療法、心理療法、社会療法		講義	
	2	各論 1：身体因性精神障害 (認知症、せん妄、薬剤性精神障害など)		講義	
	2	各論 2：精神病性障害 (統合失調症など)		講義	
	2	各論 3：気分障害 (うつ病、躁うつ病など)		講義	
	2	各論 4：神経症性障害とストレス関連疾患 (神経症、PTSD、適応障害など)		講義	
	2	各論 5：その他の疾患や社会的トピック (発達障害、自殺、薬物乱用、いじめ、不登校など)		講義	
D. 形成外科	2	小児先天異常：①口唇裂・口蓋裂、② 手足の先天異常 母斑・血管腫・腫瘍 等 熱傷、褥瘡・難治性皮膚潰瘍		講義	
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。				

テキスト	<p>A：矢永勝彦 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院</p> <p>B：山勢博彰 他：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教 監修：ゼロからわかる救急・急変看護，成美堂出版</p> <p>C：武井麻子 他：系統看護学講座 精神看護学1 精神看護学の基礎，医学書院</p> <p>D：テキストなし</p>
参考文献	各講師の配布資料
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	区分 B.救急において、救急救命処置技術の 48.一次救命処置(BLS)についてチェック表を用い、自己評価、他者評価（学生及び講師）を行う。
成績評価の方法と基準	<p>各区分別に試験（100点）を行う。（但し、D.形成外科を除く）</p> <p>最終評価の割合は、Aは15%、Bは35%、Cは50%とする。</p> <p>最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。</p> <p>最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。</p>

授業科目	診断治療論 5		担当 教員	氏名	①藤本 英典 他 ②大森 俊 ③成瀬 翔 ④石 明寛
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	①北九州総合病院 ②小倉第一病院 ③西日本産業衛生会 ④無
対象学生	2023 年度・2 年生				
受講要件	なし			担当者実務経験	病院等にて医師として勤務
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患や治療、ライフサイクルに伴う疾患の定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 5 では、産科、婦人科、精神科について、オムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な産科・婦人科・精神疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。				
区分	時間	内容			方法
A. 産科疾患	2	妊娠の異常 ハイリスク妊娠			講義
	2	妊娠の異常 妊娠期の感染症、妊娠疾患、多胎妊娠、 妊娠持続期間の異常、異所妊娠（子宮外妊娠）			講義
	2	分娩の異常 産道の異常、娩出力の異常、胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常、胎児機能不全、分娩時の損傷			講義
	2	分娩の異常と看護 分娩 3 期および分娩直後の異常、分娩時異常出血 産科処置と産科手術新生児			講義
	2	新生児の異常と看護 新生児仮死、分娩外傷			講義
	2	産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、精神障害			講義
B. 婦人科疾患	3	婦人科疾患の症状とその病態生理 婦人科疾患の検査と治療・処置			講義
	3	婦人科疾患 ①生殖機能障害：月経異常、更年期障害 ②女性生殖器疾患：子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍 ③感染症：STD			講義
C. 皮膚疾患	2	皮膚疾患の症状とその病態生理 皮膚疾患の検査と治療・処置			講義
	2	皮膚疾患 湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎 褥瘡、腫瘍			講義
D. 眼科疾患	2	眼科疾患の症状とその病態生理 眼科疾患の検査と治療・処置			講義
	2	眼科疾患 白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症、感染症			講義
E. 耳鼻科疾患	2	耳の疾患			講義
	2	鼻・口腔・咽頭喉頭の疾患			講義

授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。
テキスト	A：森恵美 他：系統看護学講座 母性看護学2 母性看護学各論，医学書院 B：末岡浩 他：系統看護学講座 成人看護学9 女性生殖器，医学書院 C：渡辺晋一 他：系統看護学講座 成人看護学12 皮膚，医学書院 D：大鹿哲郎 他：系統看護学講座 成人看護学13 眼，医学書院 E：小松浩子 他：系統看護学講座 成人看護学14 耳鼻咽喉，医学書院
参考文献	各講師の配布資料
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100点）を行う。 最終評価の割合は、Aは40%、B・C・D・Eは各15%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。

授業科目	診断治療論 6		担当 教員	氏名	石井雅宏 他
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	北九州総合病院
対象学生	2023 年度・2 年生			担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患や治療、ライフサイクルに伴う疾患の定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 6 では、小児疾患、形成外科的治療について、オムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な小児疾患、形成外科的治療について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。				
区分	時間	内容			方法
小児疾患	2	総論			講義
	2	先天異常・新生児の疾患			講義
	2	吸器疾患・循環器疾患			講義
	2	内分泌・代謝疾患 腎泌尿器疾患			講義
	2	感染症 消化器疾患			講義
	2	血液疾患 腫瘍			講義
	2	神経疾患 免疫・アレルギー疾患			講義
	1	まとめ			講義
授業時間外の 学習	各時間の予習復習を行う。				
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学 2 小児看護学各論，医学書院				
参考文献	各講師の配布資料				
「看護師教育 の技術項目」 の 到達確認方法	該当なし				
成績評価の 方法と基準	A.小児疾患の試験（100 点）を行う。				

授業科目	看護における病態理解	担当 教員	氏名	東本 七重
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	既習（解剖生理学、病理学、診断治療論、臨床検査、薬理学等）の知識をもとに、疾病とそれが及ぼす症候やメカニズム、検査、治療との関連、さらに、患者に及ぼす影響についての考え方を理解できるよう教授する。このことにより、看護実践の基盤となる対象の健康の状態および障害に関する観察力と判断力を高め、さまざまな状況にある人々の健康課題に対する看護実践の根拠が理解できるよう病院での実務経験を活かして講義を行う。			
到達目標	解剖生理学、病理学、診断治療論、臨床検査、薬理学等の知識をもとに、疾病とそれが及ぼす症候やメカニズム、検査、治療との関連、患者に及ぼす影響についての考え方を理解する。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	2		ガイダンス 疾患や症状についてその特徴やそれらが生じるしくみ、検査や治療等との関連、予測 ①COPD・呼吸不全 呼吸困難（呼吸のしくみ、酸塩基平衡）	講義 演習
2	2		疾患や症状についてその特徴やそれらが生じるしくみ、検査や治療等との関連、予測 ①COPD・呼吸不全 呼吸機能検査、全身への影響、治療とセルフマネジメントの必要性	講義 演習
3	1		①COPD・呼吸不全 まとめ、小テスト ②③④のガイダンス	講義 演習
4	2		主な疾患やその症状についてその特徴やそれらが生じるしくみ ②虚血性心疾患・心不全 ③肝硬変 ④腎不全	協同学習 ジグソー法
5	2		主な疾患やその症状についてその特徴やそれらが生じるしくみ ②虚血性心疾患・心不全 ③肝硬変 ④腎不全	協同学習 ジグソー法
6	2		中間発表 ②虚血性心疾患・心不全 ③肝硬変 ④腎不全	演習
7	2		主な疾患やその症状・検査・治療が患者に及ぼす影響 ②虚血性心疾患・心不全 ③肝硬変 ④腎不全	協同学習 ジグソー法
8	2		②③④の発表・まとめ、小テスト	演習
授業時間外の学習	学習課題（ワークシート）について予習復習を行い講義に臨む。 学習報告書の作成			
テキスト	解剖生理学、病理学、診断治療論、臨床検査、薬理学等のテキスト			
参考文献	必要に応じ随時指示する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	評価は、テスト 70 点、課題（ワークシート・学習報告書）30 点で行う。			

授業科目	公衆衛生学	担当 教員	氏名	小田原 三津人
単位・時間数	1単位・30時間		所属	福岡県赤十字血液センター 北九州事業所
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	保健所にて医師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	保健統計データや保健所における食品衛生や感染症等の実務経験をもとにした具体的な事例を検討しながら、集団レベルでの健康の増進と疾病の予防を考えるという公衆衛生学的な考え方の理解を目指す。また、プライマリヘルスケアの考え方による衛生行政組織、保健・医療・福祉のネットワーク等についての理解を目指す。さらに、顕在化している地球温暖化問題などから環境保健問題への理解を図る。ヘルスプロモーションの考え方や地域における組織的な保健活動の実際やこれからの超高齢社会における地域包括ケアシステムについての理解を目指す。また、看護師業務を踏まえながら産業保健活動についての理解を図る。			
到達目標	公衆衛生行政の活動を理解することで、医療を支える地域社会の背景を理解し、看護師としての視野を広め、看護活動に活かせるようにする。集団レベルでの健康の増進と疾病の予防を考えるという公衆衛生学的な考え方を身に付ける。健康・疾病と社会・環境との関わりから、社会の中で疾病と健康を扱うための理論と実践を習得する。ライフステージに応じた実践活動としての保健サービスから、疾病のコントロールとヘルスプロモーションの考え方を習得する。			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	3	公衆衛生とは：公衆衛生の概念、健康とは、公衆衛生の歴史 地域保健活動：地域保健法の理念と方針、医療サービスの提供 体制、保健・医療従事者、救急医療・災害医療 ヘルスサービスの方向（国際保健）	講義	
2	3	健康の指標：人口問題（国勢調査）、 人口動態統計（合計特殊出生率・年齢調整死亡率・生命表）、 健康状態と受療状況（国民生活基礎調査、患者調査）	講義	
3	3	健康と環境、疫学的方法：集団の健康被害の理解、集団検診、 疫学的因果関係（相対危険度・寄与危険度）、 臨床疫学とエビデンス 健康教育とヘルスプロモーション	講義	
4	3	健康と環境：健康の多要因 生活環境の保全：地域環境、生活環境の安全、 公害健康被害補償制度、ごみ・廃棄物の処理 食品保健と栄養：食品の安全、食品衛生管理	講義	
5	3	感染症とその予防：感染症の動向と感染症法の制定、 感染症予防の基本その他の感染症予防対策、 主要な感染症（健康危機管理）	講義	
6	3	母子保健：歴史的経過、統計からみた母子保健の現状、 母子保健サービスの現状、これからの母子保健 学校保健：学校保健制度の歩み、 学校保健を支える関係法令と関係団体、 学校における保健管理業務、学校安全、学校給食	講義	
7	3	生活習慣病対策：生活習慣病の概念と現状、 中・高年者に多い疾患の予防、老年保健の歩み	講義	

8	3	生活習慣病対策：健康日本 21 と健康増進法、主な生活習慣と健康 医療制度：高齢者医療制度、介護保険、国民医療費	講義
9	3	精神保健福祉：法制度の変遷、近年の精神保健福祉行政、 精神障害者のリハビリテーション、人間発達と精神保健、 精神保健の新たな課題 難病対策 (障害者に関する対策・歯科保健対策、その他の疾病対策) (医務・薬事対策)	講義
10	3	産業保健：労働衛生管理のしくみ、 職業性疾病とその予防、作業関連 疾患、労働者の健康を増進し、働きやすくする施策 これからの公衆衛生	講義
授業時間外の 学習		予習として教科書の該当部分に目を通すこと。復習は講義のあと早めに行うこと。 特にポイントを整理しておくこと。	
テキスト		清水忠彦：わかりやすい公衆衛生学　ニューヴェルヒロカワ 国民衛生の動向　2022/2023, 厚生統計協会	
参考文献		なし	
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法		該当なし	
成績評価の 方法と基準		試験は中間と終了時（国家試験と同じ形式、各 100 点）に 2 回行う。中間試験・終了試験の平均点を最終評価とし、60 点以上を合格とする。	

授業科目	社会保障制度		担当 教員	氏名	戸丸 純一
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	とまるソーシャルステーション
対象学生	2023 年度・2 年生			担当者実務経験	ソーシャルステーションにて 社会福祉士として勤務
受講要件	なし				
授業概要	社会保障・社会福祉に関する概要を説明し、具体的な社会保障や社会福祉の制度について教授します。また、人々が遭遇するであろう生活上の困難や危機に対応するために必要な社会保障制度を実際の経験をふまえて講義し、看護師をはじめとする多職種との連携についても教授します。				
到達目標	1. 社会保障・社会福祉の概要を理解する。 2. 社会保障や社会福祉制度の現状を理解する。				
授業計画 回	時間	内容		方法	
1	4	講義の進め方、社会保障・社会福祉とは、社会保障の歴史		講義	
2	4	医療保障制度、(沿革、医療保険制度の種類、高額療養費制度など)		講義	
3	4	介護保障 (高齢者医療と介護保険)		講義	
4	4	所得保障 (年金・労災など)		講義	
5	4	所得保障 (公的扶助制度など)		講義	
6	4	社会福祉の歴史と各分野とサービス (各福祉制度など)		講義	
7	4	連携について		講義	
8	2	援助技術、振り返り		講義・演習	
授業時間外の 学習	毎時間の復習を必ず行っておいください。				
テキスト	福田素生 他：社会保障・社会福祉，医学書院				
参考文献	日本医療ソーシャルワーク研究会 編集：医療福祉総合ガイドブック，医学書院				
成績評価の 方法と基準	筆記試験 (80%)、授業中の積極的な発言や質問、演習でのコミュニケーション力、理解度 (20%) で評価する。				

授業科目	関係法規		担当 教員	氏名	小田原 三津人
単位・時間数	1単位・15時間			所属	福岡県赤十字血液センター 北九州事業所
対象学生	2023年度・2年生				
受講要件	なし			担当者実務経験	保健所にて医師として勤務
授業概要	看護師として患者を守ることができるように、保健所が行う病院に対する立入検査や医療事故に関わる判例、実務経験等を通して、必要な保健・医療・福祉制度の理解を目指す。同時に看護師として職務を遂行し、自分を守ることができるように、労働衛生法規等関係法規の理解を目指す。また、地域包括ケアシステムなど保健・医療・福祉の連携の必要性の理解を図る。				
到達目標	安全で良質な医療・看護の提供ができるように、患者の権利やインフォームド・コンセント等について習得する。看護師として職務を遂行し、自分を守るために必要な関係法規を習得する。保健・医療・福祉の連携の重要性を習得する。				
授業計画 回	時間	内容			方法
1	3	なぜ、法規について学ぶのか 法律の概要 (関連法規：民法・刑法、患者の権利) 医療法規：保健師助産師看護師法			講義
2	3	医療法規：医師法等（医行為・医業類似行為・診療契約・医療事故） 医療法①			講義
3	3	医療法規：医療法②（医療計画・救急医療） 臓器移植法、母体保護法、献体法等 薬事法規：薬事法（薬害）、麻薬及び向精神薬取締法、安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律			講義
4	3	福祉関係法規：医療保険、介護保険法、社会福祉法制度（社会福祉法、児童福祉法、身体障害者福祉法、障害者自立支援法等）			講義
5	3	保健衛生法規：地域保健法、母子保健法、感染症法等 生活衛生法規：食品衛生法、廃棄物処理法、環境基本法等 労働関連法規：労働基準法、労働安全衛生法等			講義
授業時間外の 学習	予習として教科書の該当部分に目を通すこと。復習は講義のあと早めに行うこと。特にポイントを整理しておくこと。				
テキスト	平林勝政 他 編集，ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度，メディカ出版 国民衛生の動向 2022/2023，厚生統計協会				
参考文献	勝又浜子 他 編集：看護法令要覧 令和5年版，日本看護協会出版会				
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法	該当なし				
成績評価の 方法と基準	終了時試験（国家試験と同じ形式、100点）で評価する。				

授業科目	看護研究	担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	看護研究は、よりよい看護実践のための研究成果の活用や自己の看護の専門性の追求のために看護師にとって不可欠である。本講義は、看護研究の基礎知識を講義した後、研究論文に触れ、論文をクリティカルに読むこと、自己の看護実践を研究的な視点をもって検討すること、看護に関する問題意識を研究課題に変換し研究計画立案を行うことを課題としている。担当教員の研究実績も紹介しつつ、看護研究の意義と方法を理解し、多角的・論理的な思考を身につけることをめざす。また、3年生の看護観発表会に参加し、発表者の姿勢や発表方法について学ぶ機会を持つ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究論文がクリティークでき、看護実践における研究活動の意義が理解できる。 2. 自己の看護実践を振り返り、看護について検討しケースレポートにまとめることができる。 3. 自己の問題意識を研究課題として取り上げ、研究計画の概略を立案できる。 4. 看護研究の意義と研究方法が理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ガイダンス 看護研究とは 看護研究の意義 看護研究の手順	講義
	2	2	研究計画書の作成 研究方法の種類と方法	講義
	3	2	研究論文のクリティーク	演習
	4	2	研究論文のクリティーク	演習 (GW)
	5	2	研究論文のクリティーク発表会：多様な研究方法の理解	演習
	6	2	ケースレポート：計画	演習
	7	2	ケースレポート：文献検索	演習
	8	2	ケースレポート：レポート作成	演習
	9	2	ケースレポートの査読（発表者の選出） 研究テーマの選定・明確化、文献検索	演習 (GW)
	10	2	ケースレポート発表会	演習
	11	2	研究計画の作成：文献検索、研究方法の検討	演習 (GW)
	12	2	研究計画の作成：研究方法の検討、研究計画書作成	演習 (GW)
	13	2	研究計画の作成方法（発表会）	演習
	14	2	研究計画の講評・まとめ	講義
	15	2	3年生看護観発表会の聴講	演習
授業時間外の学習	授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。 論文のクリティーク、ケースレポート等、授業時間の時間を使用して、計画的に取り組んでほしい。			

テキスト	坂下玲子 他：系統看護学講座 看護研究，医学書院
参考文献	黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step，医学書院 南裕子 他：看護における研究，日本看護協会出版会
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）30点、論文のクリティーク 20点、ケースレポート 30点、研究計画書 20点、計 100点で評価する。 なお、ケースレポート評価が6割（18点）に満たない者は再レポートを課す。

授業科目	地域・在宅看護論概論	担当 教員	氏名	①福田敦子 ②藤井直美
単位・時間数	1単位・30時間		所属	①専任教員
対象学生	2023年度・2年生			②湯川訪問看護ステーション
受講要件	なし		担当者実務経験	①病院にて看護師として勤務 ②訪問看護ステーションにて 看護師として勤務
授業概要	地域・在宅看護の歴史や必要とされる社会的な背景を踏まえ、地域・在宅看護の概念と対象・活動の場や連携について講義のみでなく演習を通じて学生の理解が深まるような学習内容とする。			
到達目標	1.地域・在宅看護の対象について理解することができる。 2.地域・在宅看護の歴史や基盤となる概念について理解することができる。 3.地域における健康と暮らしを支える看護について理解することができる。 4.地域・在宅看護実践の場と連携について理解することができる。 5.地域・在宅看護に関わる制度とその活用について理解することができる。			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	授業オリエンテーション、地域・在宅看護を学ぶ目的	講義
	2	2	地域・在宅看護の基盤となる概念、歴史	講義
	3	2	地域・在宅看護論の対象	講義
	4	2	地域包括ケアシステムについて	講義
	5	2	看護が提供される多様な場の理解と連携	講義
	6	2	地域・在宅看護を支える法・制度・社会資源	講義
	7	2	介護保険について	講義
	8	2	介護保険について	演習
	9	2	訪問看護制度について	講義
	10	2	地域・在宅看護における家族看護	講義
	11	2	多職種連携・協働の意義と方法	講義
	12	2	多職種連携・協働の意義と方法	演習
	13	2	権利保障に関する法と施策	講義
	14	2	在宅ケアの概要と実際	講義
	15	2	多職種との連携の実際	講義
授業時間外の学習	講義に関する予習や復習を行う			
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論1，医学書院			
参考文献	必用に応じて講義内で紹介する。			

「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）100点で評価する。

授業科目	地域・在宅看護論援助技術		担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1単位・30時間			所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	地域・在宅で暮らす人々に必要な看護の基本について講義内容をもとに視聴覚教材を用いて理解を深める教授を行う。在宅看護では療養者・家族の多様な価値観や思いを尊重しながら生活をサポートすることを実感できるようグループ間の意見交換の機会を取り入れ学習をサポートしていく。また、担当者の訪問看護ステーションでの実務経験をもとに、学生が臨床場面をイメージしやすい講義・演習とする				
到達目標	1.地域・在宅看護に必要な基本技術について理解することができる。 2.地域・在宅看護の介入時期に応じた看護と継続性について理解できる。				
授業計画	回	時間	内容		方法
	1	2	オリエンテーション、地域・在宅看護に必要な技術の特徴		講義
	2	2	地域・在宅での健康の保持増進・疾病予防に関する看護		講義
	3	2	治療の場から在宅への移行期への看護		講義
	4	2	地域・在宅看護を行う上での環境のアセスメント		講義
	5	2	地域・在宅看護を行う上での環境のアセスメント		演習
	6	2	地域・在宅看護における家族の特徴		講義
	7	2	在宅療養における医療機器管理と看護（HOT・人工呼吸器）		講義
	8	2	在宅療養における栄養や排泄に関する管理と看護 （消化器・尿路：ストーマ・腹膜透析・膀胱留置カテーテル管理、 経管栄養・中心静脈栄養）		講義
	9	2			
	10	2	在宅療養における褥瘡管理と看護		講義
	11	2	地域・在宅看護における安全について （感染予防・医療事故予防・災害時の対応）		講義
	12	2	在宅療養における終末期の管理と看護		講義
	13	2	在宅における看護用具の工夫		演習
	14	2	在宅における看護用具の工夫		発表
	15	2	地域・在宅看護における継続看護の意義		講義
業時間外の 学習	講義に対する予習や復習を行う				

テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 2， 医学書院
参考文献	随時配布資料で紹介する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）90点、グループワークの参加度10点、計100点で評価する。

授業科目	地域・在宅看護論 [対象に応じた看護]		担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1単位・15時間			所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	地域・在宅看護の対象は乳幼児から高齢者までのすべての世代やあらゆる健康状態の人々がその対象となる。そのため、学生に既習学習内容の各領域の知識に基づき地域・在宅で暮らす対象者の特徴を踏まえた看護を主に演習を通して理解が深められるよう教授する。				
到達目標	1. 地域で暮らす、在宅で療養する対象の状況に応じた生活を送るために必要な社会保障について理解できる。 2. さまざまな状態にある対象がその人らしい暮らしや、QOL を維持・向上するための社会資源の活用と看護について考えることができる。				
授業計画		内容			方法
回	時間				
1	2	オリエンテーション 1. 障害を持ちながら生活する人の在宅看護 ・精神疾患がある在宅療養者への看護 ・移行支援・自立支援と QOL の維持向上 ・社会資源の活用・社会復帰 2. 活動低下及び疾病再発予防 ・機能障害の日常生活への影響・自立支援と QOL の維持・向上 ・疾病の悪化防止 ・生活環境のアセスメント ・社会資源の活用と調整 3. 医療的ケアが必要な子どもと家族への支援 ・在宅療養を開始する重症心身障害児 ・健康管理と成長発達を促す継続的な支援 ・権利擁護・QOL の維持・向上 ・障害児支援（特別支援教育） 4. 人生の終末を迎える人の在宅看護 ・退院支援・退院調整・退院時訪問 意思決定支援 ・意思決定支援 ・急性増悪の早期発見・対応			講義
3	2	事例提示・演習のオリエンテーション			講義 グループワーク
4	2	事例検討			グループワーク
5	2				
6	2	事例発表会			演習
7	2				
8	2	まとめ			講義
授業時間外の学習		各領域での既習学習内容の復習			
テキスト		河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 2， 医学書院			

参考文献	必要に応じて講義内で紹介する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	グループワーク（参加度・成果物等）20点、発表会（参加度・態度等）20点、個人レポート（内容、提出期限等）60点（別紙評価表を用いる）、計100点で評価する。

授業科目	成人看護学症状別看護	担当 教 員	氏名	平川 宜子
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	人は健康に問題が起こると、そのことを本人に知らせる機能を持っているが、時には本人も自覚のないものもある。これらの症状は体から発せられる異常のサインとして、人々が生きていくためには重要な意味を持ち、対象者の生活に悪影響を及ぼすこともある。また、これらの症状は複数の疾患につながる要素でもある。ここでは、病態から派生する症状の発生機序を理解し、症状の観察とそれらが示す病理的状态のアセスメントについて学ぶ。また、症状の緩和や不快を取り除くための看護について学習する。教授にあたっては、病院での勤務経験を活かして教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状が起こる原因や発生機序が理解できる。 2. 症状が起こるメカニズムから必要な観察項目を抽出できる。 3. 関連する症状から起こりうる疾患や病理的状态を抽出することができる。 4. 対象者の症状とそのアセスメントに基づき、必要な看護を判断、理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 意識障害とその看護 	講義
	2	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. ショックとその看護 	講義
	3	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各班で課題作成 症状のメカニズム、病態、観察項目、アセスメントの視点、特徴的な看護について資料作成を行う。 	演習
	4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸困難 ・胸痛 ・不整脈 ・浮腫 ・口渇/脱水 ・腹痛/嘔吐 ・吐血血 ・下痢/便秘 ・食欲不振 ・貧血 ・痙攣 ・頭痛 ・めまい ・発疹/掻痒感 ・言語障害 ・視覚/聴覚障害 	
	5	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題発表 	演習
	6	2	作成した内容を元に上記の視点で説明する。	
	7	2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状と看護（振り返り） 	演習(個人、グループワーク)
	8	1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状と看護（まとめ） 	講義
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前に教科書や資料の準備をした上で授業に臨むこと。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で言い指定された期限日までに提出する。 ・3回目以降のグループ編成及び内容については別途指示する。 			
テキスト	<p>香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 山勢博彰：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 竹村信彦：系統看護学講座 成人看護学⑦脳・神経，医学書院</p>			

参考文献	必要時は授業中に提示する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	①課題、演習：50点、②筆記試験50点（45分）計100点で評価する。 ①課題の評価に関しては別途評価表を用いて評価する。 授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。

授業科目	成人看護学機能障害別看護 1	担 当 教 員	氏名	東本 七重
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	成人期にある対象は、年齢や生活背景により様々な疾患を引き起こし、その症状や変化は急激に起こることがある。そのため、原因検索に時間を要すると生命の危険が生じる可能性があり、原因検索に必要な検査等に伴う看護とともに症状の安定を図る看護が必要となる。ここでは器官系統別に疾患と関係づけながら疾患の成り立ちから検査治療、看護までを考える方策を学習する。症状別看護の既習学習を使用しながら、疾患が対象者の生活にどのような影響を及ぼすか考えながら学習できるよう、臨床経験を活かしながら教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要臓器の働きを理解し、機能の障害もしくは消失時の身体的変化が理解できる。 2. 1 を基に発生する症状から現在の身体状況をアセスメントできる。 3. 2 を基に機能障害時の観察項目とフィジカルイグザミネーションの選択ができる。 4. 疾患の検査・治療の内容及び対象者に及ぼす影響について理解できる。 5. 疾患の検査・治療の結果から、成人期の生活背景を考え、必要な看護が判断できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	1	ガイダンス	講義
	2	2	呼吸器疾患：肺炎（炎症性疾患）	講義
	3	2	呼吸器疾患：ARDS	講義
	4	2	循環器疾患：血管系疾患	講義
	5	2	循環器疾患：心臓（冠動脈、不整脈）	講義
	6	2	消化管疾患：潰瘍性疾患	講義
	7	2	消化管疾患：上部消化管がん	講義
	8	2	まとめ	講義
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて担当事例に必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・事前学習は授業前までに作成する。 			
テキスト	奈良信雄・和田隆志 編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院 香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア			

参考文献	必要に応じて授業中に提示する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）100点で評価する。

授業科目	成人看護学機能障害別看護 2	担当 教 員	氏名	東本 七重
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生			
受講要件	なし		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
授業概要	成人看護学機能別看護 1 と同様に、症状別看護などの既習学習を使用し、各機能障害の事例の発生機序、原因のメカニズム、検査・治療を含めた症状についてその観察内容を理解した上で、必要な看護を抽出できることを目指す。この科目では、グループワークを中心として、学生が機能障害別看護の考え方が習得できるように授業を進める。また、機能障害や検査・治療が対象の生活にどのような影響を与えるかを考えることができるよう臨床経験を活かし教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主要臓器の働きを理解し、機能の障害もしくは消失時の身体的変化が理解できる。 2. 1 を基に発生する症状から現在の身体状況をアセスメントできる。 3. 2 を基に機能障害時の観察項目とフィジカルイグザミネーションの選択ができる。 4. 疾患の検査・治療の内容及び対象者に及ぼす影響について理解できる。 5. 疾患の検査・治療の結果から、成人期の生活背景を考え、必要な看護が判断できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ガイダンス	講義
	2	2	事例の資料作成 各事例の発生機序、原因、症状・観察、治療・検査、看護について資料を作成する。 代謝・内分泌系 脳神経系 運動器系 自己免疫系 感覚器系 各種外傷・熱傷	演習
	3	2		
	4	2		
	5	2		
	6	2		
	7	2	事例発表①	演習
	8	2	事例発表②	演習
	9	2	事例発表③	演習
	10	2	事例発表④	演習
	11	2	事例の再検討 事例発表で不足していることや疑問点を再度調べる。	演習
	12	2	事例発表①	演習
	13	2	事例発表②	演習
	14	2	事例発表③	演習
	15	2	事例発表④	演習

15	2	まとめ	講義
授業時間外の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて担当事例に必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 ・2回目以降のグループ編成及び内容については別途指示する。 	
テキスト		<p>奈良信雄・和田隆志 編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院 香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 山勢博彰：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 竹村信彦：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑦脳・神経，医学書院 吉岡成人：系統看護学講座 成人看護学⑥内分泌・代謝，医学書院 今井亜矢子：系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器，医学書院 田中栄：系統看護学講座 成人看護学⑩運動器，医学書院 岩田健太郎：系統看護学講座 成人看護学⑪アレルギー 膠原病 感染症，医学書院 渡辺晋一：系統看護学講座 成人看護学⑫皮膚，医学書院 大鹿哲郎：系統看護学講座 成人看護学⑬眼，医学書院 小松浩子：系統看護学講座 成人看護学⑭耳鼻咽喉，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア</p>	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
参考文献		必要に応じて授業中に提示する	
成績評価の方法と基準		①課題及び演習への参加度 60点、②筆記試験 40点（45分）、計 100点で評価する。 ①は別途評価表を用い、授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。	

授業科目	成人看護学経過別看護	担当 教 員	氏名	中山 仁美
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	成人期にある対象は、その身体的、精神的、社会的特徴から成人期に特有な、また共通してみられる健康状態や健康問題がある。それらは流動的かつ継続的であるため、長期的に疾患を捉え、疾患の連鎖を予防する事が必要となる。この科目では、各健康レベルにおいて特徴的な経過をたどる疾患（事例）をもとに看護理論や症状別看護、機能障害別看護での既習学習をもとに健康レベルに応じた看護を理解することを目指す。各健康レベルの看護については、担当者の急性期病院での経験を活かして教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 健康レベル（急性期、慢性期、回復・維持期）における発達段階が与える影響と身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 健康レベルに伴う疾患の病態生理、症状、観察が理解できる。 健康レベルに応じた看護実践に必要な看護理論の活用方法が理解できる。 1～3の内容を踏まえ、対象者の状態、状況に応じた看護援助の選択ができる。 			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	2	ガイダンス	講義	
2	2	事例に展開に必要な資料作成	個人ワーク	
3	2	事例検討資料作成 1 事例を急性期から慢性期までの経過を通して、疾患が身体的、精神的、社会的側面の変化と及ぼす影響について考える。 ・喘息 ・心筋梗塞 ・大腸がん ・腎不全 ・クモ膜下出血 ・白血病	グループワーク	
4	2			
5	2			
6	2			
7	2			
8	2	発表準備	グループワーク	
9	2	事例発表 1) 喘息の疾患、治療と看護 2) 心筋梗塞の疾患、治療と看護 3) 大腸がんの疾患、治療と看護 4) 腎不全の疾患、治療と看護 5) クモ膜下出血（脳動脈瘤破裂）の疾患、治療と看護 6) 白血病の疾患、治療と看護	演習	
10	2			
11	2			
12	2			
13	2			
14	2			
15	2	各健康レベルと看護	講義	

授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて担当事例に必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 ・グループ編成及び内容については別途指示する。
テキスト	<p>香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 飯野京子：系統看護学講座 成人看護学④血液・造血器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 竹村信彦：系統看護学講座 成人看護学⑦脳・神経，医学書院 今井亜矢子：系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア</p>
参考文献	必要に応じて授業中に提示する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	<p>①課題及び演習への参加度 60 点、②筆記試験 40 点（45 分）、計 100 点で評価する。</p> <p>①は別途評価表を用い、授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。</p>

授業科目	成人看護学技術	担当 教 員	氏名	東本七重
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>医療の進歩に伴い、多くの医療機器が使用されるようになり、これらの管理や取り扱い扱いは患者の状態を管理するうえで重要なものとなっている。さらに、成人期の対象に提供される診療技術は、生命の危機に直結することも多く、看護師には、診療の場面においてその役割、責任を認識し、正確かつ確実な技術を提供すること、治療過程や身体状況を理解することが求められる。この科目では、治療を円滑に行うために、また症状安定や緊急時に必要な援助技術を選択・実践できるようにすることを目指す。</p> <p>また、生活の再構築を行うためには、対象者が自身の生活を見直し、必要な内容を対象の生活に即して創造する力が必要となる。成人学習者として対象の能力を引き出せるように既習の基本的アプローチ方法を駆使して、対象者の生活構築を支援する指導法について理解できるよう、実務経験を活かし教授する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人の対象者に必要な看護技術の基本知識が理解できる。 2. 必要な検査・処置の安全・安楽な実施ができる。 3. 必要な検査・処置を通して、状態安定のための観察ができる。 4. 症状安定のために必要な技術の選択基準が理解できる。 5. 対象者の生活状況を踏まえた指導の視点が理解できる。 6. セルフマネジメントの必要性と継続支援のための看護が理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	1. ガイダンス 2. 症状安定のための援助技術：必要な知識 1) 循環器 2) 呼吸器	講義
	2	2	1. 症状安定のための援助技術① 1) 吸引 2) 体位ドレナージ 3) スクウィーピング	講義
	3	2	1. 症状安定のための援助技術② 1) 心電図 2) 輸液ポンプ/シリンジポンプ	演習
	4	2	1. 症状安定のための援助技術③ 1) 人工呼吸器	演習
	5	2	1. 症状安定のための援助技術：必要な知識 1) 糖代謝管理 2) 外傷管理	講義
	6	2	1. 症状安定のための援助技術① 1) 血糖測定 2) 外傷管理	演習
	7	2	1. 症状安定のための援助技術① 1) 糖代謝管理：血糖測定 2) 外傷管理：創傷処置 止血法 胸腔ドレナージ	演習
	8	2	1. 緊急時の対応（事例構築）	演習
	9	2	1. 急変時に必要な援助技術 1) 気管内挿管介助 2) 救急カート	演習
	10	2	1. 緊急時の対応	演習

1 1	2	1. 事例に応じた指導技術 1) 事例の構築 (病態生理と看護の理解) ・ストーマ造設 (各種) ・糖尿病 (血糖測定、薬剤: 経口薬、インスリン注射、食事・運動療法) ・透析 (透析、食事・運動療法)	演習
1 2	2	2) 指導に関する内容の構築 (指導に必要な視点と内容の抽出および指導計画書作成)	演習
1 3	2	3) 指導書の作成 (症状悪化予防と生活再構築のための指導法)	演習
1 4	2	4) 発表と意見交換 (ロールプレイング)	演習
1 5	2	5) 発表と意見交換 (ロールプレイング)	演習
授業時間外の学習		・シラバスの内容に応じて事前に教科書を読み、必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・事前課題は期日までに提出する。 ・グループ編成及び内容については別途指示する。	
テキスト		野崎真奈美著: 成人看護学 成人看護学技術, 南江堂 山勢博彰著: 系統看護学講座 別巻 救急看護学, 医学書院 佐々木勝教監修: ゼロからわかる 救急・急変看護, 成美堂出版 川村雅文著: 系統看護学講座 成人看護学②呼吸器, 医学書院 吉田俊子著: 系統看護学講座 成人看護学③循環器, 医学書院 松田明子著: 系統看護学講座 成人看護学⑤消化器, 医学書院 吉岡成人著: 系統看護学講座 成人看護学⑥内分泌・代謝, 医学書院 竹村信彦著: 系統看護学講座 成人看護学⑦脳・神経, 医学書院 今井亜矢子著: 系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器, 医学書院 日本糖尿病学会 編: 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版, 文光堂	
参考文献		必要に応じて授業中に提示する。	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		○下記の技術に関しては、演習時に評価表を使用して自己と他学生にて評価する。 ・排泄援助技術: 12.ストーマ管理 ・呼吸・循環を整える技術: 31.ネブライザーを用いた気道内加湿、32.口腔内・鼻腔内吸引、33.気管内吸引、34.体位ドレナージ ・創傷管理技術: 36.創傷処置(創洗浄,創保護,包帯法)、37.ドレーン類の挿入部の処置 ・救命救急処置技術: 47.緊急時の応援要請、48.一時救命処置(BLS)、49.止血法の実際 ・感染予防技術: 61.無菌操作、 ・安全管理技術: 68.医療機器(輸液ポンプ,シリンジポンプ,心電図モニター,酸素ボンベ,人工呼吸器)の操作・管理 ○症状・生体管理技術: 54.簡易的血糖測定については、演習時に評価表を使用して自己と教員にて評価する。 ○食事の援助技術 4.食事指導については演習中に評価表を用いて、自己と学生、教員で評価を行う。	
成績評価の方法と基準		①課題、演習: 70点 ②筆記試験 30点 (45分) ①に関しては別途評価表を用い、授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。	

授業科目	老年看護学援助論 1	担当 教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>高齢者の生活を支えるために必要な知識、技術、態度を習得し看護援助が実施できるように教授する。</p> <p>認知症高齢者の安心できる生活、意思を支えるために、認知症の特徴的な症状や言動から思いを引き出し必要な看護について教授する。特に人として尊重した態度や権利擁護といった倫理的課題に対し授業を通して考えを深め行動できるように進める。又レクリエーションを実際に企画、実践して介護・看護が必要な高齢者の適切なレクリエーションを理解できるよう担当教員の実務経験を交えて教授する。</p>			
到達目標	<p>1. 高齢者の日常生活を支える看護援助が実施できる。</p> <p>2. 高齢者の特徴的な症状を理解し必要な看護援助が理解できる。</p> <p>3. 認知症高齢者の生活を支える看護を理解する。</p>			
授業計画	回	時間	内容	方法
1	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーション	講義	
2	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・活動と休息を整える看護 転倒予防、廃用症候群予防 生活リズムを整える看護	講義	
3	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・食生活を支える看護 ・排泄を支える看護	講義	
4	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・排泄を支える看護	講義	
5	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・排泄を支える看護 【床上、ポータブル、オムツ交換、陰部洗浄】	演習	
6	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・清潔を整える看護	講義	
7	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・清潔を整える看護 【点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換、整容】	演習	
8	2	健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護 1 発熱 2 痛み 3 倦怠感	講義	
9	2	症候のアセスメントと看護 4 脱水 5 嘔吐 6 浮腫	講義	
10	2	症候のアセスメントと看護 7 掻痒（かゆみ） 8 褥瘡・スキンテア	講義	
11	3	褥瘡予防、褥瘡ケア 【体圧測定 エアーマット体験 褥瘡処置(洗浄、ドレッシング剤)】	演習	
12	2	認知機能障害のある高齢者の看護 うつ せん妄 認知症	講義	
13	2	認知症の看護 レクリエーション企画	講義	

14	3	レクリエーションの発表	講堂で演習
授業時間外の学習	授業に関する内容の予習と復習 演習課題の実施		
テキスト	北川公子 他:系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院 鳥羽研二 他:系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院 任 和子 他:基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院		
参考文献	亀井智子 編集:根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	排泄援助技術の 7 排泄援助 (床上、ポータブルトイレ、オムツ等)、清潔・衣生活援助技術の 23 陰部の保清、26 口腔ケア、27 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換、創傷管理技術の 35 褥瘡予防ケア、感染予防技術の 57 スタンダード・プリコーション (標準予防策) に基づく手洗い、58 必要な防護用具 (手袋、ゴーグル、ガウン等) の選択、着脱について演習時に評価表を用いて自己評価・他者 (学生) 評価を行う。		
成績評価の方法と基準	筆記試験 90 点 レクリエーション 10 点 合計 100 点満点で評価する。 60 点未満は不合格となる。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。		

授業科目	老年看護学援助論 2	担当 教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	健康障害をもつ高齢者は、複数の疾患を有していることや言語障害、認知機能の低下などの特徴がある。これらの特徴をふまえ、授業では担当教員の実務経験を交え、対象に必要な看護が実践できるように症状観察、アセスメントを実施しながら臨床判断能力を習得できるように教授する。又、高齢者への倫理的配慮を大切にしながら看護を実践できるように教授する			
到達目標	1. 老年症候群、老年期に多い疾患の看護を理解する。 2. 老年期の特徴を踏まえた看護が実践できる。			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	老年症候群 高齢者のフィジカルアセスメント 入院治療を受ける高齢者の看護	講義
	2	2	検査を受ける高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護	講義
	3	2	高齢者の疾患の特徴 誤嚥性肺炎の看護	講義
	4	2	リハビリテーションを受ける高齢者の看護 【自動・他動運動の援助】 嚥下障害のある高齢者の看護 【摂食嚥下障害のある高齢者の食事援助、口腔ケア】	演習
	5	2	骨粗鬆症、大腿骨近位部骨折看護 人工関節置換術を受けた高齢者の看護	講義
	6	2	パーキンソン病の看護	講義
	7	2	白内障の看護 前立腺肥大、前立腺がんの看護	講義
	8	1	まとめ	講義
授業時間外の学習	授業に関する内容の予習と復習 演習課題の実施			
テキスト	北川公子 他：系統看護学講座 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論，医学書院 井手隆文 他：系統看護学講座 成人看護学 7 脳神経，医学書院 河邊博史：系統看護学講座 成人看護学 8 腎・泌尿器，医学書院 田中栄 他：系統看護学講座 成人看護学 10 運動器，医学書院 大鹿哲郎 他：系統看護学講座 成人看護学 13 眼，医学書院			
参考文献	必要に応じて指示する			

「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	活動・休息援助技術の 17 自動・他動運動の援助、清潔・衣生活援助技術の 26 口腔ケアについて、演習時に評価表を用いて自己評価・他者（学生）評価を行う。
成績評価の方法と基準	筆記試験 100 点満点で評価する。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。

授業科目	子どもの成長発達の支援と看護	担当 教員	氏名	松井 なつみ
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>社会の中で小児と家族のおかれている状況やその問題点、成長発達については1年次に学習した。この科目では、まず小児各期の養育を学ぶ。そのうえで成長発達途上の子どもの健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について成長発達、健康の段階、検査・治療などからみた看護について教授する。さらに、子どもが病気や障がいをもつ子どもをどのように捉え生活しているのか、その家族は子どもをどのように支えているのか、家族の思いなどを考えられるようにする。また看護師として小児と家族中心の看護とは何か考えられるよう担当教員の実務経験も交え、理解を深めることができるよう教授する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児各期(乳幼児・幼児期・学童期・思春期)の生活への援助と保育の在り方を理解できる。 2. 健康障害を子どもと家族がどのようにとらえているのか理解できる。 3. 入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる。 4. 子どもと家族の経過別(急性期・周手術期・慢性期・終末期)看護が理解できる。 5. 子どもの検査・処置体験、治療に伴う苦痛を理解し、検査・処置・治療が円滑に行える看護を理解できる。 6. 先天異常・障がいをもつ子どもと家族の看護が理解できる。 7. 子どもの成長発達に合わせた日常生活援助(栄養・清潔・排泄)が理解できる。 8. おもちゃ作成を行い子どもにとっての遊びの意義及び成長発達をふまえた遊びを理解できる。 			
授業計画 回	時間	内容	方法	
1	2	乳児・幼児の成長発達、乳児・幼児の養育および看護	講義	
2	2	学童・思春期の成長発達、学童・思春期の養育および看護	講義	
3	2	子どもの認知度・病気の理解度、病気の子どものもつ家族の問題点 入院が子どもと家族に与える影響	講義・演習	
4	2	小児の入院形態・入院環境	講義	
5	2	入院している子どもと家族への看護	講義	
6	2	外来看護の特徴・外来の機能と求められる看護 在宅における子どもの看護・災害時の子どもの看護	講義・演習	
7	2	急性期・周手術期・慢性期にある子どもと家族の看護	講義	
8	2	終末期にある子どもと家族の看護 検査を受ける子どもと家族の看護 制限のある子どもと家族の看護	講義・演習	
9	2	先天的な問題をもつ子どもと家族の看護	講義	
10	2	障がいのある子どもと家族の看護	講義	
11	2	低出生体重児の看護	講義	

1 2	2	成長発達に合わせた子どもの遊びとプレパレーション	講義
1 3	2	成長発達に合わせた子どもの遊びとプレパレーション (発表)	演習
1 4	2	コミュニケーション技術と日常生活援助	講義・演習
1 5	2	コミュニケーション技術と日常生活援助	演習
授業時間外の学習	講義の中で課題を提示するので、課題に対するレポート作成し提出する。 子どもの遊びとプレパレーションはグループで検討する。		
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院 奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学各論，医学書院 任和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院		
参考文献	鴨下重彦，柳澤正義監修：子どもの病気の地図帳，講談社 筒井真優美：小児看護学 日総研 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	定期試験と課題レポート、グループワークのレポートで評価する。 定期試験 80 点、グループワークのレポート 20 点 計 100 点で評価する。		

授業科目	健康障害のある子どもの看護	担当 教 員	氏名	松井 なつみ
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	既習の学習では、子どもが病気や障がいをどのように受け止めているのか、子ども中心の看護とは何か考えてきた。子どもには小児特有の疾患が多くある。この科目では症状別看護を学び、小児特有の疾患の病態生理、検査・治療や成長発達をふまえた子どもと家族の看護を中心に講義を進める。また、看護実践の場面での対応について担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども及び家族への症状別看護が理解できる。 2. 主要な疾患をもつ患児の看護が理解できる。 3. 治療を受ける子どもの看護が理解できる。 			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	症状を示す子どもと家族の看護 (一般状態、呼吸循環の症状、発熱、消化器症状、水分・電解質異常)		講義
2	2	症状を示す子どもと家族の看護 (血液、神経・筋症状、黄疸) てんかん・熱性けいれん		講義
3	2	症状を示す子どもと家族の看護(発疹) 痛みのある子どもと家族の看護		講義
4	2	子どもの身体的アセスメント(バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント)		講義・演習
5	2	代謝性疾患・内分泌疾患・免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患のある子どもと家族の看護		講義
6	2	呼吸器疾患・循環器疾患のある子どもと家族の看護		講義
7	2	消化器疾患のある子どもと家族の看護		講義
8	2	血液・造血器疾患・悪性新生物のある子どもと家族の看護		講義
9	2	腎・泌尿器疾患のある子どもと家族の看護		講義
10	2	神経疾患・発達障害のある子どもと家族の看護		講義
11	2	運動器疾患・皮膚疾患・耳鼻咽喉疾患のある子どもと家族の看護		講義
12	2	看護技術演習 入院中の子どもの日常生活援助／検査・処置を受ける子どもの看護		講義・演習
13	2	看護技術演習 入院中の子どもの日常生活援助／検査・処置を受ける子どもの看護		演習
14	2	看護技術演習 入院中の子どもの日常生活援助／検査・処置を受ける子どもの看護		演習
15	2	看護過程の展開における留意点		講義・演習

授業時間外の学習	課題を提示するので提示された期日までに提出する。
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院 奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学各論，医学書院 任和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	鴨下重彦，柳澤正義監修：子どもの病気の地図帳，講談社 筒井真優美：小児看護学 日総研 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	終了試験 70 点、課題レポート 10 点、グループワークのレポート 20 点の計 100 点で評価する。

授業科目	母性看護学援助論 1	担当 教員	氏名	右田 文
単位・時間数	1単位・30時間		所属	無
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	保健所にて助産師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	妊娠は、女性のライフサイクルの中でも大きなイベントである。妊娠は、看護を考える上で他の教科と異なり、いわゆる「病気」ではないため、多くの人には、妊娠や分娩は正常に経過して当然だという考え方があります。しかし、実際には、妊娠・分娩には多くのリスクを伴う。この科目では、まず、妊娠から分娩後（産褥期）まで、と生まれてきた新生児の「正常な」経過を知ってもらい、その中で私たちはどのような支援を行えばよいのかを考える。授業にあたっては、担当者の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠・分娩・産褥期の母体の生理的变化を理解する 2. 胎児の変化と新生児の生理と正常な経過を理解する 3. 妊・産・褥婦の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる 4. 正常な経過をたどる妊・産・褥婦・新生児への看護が理解できる 			
授業計画	回	時間	内容	方法
1	2	妊娠の診断 妊婦の健康診査 妊娠初期・中期・後期の母体の変化と胎児の成長 妊娠期の看護		講義
2	2			
3	2			
4	2	胎児心拍数モニタリング		講義
5	2	分娩の生理 分娩期の母体変化 分娩の進行判断		講義
6	2			
7	2			
8	2	分娩期の看護（分娩開始前から分娩第1期まで）		講義
9	2	分娩期の看護（分娩第2期から第4期、分娩の振り返りまで）		講義
10	2	産褥の生理：退行性変化		講義
11	2	産褥の生理：進行性変化		講義
12	2	産褥の生理：心理的变化、母子相互作用・ボンディング・アタッチメント		講義
13	2	新生児の生理		講義
14	2	新生児期の経過と看護		講義
15	2	産後健診		講義

授業時間外の学習	講義終了後、テキストを見返して課題を整理する 課題は複数回提示する
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学②，医学書院
参考文献	宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他：病気が見える Vol.10 産科，メディックメディア など
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	終了試験 80 点、妊娠・分娩・産褥・新生児の整理についての課題 20 点、計 100 点で評価する。

授業科目	母性看護学援助論 2	担当 教員	氏名	右田 文
単位・時間数	1単位・30時間		所属	無
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	保健所にて助産師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>この科目では、母性看護学援助論1で学んだ知識を基に、その知識を実際に臨床の場で活用していくための指導技術や看護過程、基本的な援助技術を学ぶ。また、妊娠期から産褥期にかけては異常も起こりやすい時期であり、異常な場合の看護についても教授する。</p> <p>新生児は、母親の胎内で生活していたものが、呼吸その他自分で行わなければならない、ダイナミックに変化する時期でもあるため、そのような新生児を看護していくための視点と、愛護的に扱う技術も学んでいく。授業にあたっては、担当者の実務経験を交え教授する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ妊・産・褥婦への看護が理解できる 2. 健康障害をもつ新生児への看護が理解できる 3. 母性看護に必要な基本的看護技術が理解できる 4. 新生児に安全・安楽な沐浴を実施できる 5. 母性看護に必要な基礎的指導技術を理解できる 6. 褥婦及び新生児の看護過程について理解できる 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	ハイリスク妊娠	講義
	2	2	異常経過にある産婦の看護	講義
	3	2	誘導分娩と産科手術	講義
	4	2	異常経過にある褥婦の看護	講義
	5	2	異常経過にある新生児の看護	講義
	6	2	母性看護技術	講義・演習
	7	2	母体：レオポルド触診法・分娩監視装置の装着方法・乳頭マッサージ・産後の子宮復古確認 など	
	8	2	新生児：諸計測・バイタルサイン測定・抱っこ・おむつ交換・哺乳・排気・沐浴 など	
	9	2	沐浴	講義・演習
	10	2	母性看護における指導技術	講義・GW
	11	2	(グループに分かれ、パンフレットを作成する)	
	12	2	母性看護における指導技術 (グループで討議したものを発表し、学びを共有する)	演習
	13	2	看護過程の展開 ウェルネス型看護診断	講義
	14	2	看護過程の展開	講義

15	2	沐浴技術演習	演習
授業時間外の学習	1. 課題に取り組み、期日までに提出する 2. GWでの検討が十分にできなかった場合に、講義時間外での取り組みとする 3. 看護技術の演習や、沐浴技術試験に関して、講義時間外に各自で練習を行う		
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②，医学書院		
参考文献	太田操：ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版，医歯薬出版 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他：病気が見える Vol.10 産科，メディックメディア 日本助産診断・実践研究会：実践マタニティ診断，医学書院 など		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	清潔・衣生活援助技術の 28. 新生児の沐浴・清拭は、評価表を用いて技術試験を行う。		
成績評価の方法と基準	【評価①】 終了試験(45分)80点、指導技術(別紙評価表を使用)20点の計100点で評価する。60点未満は再試験とする。 【評価②】 沐浴技術試験を(100点)を実施し、60点未満は再試験とする。 科目の最終評価は、評価①筆記試験・指導技術を70%、評価②技術試験を30%として算出する。		

授業科目	精神看護学援助論 1	担当 教員	氏名	鉦賀千夏
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>精神看護においてケアを行う際の前提や原則、中核となる看護理論について理解し、患者が抱える問題や生きにくさを捉え介入するプロセスや具体的な関り方など、精神障害を持つ人へのケアの基本的な方法を講義・演習にて習得させる。</p> <p>さらに、看護師のストレスを理解し、看護師自身の感情の取扱い方など自分の心の健康を保持増進するための方法を考える機会とする。看護師経験および実習指導により得た知識・経験をもとに、実践に活かせる知識・技術の教授を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護においてケアを行う際の前提・原則、および看護理論について理解できる。 2. 症状アセスメントやプロセスレコードの実際の活用方法を、演習を通して理解できる。 3. 精神の健康障害をもつ対象に対する看護の展開を行う際の基盤（視点や考え方、プロセスなど）について理解できる。 4. 認知行動療法の具体的方法を理解し、活用方法や有効性を理解できる。 5. 看護師のメンタルヘルス支援について理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
1	2	第8章 ケアの人間関係 ・精神看護に活用される看護理論 ・ケアの前提、原則、方法 ・患者-看護師関係における感情体験 ・チームのダイナミクス	講義・演習	
2	2			
3	2			
4	2	症状・関係をアセスメントする（シミュレーション学習） ・症状アセスメントの基礎、アセスメントトレーニング ・プロセスレコードの基礎、プロセスレコード演習 ・コミュニケーショントレーニング	講義・演習	
5	2			
6	2			
7	2			
8	2	精神看護における看護過程の展開の基礎	講義・演習	
9	2			
10	2			
11	2	認知行動療法の概要と有効性 ・認知療法：認知再構成法 ・行動療法：問題解決法	講義・演習	
12	2			
13	2			

14	2	第16章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス ・看護師の不安と防衛 ・感情労働としての看護 ・看護師の感情ワーク	講義
15	2	・看護師のストレッサーとなりうるもの ・メンタルヘルスを保つ方法	
授業時間外の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前に教科書の内容を確認した上で授業に臨む。 ・ワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示をする。 ・授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 	
テキスト		武井 麻子他：系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開，医学書院	
参考文献		野末 聖香：リエゾン精神看護，医歯薬出版株式会社 宇佐美 かおり：精神科看護の理論と実践，ヌーヴェルヒロカワ	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		筆記試験（45分）80点、課題20点、計100点で評価する。 *授業態度・グループ学習への参加態度が著しく悪い者、課題提出遅れがあれば減点する。	

授業科目	精神看護学援助論 2		担当 教員	氏名	① 小野 香 ② 安武竜太
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	① 南ヶ丘病院 ② 小倉蒲生病院
対象学生	2023 年度・2 年生				担当者実務経験
受講要件	なし				
授業概要	<p>精神科治療の目標は「治癒」から「回復」へと移ってきている。精神看護に携わる者として「回復（リカバリー）」の意味を理解し、精神障害をもつ人々の回復を促し支援するさまざまなアプローチの方法、地域で生活する人へのケアと支援について理解できるよう講義を進める。また、入院治療をうける人にとっての入院の意味や影響を理解したうえで、回復を促進するための治療的環境の在り方や安全を守る視点、必要な看護について経験をもとに事例をふまえて講義する。</p> <p>精神看護は精神科病院に入院している患者にのみ対応するものではない。身体疾患をもつ患者・家族の精神的問題に対して、精神看護の技術を活用することで心のケアを行うリエゾン精神看護の知識・技術について教授する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者および看護師にとっての「回復（リカバリー）」の意味・プロセスを理解する。 2. 精神に障害をもつ人の地域生活を支えるための支援について理解する。 3. 精神に障害をもつ人にとっての入院の意味を理解し、回復に必要な看護を理解する。 4. リエゾン精神看護の概要と諸問題のアセスメントや介入方法について理解する。 				
授業計画	回	時間	内容	方法	
1	2	回復を支援する	回復の意味、リカバリーを促す環境と方法	講義	
2	2	回復を支援する	回復のためのプログラム リカバリーのプロセス	講義	
3	2	地域におけるケアと支援	器としての地域 地域における生活支援の方法	講義	
4	2	地域におけるケアと支援	地域における生活支援の方法	講義	
5	2	医療の場におけるメンタルヘルスと看護	・身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス ・リエゾン精神看護とその活動：直接ケアと間接ケア	講義	
6	2	・リエゾンナースの活動の実際	①不安の強い患者 ②怒りの強い患者 ③痛みの強い患者	講義	
7	2	災害時のメンタルヘルスと看護		講義	
8	2	入院治療の意味	精神科の受診	講義	
9	2	入院治療の意味	治療の器としての病院・病棟	講義	
10	2	入院治療の意味	入院中の観察とアセスメント、ケアの方向性	講義	
11	2	入院治療の意味	退院に向けての支援とその実際	講義	
12	2	身体をケアする	精神科における身体のケア 精神科における身体を通じた看護ケア	講義	

13	2	身体をケアする：精神科の治療に伴う身体のケア	講義
14	2	身体をケアする：身体合併症のアセスメントとケア 精神科における終末期ケア	講義
15	2	安全をまもる：リスクマネジメントの考え方と方法 緊急事態への対処 緊急事態とスタッフの支援	講義
授業時間外の 学習		<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容に応じて事前に教科書の内容を確認した上で授業に臨む。 ・ワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示をする。 ・授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 	
テキスト		武井 麻子他：系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開，医学書院	
参考文献		野末 聖香：リエゾン精神看護，医歯薬出版株式会社 宇佐美 かおり：精神科看護の理論と実践，ヌーヴェルヒロカワ	
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法		該当なし	
成績評価の 方法と基準		担当講師ごとに筆記試験（100点）で評価する。 科目の最終評価は、①を50%、②を50%で算出する。	

授業科目	薬物療法と看護	担当 教員	氏名	平川 宜子
単位・時間数	1単位・20時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	医療において薬物療法が果たす役割は大きく、その薬物療法を安全かつ効果的に用いるために看護が果たす責任や役割は大きい。薬物療法については、専門基礎分野や各看護学で学んでおり、本講義では、それらの知識を活用し、対象に応じた薬物動態や投与方法の違い、特徴を理解できるように講義・演習を行う。さらに、発達段階や疾患、病期などの特徴や場に応じて患者が安全に薬物療法を受けるために必要な看護について学ぶ。講義にあたっては、各領域の担当者が協力し、実務経験を活かして講義を行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. さまざまな対象者への薬物療法の特徴を理解できる。 2. 対象に応じた薬物の投与方法および薬物療法に伴う看護について理解できる。 3. 輸血管理の基礎知識を踏まえ、援助の実際を理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	対象に応じた薬物療法と看護 ・薬物療法における看護師の役割 ・患者と薬物療法 ・薬物治療の評価 ・安全管理 ・チーム医療と薬物療法	講義
	2	2	薬物動態・認知能力・管理能力に応じた服薬管理	講義
	3	2		
	4	2	ハイリスク薬品の特徴と看護	講義
	5	2	場に応じた看護・対象に応じた看護の実際	講義・演習
	6	2		
	7	2		
	8	2	対象に合わせた服薬の指導（成人・老年・小児・精神・在宅）	演習
	9	2		
	10	2	ハイリスク薬品曝露予防策の実施 輸血の管理と実際	講義・演習
授業時間外の学習	服薬指導のロールプレイについてシナリオ作成、準備			

テキスト	①井上 智子他：系統看護学講座 別巻 臨床薬理学、医学書院 ②北川公子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学、医学書院 ③佐々木勝教：救急・急変看護、成美堂出版 ④河原加代子他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論、医学書院 ⑤奈良間美保他：系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論、医学書院 ⑥森 恵美他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論、医学書院 ⑦武井麻子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開、医学書院 ⑧任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅱ、医学書院 ⑨茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅰ、医学書院
参考文献	野元正弘他：薬がみえる1、メディックメディア 弘世貴久他：薬が見える2、メディックメディア
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	与薬の技術の46.輸血の管理、安全管理の技術67.人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施については、チェックリストを用いて自己評価・他者(学生)評価を実施する。
成績評価の方法と基準	終了試験 80 点、演習の評価（評価基準あり）20 点の計 100 点で評価する。

授業科目	家族看護	担当 教 員	氏名	平川 宜子
単位・時間数	1単位・20時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>家族成員のだれかに健康問題が生じると家族は様々な影響を受け、家族の生活は変化する。本科目では、家族の位置づけと家族の基本的な考え方を想起し、家族成員の主体性を尊重しながら看護に必要な家族アセスメントと援助を展開するための知識や方法について教授する。さらに、現代の家族の特徴、理論を活用した家族の捉え方、家族の病気体験を理解する姿勢や家族へのアプローチ等について看護の展開を行う。講義にあたっては、各領域の担当者が協力し、実務経験を活かして講義を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族を看護の対象として位置づけ看護の必要性を理解する。 2. 健康問題を有する家族員をかかえた家族の特徴や家族システム、家族の発達、家族のセルフケアの視点を理解する。 3. 事例を通して家族をアセスメントし、必要な看護の方法を考えることができる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	<p>家族を看護するということ 家族を理解するための理論： 家族システム理論、家族ストレス対処理論、家族発達理論</p>	講義
	2	2	<p>家族の病気体験を理解する 家族の病気のとらえ方・理解、家族の苦悩、情緒的反応 家族の生活への影響、家族のニーズ</p>	講義
	3	2	<p>家族と援助関係を形成する 援助関係とは 看護者に求められる基本姿勢 家族とのコミュニケーションにおける留意点</p>	講義、演習
	4	2	<p>家族への看護アプローチ 家族のセルフケアの支援、家族の役割調整</p>	講義、演習
	5	2	<p>事例に基づく家族看護の実践① ・急性期患者の家族看護 ・慢性期患者の家族看護 ・高齢者の家族看護</p>	講義 グループワーク
	6	2	事例検討	グループワーク
	7	2	発表会①	演習
	8	2	<p>事例に基づく家族看護の実践② ・健康障害をもつ小児の家族看護 ・周産期に関する家族看護 ・精神疾患患者の家族看護 ・在宅で療養する対象の家族の看護</p>	講義、演習
	9	2	事例検討	講義、演習
	10	2	発表会②	演習
授業時間外の学習	<p>復習はテキストや授業資料等を用いて学習内容を整理して理解を深めておく。</p>			

テキスト	上別府圭子 他：系統看護学講座 別巻 家族看護学，医学書院 地域・在宅看護論の授業資料を使用することがある。
参考文献	必要時提示する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験 40 点(45 分)、看護の展開 60 点の合計 100 点で評価する。60 点以上を合格とする。受講態度も評価の参考とする。

授業科目	周手術期看護	担当 教 員	氏名	中山 仁美
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	手術による身体的、精神的、社会的影響は大きい。看護師は、手術方法による侵襲の程度や侵襲に対する耐性、侵襲からの回復力をとらえ総合的にアセスメントし、その人の耐性をいかに高く維持するか、その人の回復力をいかに引き出せるかを考える必要がある。この科目では、患者自ら主体的に治療に参加し、手術によって受ける侵襲や影響を最小限にとどめ、健康回復や社会復帰できるように働きかける為に必要な知識、技術の習得をめざす。周手術期にある対象を理解し、術前、術中、術後の各段階の特徴と看護、発達段階と状態に応じた看護、各手術における看護を担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 周手術期看護の概要が理解できる。 2. 術前の看護が理解できる。 3. 術中の看護が理解できる。 4. 術直後、術後の看護が理解できる。 5. 術後患者に必要な技術が習得できる。 6. 術後合併症とその看護が理解できる。 7. 手術部位別の周手術期患者の看護が理解できる。 8. 発達段階や対象の状態に応じた周手術期看護が理解できる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	4	周手術期の概要 周手術期の定義と合法性 手術を受ける患者・家族の理解	講義
	2		患者を支える医療チーム 看護業務における法律と制度	
	3	2	発達段階や対象の状態に応じた術後合併症と予防	講義
	4	2	発達段階や対象の状態に応じた術前の看護	講義
	5	2	発達段階や対象の状態に応じた術中の看護	講義
	6	2	発達段階や対象の状態に応じた術後の看護	講義
	7	2	手術環境を整える感染予防 安全な環境管理 手術時手洗い ガウンテクニック	講義・演習
	8	2	術後患者に必要な技術 弾性ストッキング AVインパルス 術後ベッド作成	演習
	9	2	術後患者に必要な技術 ドレーン管理の実際 創傷処置	演習
	10	2	開頭術を受ける患者の看護 脳腫瘍	講義
	11	2	開胸術を受ける患者の看護 肺がん(肺葉切除術) 心臓弁膜症(弁置換術)	講義

1 2	2	開腹術を受ける患者の看護 胃がん(胃切除術・胃全摘術)、大腸がん(人工肛門増設術)	講義
1 3	2	高齢者や子どもに特徴的な外科的治療 白内障(白内障手術)、前立腺肥大症(経尿道的前立腺切除術) 慢性扁桃炎(口蓋扁桃摘出術)	講義
1 4	2	女性特有の外科的治療 帝王切開を受ける患者の看護、乳がん(乳房全切除術)	講義
1 5	2	腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 胆石(胆嚢摘出術)	講義
授業時間外の学習		① 事前学習として指定の用紙を配布する。 ・インフォームド・コンセントを受けた患者への看護師の役割 ・術中体位 ・安全な環境管理、手術時手洗い、ガウンテクニック ・弾性ストッキング、AVインパルス、術後ベッド、ドレーン管理の実際、創傷処置 ② 演習後の終了レポート	
テキスト		矢永勝彦 他 : 系統看護学講座 別巻1 臨床看護学総論, 医学書院 北島政樹 他 : 系統看護学講座 別巻2 臨床看護各論, 医学書院 野崎真奈美 他 : 成人看護技術, 南江堂	
参考文献		中村美和子 監修: 周手術期看護 安全安楽な看護の実践 改訂版, インターメディカ	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		創傷管理技術の 36.創傷処置(創洗浄,創保護,包帯法)、37.ドレーン類の挿入部の処置、に関してチェックリストを用いて自己評価・他者評(学生)価にて手順を評価する。	
成績評価の方法と基準		筆記試験 100 点満点で評価する。 60 点以上を合格とする。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。	

授業科目	終末期看護	担当 教 員	氏名	鉦賀 千夏
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	生まれてきた人にはいつか死は訪れるが、人々は日々の暮らしの中で、死はほとんど意識することなく過ごしている。あらゆる発達段階、看護の場にある人が、「自らの死」に対峙して生きる姿や、死にゆく過程における患者と家族の苦痛・苦悩、終末期における心身の変化を緩和するケアについて学ぶ。さらに遺族へのグリーフケア、人生最後の時を迎える人の看取りのケアについても学ぶ。この科目では、終末期にある人を理解し、その人の状態に応じた看護を担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある人を理解するための基礎となる考え方や理論が理解できる。 2. 終末期にある人がその人らしく生きることを支える看護について考えることができる。 3. 終末期における症状緩和のためのケアと死後の処置について理解できる。 4. 家族ケアとグリーフケアについて理解できる。 5. 終末期医療における倫理的課題について考えることができる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	終末期看護概論① 終末期とは 1) 全人的苦痛と QOL 2) 緩和ケアとは何か 3) 緩和ケアの歴史と海外における緩和ケアの現状 4) 緩和ケアにおける看護師の役割	講義
	2	2	終末期看護概論② 1) キューブラー・ロスの「死にゆく過程 5 段階」 2) 映画を鑑賞して死にゆく人とその家族について考える	講義 DVD 鑑賞
	3	2	終末期における身体的苦痛と看護	講義
	4	2	終末期における精神的苦痛・社会的苦痛と看護 (緩和ケアのコミュニケーション)	講義
	5	2	終末期におけるスピリチュアルペインと看護、代替補完療法	講義
	6	2	終末期における苦痛緩和のための看護 (薬物療法、放射線療法)	講義
	7	2	終末期にある家族ケア、遺族ケア (グリーフケア)	講義
	8	2	臨死期の看護と死後の処置 緩和ケアにおける倫理的課題	講義
	9	2	終末期にある小児の看護	講義
	10	2	終末期にある小児の看護 こどもの死の概念、死が近づいた子どもの反応	講義
	11	2	非がん患者の緩和ケアの一般的特徴 神経疾患の緩和ケアの特徴、慢性心不全の緩和ケア、腎不全、 COPD の緩和ケア、認知症	講義

1 2	2	事例から緩和ケアを考える①	講義 (GW)
1 3	2	事例から緩和ケアを考える②	演習 (GW)
1 4	2	事例から緩和ケアを考える③	演習 (GW)
1 5	2	事例から緩和ケアを考える④ (発表会)	演習 (GW)
授業時間外の 学習	「事例から緩和ケアを考える」の準備		
テキスト	宮下高令 編集：ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア、メディカ出版 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 香春知永 他：系統看護学講座 臨床看護総論，医学概論		
参考文献	青木学 他：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学，医学書院		
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法	該当なし		
成績評価の 方法と基準	①筆記試験 100点 (45分) 80% ②演習 20%で評価する。 授業態度、課題提出の遅れ等は減点することがある。		

授業科目	看護過程演習	担当 教員	氏名	大木 克己
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	看護過程の活用は、看護の対象を多角的に捉え、看護を計画的に実施するための力を育む。基礎看護学で看護過程の基本的知識を学んでいるが、対象の状況に応じた看護過程の展開を実施できるようになるためには、様々な対象の状況を想定した看護過程の展開を実践し、その方法を体得していく必要がある。この単元では、患者の健康問題を解決し、対象の状況に合わせた看護に行うための思考と行動の道筋である看護過程の活用方法を学ぶ。様々な状況を想定し、事例演習を通して、より実践的な看護過程のプロセスについて、臨床経験のある各専門領域の教員が協力して教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者にとって必要な看護を見きわめ、提供するプロセスである看護過程を活用できる。 2. 看護過程を用いて、対象者の常在条件・病理的条件（健康障害・治療や検査）、ニーズ、強みなどを関連・統合し、対象に応じた問題の抽出・優先順位の決定および対象にとって最善の目標設定・看護計画の立案ができる。 			
授業計画 回	時間	内容		方法
1	2	ガイダンス（ジグソー学習による演習の進め方） 事例紹介（成人期・老年期の患者）、グルーピング、演習計画		講義・演習
2	2	成人期、老年期における患者の看護過程の展開		演習
3	2	成人期、老年期における患者の看護過程の展開		演習
4	2	看護過程の中間報告会・教員助言		演習
5	2	成人期、老年期における患者の看護過程の展開		演習
6	2	成人期、老年期における患者の看護過程の展開		演習・講義
7	2	成人期における患者の看護過程の発表、講評		演習・講義
8	2	成人期、老年期における患者の看護過程の発表、講評		演習・講義
9	2	事例紹介（周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者）、 グルーピング、演習計画		演習
10	2	周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の看護過程の展開		演習
11	2	周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の看護過程の展開		演習
12	2	周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の看護過程の展開		演習
13	2	周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の看護過程の展開		演習・講義
14	2	周産期・小児期の看護過程の発表・講評		演習・講義

15	2	精神障害、在宅療養患者の看護過程の発表・講評	講義・演習
授業時間外の学習	授業時間で行えなかった課題の実施 発表会前には、各事例に対する学習を行い、グループで作成した資料を熟読し疑問点や意見を考えておくこと。		
テキスト	永田明，石川ふみよ：看護がみえる vol.4 看護過程の展開，メディックメディア V ヘンダーソン著：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会		
参考文献	基礎看護学共通基本技術で配布された資料や看護過程記録、手引き 看護学の教科書全般、配布資料		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	評価表にて評価する。(成人期・老年期の事例のうちの1事例 および周産期・小児期・精神障害・在宅療養患者の事例のうち1事例の計2事例を各50点で評価し、合算する。)		

授業科目	看護倫理	担当 教 員	氏名	下川原 尚子
単位・時間数	1単位・15時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院で助産師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	既習の学習で看護倫理について考えてきた。この科目では、倫理は看護実践の中にあり、看護師が持つ価値観をもとに看護を実践していること、日々の看護実践の中で起こりうる倫理的問題に直面したときに対象者の最善の利益とは何か考え行動することが大切であると気づけるよう授業を展開する。看護実践の中で遭遇する様々な問題や倫理的ジレンマの中で判断、行動している過程には根拠がある。事例を通してその考えに至る過程を学べるよう教授する。領域横断科目であり、各領域の具体的な事例をもとに倫理的課題について考え倫理は身近にあること、人間の生活に即していること、倫理とは何か考えるだけでなく看護実践の中にあるものであり倫理を大切に実践できるように担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理とは何か考えることができる。 2. 看護実践の場において倫理的意思決定のステップと検討方法が理解できる。 3. 倫理的問題を考え対象者の最善の利益を守るための行動を考えることができる。 4. 看護倫理を自己の看護実践と結び付けて考えることができる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	看護倫理とは	講義
	2	2	倫理的意思決定のステップと事例検討	講義・演習
	3	2	事例検討の方法	演習
	4	2	さまざまな看護活動と倫理 (終末期看護、地域・在宅看護、小児看護、母性看護、精神看護)	GW
	5	2	さまざまな看護活動と倫理 (終末期看護、地域・在宅看護、小児看護、母性看護、精神看護)	GW
	6	2	社会的要配慮者の看護と倫理 (認知症、難病、虐待、障がい者)	GW
	7	2	社会的要配慮者の看護と倫理 (認知症、難病、虐待、障がい者)	GW
	8	1	まとめ	講義・演習
授業時間外の学習	講義のテーマに沿った課題を授業中に提示するので、課題に対するレポートを作成し、提出する。			
テキスト	小西恵美子編集：NiCE 看護学テキスト 看護倫理，南江堂			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ、専門Ⅱの各教科書 医学書院など 必要時、講義の中で提示する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	講義のテーマに沿った課題レポートで評価する。 評価は、評価表を用いて個人レポート 60 点、GW レポート 40 点の計 100 点で評価する。			

授業科目	基礎看護学実習 2	担当教員	氏名	大木 克己								
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員								
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務								
受講要件	1 年次配当の基礎看護学の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。											
授業概要	基礎看護学実習 2 までに学習したことを踏まえ、受け持ち患者を通して人間である対象を理解させ、コミュニケーション技法を用いて、療養生活における未充足ニーズを考えさせる。また、療養生活を送る対象の生活援助を行い、看護技術の基本(原理・原則)を踏まえた日常生活援助を実施し、対象の個性について考える事が出来るよう臨床での経験を活かし指導する。対象の健康・生活上の問題を把握し、看護過程を踏まえながら看護を実践する基礎的能力を身につける実習とする。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場である病院の役割や機能および患者の療養環境が理解できる。 2. 患者を支える看護師を中心とした医療従事者の役割・機能を理解できる。 3. 入院に伴う患者の気持ちを考え、患者を尊重した態度で接することができる。 4. 患者とより良い人間関係を成立させるために、患者および患者を取り巻く人々と効果的なコミュニケーションを図ることができる。 5. 全人的な視点の持ち方を理解するとともに、患者の未充足のニーズを見出し、必要な援助を考えることができる。 6. 安全・安楽・自立を踏まえ、患者のニーズを充足させるための援助を指導者の指導のもとで実施できる。 7. 対象に必要な看護を展開する過程を理解し、実践できる。 											
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間数</th> <th>内容</th> <th>実習時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90 時間</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者のニーズの把握 2. 患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在としての理解 3. 看護問題を解決するための計画立案と援助の実施・評価 4. 患者との信頼関係の構築 </td> <td>2 年次 5 月～6 月 12 日間</td> <td>北九州総合病院</td> </tr> </tbody> </table>				時間数	内容	実習時期	実習場所	90 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者のニーズの把握 2. 患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在としての理解 3. 看護問題を解決するための計画立案と援助の実施・評価 4. 患者との信頼関係の構築 	2 年次 5 月～6 月 12 日間	北九州総合病院
時間数	内容	実習時期	実習場所									
90 時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者のニーズの把握 2. 患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在としての理解 3. 看護問題を解決するための計画立案と援助の実施・評価 4. 患者との信頼関係の構築 	2 年次 5 月～6 月 12 日間	北九州総合病院									
授業時間外の学習	<p>実習前に事前学習を行う。詳細は事前学習作成時に説明する。 事前学習は実習で活用できるように自分で工夫し、最低限、以下の内容を含めて準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の一連のプロセスの理解を深める学習(特に人間の反応の捉え方: 基本的ニーズを把握する視点や観察点、全体像の捉え方などは復習しておくこと) ・日常生活援助技術(基礎看護学で学んでいる全ての内容)について実施できるものに関する学習。 ・基礎看護学実習 1 B で行った別紙「清潔、活動、食事、排泄」の 4 項目の右側半分を記載する。 ・受け持ち患者もしくは担当病棟に多い疾患や治療、検査、処置と看護に関する学習。 <p>実習までに、各自実習で行うバイタルサイン測定や不得意な援助の練習をすること。実習中に解決できなかったこと出された課題は翌日までに調べ、説明できるようにすること。</p> <p>実習中に学習したことは、事前学習に追加・修正する。また、事前学習にない内容は追加学習を行うこと。</p> <p>事例検討会の際は担当教員の指導の下、テーマの理解が深められるように資料を作成して臨むこと。</p>											

テキスト	<p>有田清子他：系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 有田清子他：系統看護学講座 基礎看護学 4 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院 永田明，石川ふみよ：看護がみえる vol.4 看護過程の展開，メディックメディア</p>
参考文献	<p>井手隆文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経，医学書院 江口正信他：検査値早わかりガイド，医学芸術社 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論，医学書院 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論[1] 成人看護学総論，医学書院 黒田裕子：改訂版 黒田裕子の入門・看護診断，照林社 論理学で指定されたテキスト、文献、またはプリント</p>
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	<p>技術経験録による。</p>
成績評価の方法と基準	<p>「基礎看護学実習 2」評価表を用いて評価する。60 点以上を合格とする。</p>

授業科目	地域・在宅看護論実習 1	担当 教員	氏名	福田 敦子								
単位・時間数	1 単位・45 時間		所属	専任教員								
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務								
受講要件	1 年次配当の授業科目をすべて修得している。基礎看護学実習の単位を修得している。											
授業概要	地域で生活する対象の生活や健康を支えるために行われている多様な活動と支援の実際を知り、保健医療福祉における施設間及び多職種との連携と継続について学ぶ。また、それらの支援や活動を通して看護の役割について考えられるよう担当教員の実務経験を活かして指導を行う。											
到達目標	1. 地域で生活する人々の各ライフステージにおける健康や生活を守る各機関の支援について学ぶ。 2. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携と継続について学ぶ。											
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>実習時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45 時間</td> <td>1. 地域における保健機関の機能・役割 2. 地域における保健活動の実際 3. 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動 4. 地域で暮らす人々の生活を支える福祉機関の機能・役割 5. 生活を助ける福祉用具の実際 6. 自宅以外の生活の場の理解 7. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性</td> <td>2 年次 10 月 7 日間</td> <td>小倉南区役所 地域のクリニック 社会福祉協議会 福祉用具プラザ北九州 特別養護老人ホームソレイユ浅野</td> </tr> </tbody> </table>				時間	内容	実習時期	実習場所	45 時間	1. 地域における保健機関の機能・役割 2. 地域における保健活動の実際 3. 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動 4. 地域で暮らす人々の生活を支える福祉機関の機能・役割 5. 生活を助ける福祉用具の実際 6. 自宅以外の生活の場の理解 7. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性	2 年次 10 月 7 日間	小倉南区役所 地域のクリニック 社会福祉協議会 福祉用具プラザ北九州 特別養護老人ホームソレイユ浅野
時間	内容	実習時期	実習場所									
45 時間	1. 地域における保健機関の機能・役割 2. 地域における保健活動の実際 3. 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動 4. 地域で暮らす人々の生活を支える福祉機関の機能・役割 5. 生活を助ける福祉用具の実際 6. 自宅以外の生活の場の理解 7. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性	2 年次 10 月 7 日間	小倉南区役所 地域のクリニック 社会福祉協議会 福祉用具プラザ北九州 特別養護老人ホームソレイユ浅野									
授業時間外の学習	指定された課題を行って実習に臨む。(課題提出が実習開始の条件である。)											
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 1, 医学書院 河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 2, 医学書院											
参考文献	必用に応じて紹介する。											
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	技術経験録による。											
成績評価の方法と基準	「地域・在宅看護論実習 1」評価表を用いて評価する。60 点以上を合格とする。											

授業科目	成人看護学実習 [セルフマネジメント実習]	担当 教員	氏名	東本 七重										
単位・時間数	1単位・45時間		所属	専任教員										
対象学生	2023年度・2年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務										
受講要件	1年次配当の授業科目をすべて修得している。基礎看護学実習の単位を修得している。													
授業概要	<p>健康はその人を取り巻く多様な環境・社会、日々の生活の積み重ねに影響を受け、促進あるいは破綻に至る。本実習では、健康を維持促進し、安全な生活を送れるための方法を考えさせる。健康の保持増進・疾病予防・疾病の早期発見のための健康管理活動を西日本産業衛生会の実習を通して理解させる。</p> <p>入院期間の短縮化、治療薬や身体侵襲が少ない手術の進歩によって、自己管理をしながら療養生活を送る患者が増加している。病院実習では、生活しながら医療を必要とする外来を訪れる対象のニーズ、外来看護の役割について病院外来の実習を通して理解させる。また、患者支援センターや病棟での実習を通して、地域から病院へ、病院から地域での生活を安全かつ安心して送るための医療や看護の継続的な支援、連携を学ばせる。さらに、それぞれの実習での学びをもとに、そのつながりを生活者の観点から考えられるよう看護師としての実務経験を生かして指導する。</p>													
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の概要を知り、労働者への健康管理活動の実際を理解する。 2. 健康管理活動の場に訪れる対象の身体的・心理的・社会的・霊的特徴が理解できる。 3. 様々な職種が生活に影響を与える因子について考えることができる。 4. 健康管理活動の場における看護職の役割について理解できる。 5. 健康破綻が与える影響と健康再獲得に向けた医療職の役割を知ることができる。 6. 地域と病院をつなぎ健康管理活動を行う対象者を支える医療職の役割、活動について知ることができる。 													
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>時間</th> <th>実習内容</th> <th>時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A. 働く対象の健康を守る</td> <td>17</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の概要 2. 産業保健に携わる職種と役割 3. 職業に起因する疾患と健康障害 4. 法律に基づく健康診断の種類、方法 5. 健康診断後のフォローと健康教育 6. 健康診断の実際と看護職の役割 7. 受診者の心理 8. 健康診断に関わる職種と連携 </td> <td>2年次 1～2月 2日間</td> <td>西日本産業衛生会</td> </tr> </tbody> </table>				区分	時間	実習内容	時期	実習場所	A. 働く対象の健康を守る	17	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の概要 2. 産業保健に携わる職種と役割 3. 職業に起因する疾患と健康障害 4. 法律に基づく健康診断の種類、方法 5. 健康診断後のフォローと健康教育 6. 健康診断の実際と看護職の役割 7. 受診者の心理 8. 健康診断に関わる職種と連携 	2年次 1～2月 2日間	西日本産業衛生会
区分	時間	実習内容	時期	実習場所										
A. 働く対象の健康を守る	17	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業保健の概要 2. 産業保健に携わる職種と役割 3. 職業に起因する疾患と健康障害 4. 法律に基づく健康診断の種類、方法 5. 健康診断後のフォローと健康教育 6. 健康診断の実際と看護職の役割 7. 受診者の心理 8. 健康診断に関わる職種と連携 	2年次 1～2月 2日間	西日本産業衛生会										

実習の概要	B.健康破綻とセルフマネジメント	28	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外来の特徴 2. 受診目的と対応 3. 外来受診時の患者とその家族の心理 4. 外来看護師の役割 5. 検査・指導時の役割と援助 6. 入院時の心理状況の理解とその対応 7. 入院時の各職種の支援 8. 健康再獲得に向けた医療支援 9. セルフケア確立に向けた支援 10.退院時の患者、家族の心理 11.退院時の患者、家族の支援 12.患者支援センターの役割と支援 	2年次 10月 4日間	北九州総合病院 外来 病棟 患者支援センター
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に事前学習課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 ・実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。 				
テキスト	小松浩子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学①成人看護学総論，医学書院 香春知永：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論，医学書院 国民衛生の動向（最新版），厚生労働省統計協会				
参考文献	数間恵子：The 外来看護 時代を超えて求められる患者支援，日本看護協会出版会 数間恵子：外来看護パーフェクトガイド 拡大する看護の役割と診療報酬上の評価，看護の科学社				
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	技術経験録による。				
成績評価の方法と基準	「成人看護学実習」評価表を用いて評価する。60点以上を合格とする。				

授業科目	老年看護学実習 1	担当教員	氏名	藤本 歩								
単位・時間数	1 単位・45 時間		所属	専任教員								
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務								
受講要件	1 年次配当の授業科目をすべて修得している。基礎看護学実習の単位を修得している。											
授業概要	老年看護学実習 1 では、施設の役割と機能を学習し、介護保険法のもと、施設で生活する高齢者とコミュニケーションを通して、日常生活援助を必要とする高齢者の介護や看護援助を理解できるように指導する。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的特徴が理解できる。 2. 老年期にある対象の生きがいや心身の健康保持のための活動が理解できる。 3. 老年期にある対象の生活の場や日常生活を知り、必要な看護援助が理解できる。 4. 保健医療福祉の各専門職との協働、及びチームにおける看護師の役割が理解できる。 											
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内 容</th> <th>実習時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45</td> <td>介護が必要な高齢者の理解とその看護</td> <td>2 年次 10 月 6 日間</td> <td>介護老人保健施設 あけぼの苑</td> </tr> </tbody> </table>				時間	内 容	実習時期	実習場所	45	介護が必要な高齢者の理解とその看護	2 年次 10 月 6 日間	介護老人保健施設 あけぼの苑
時間	内 容	実習時期	実習場所									
45	介護が必要な高齢者の理解とその看護	2 年次 10 月 6 日間	介護老人保健施設 あけぼの苑									
授業時間外の学習	・指定された課題を行って実習に臨む。(課題提出が実習開始の条件である。)											
テキスト	北川公子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，医学書院											
参考文献	亀井智子 編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術，医学書院											
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	技術経験録による。											
成績評価の方法と基準	「老年看護学実習 1」評価表を用いて評価する。60 点以上を合格とする。											

授業科目	老年看護学実習 2	担当 教員	氏名	藤本 歩								
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員								
対象学生	2023 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務								
受講要件	1 年次配当の授業科目をすべて修得している。基礎看護学実習の単位を修得している。											
授業概要	老年看護学実習 2 では、健康障害にある高齢者の特徴をふまえて個別性に合った看護過程を展開しながら、看護を実践できるよう指導する。実習を通して、高齢者の倫理的態度を養い、自己の老年看護観を深めていけるよう担当教員は看護師としての実務経験を活かして指導を進める。											
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害をもつ高齢者の全体像を理解できる。 2. 健康障害をもつ高齢者への看護を計画立案・実施・評価できる。 3. 高齢者やその家族とよい人間関係を結ぶことができる。 4. 医療チームの一員としての看護師の姿勢・態度が習得できる。 											
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内 容</th> <th>実習時期</th> <th>実習場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90</td> <td>健康障害のある高齢者の理解とその看護</td> <td>2 年次 11 月~12 月 3 週間</td> <td>北九州八幡東病院 北九州安部山公園病院</td> </tr> </tbody> </table>				時間	内 容	実習時期	実習場所	90	健康障害のある高齢者の理解とその看護	2 年次 11 月~12 月 3 週間	北九州八幡東病院 北九州安部山公園病院
時間	内 容	実習時期	実習場所									
90	健康障害のある高齢者の理解とその看護	2 年次 11 月~12 月 3 週間	北九州八幡東病院 北九州安部山公園病院									
授業時間外の学習	・指定された課題を行って実習に臨む。(課題提出が実習開始の条件である。)											
テキスト	北川公子 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論，医学書院											
参考文献	亀井智子 編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術，医学書院											
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	技術経験録による。											
成績評価の方法と基準	「老年看護学実習 2」評価表を用いて評価する。60 点以上を合格とする。											

2023年度 Syllabus

(3年生)



西日本看護専門学校

授業科目	成人看護学実習Ⅱ・Ⅲ	担当 教員	氏名	東本 七重																						
単位・時間数	5単位・225時間		所属	専任教員																						
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																						
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。																									
授業概要	<p>成人看護学実習では、成人期にある対象の特徴を理解し、健康レベルに応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を習得させたい。健康レベルの変化を、疾病の経過という視点のみならず、対象の生活へ影響という視点も含め捉えさせる。</p> <p>成人看護学実習Ⅱでは、病棟実習を通して、比較的状态が安定している回復期、慢性期にある対象の看護を学ばせたい。成人看護学実習Ⅲでは、病棟実習に加え、手術室・集中治療室や緩和ケア病院での実習を行い、あらゆる健康レベルにある対象への看護を学ばせたい。担当教員の看護師としての実務経験を活かして実習指導を行う。</p>																									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人各期にある対象の身体的・心理的・社会的・霊的特徴が理解できる。 2. 成人期の健康障害がある人の特徴が理解できる。 3. 健康レベルに応じた個別的な看護が実践できる。 4. 手術を受ける患者がおかれている状況を知り、手術中の安全と緊張緩和のための看護が理解できる。 5. 生命危機状況にある患者がおかれている状況を知り、生理的ニーズの充足と精神的安定のための看護が理解できる。 6. 終末期にある患者や家族の状況を知り、人生の最期の時を支援する看護の役割を理解することができる。 7. 保健医療チームの連携と看護の役割が理解できる。 8. 自己の看護観を深め、専門職としての看護師の態度が習得できる。 																									
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成人看護学実習Ⅱ</td> <td>2</td> <td>90</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. 慢性期または回復期にある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携の必要性を理解 4. グループの一員および看護チームの一員として、各自の役割の理解と基本的態度の習得 </td> <td>5～7月 12日間</td> <td>北九州総合病院 各病棟</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成人看護学実習Ⅲ</td> <td rowspan="2">3</td> <td>17.5</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象の不安や緊張を緩和するための看護の理解 2. 生命危機的状況にある患者の生理的ニーズ充足のための看護と精神的安定のための看護の理解 </td> <td>4月 半日 5～8月 2日間</td> <td>北九州総合病院 OPR・ICU</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある患者と家族を支える看護の理解 </td> <td>8月 11月 1日間</td> <td>聖ヨハネ病院</td> </tr> </tbody> </table>				区分	単位	時間	内容	時期	場所	成人看護学実習Ⅱ	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. 慢性期または回復期にある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携の必要性を理解 4. グループの一員および看護チームの一員として、各自の役割の理解と基本的態度の習得 	5～7月 12日間	北九州総合病院 各病棟	成人看護学実習Ⅲ	3	17.5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象の不安や緊張を緩和するための看護の理解 2. 生命危機的状況にある患者の生理的ニーズ充足のための看護と精神的安定のための看護の理解 	4月 半日 5～8月 2日間	北九州総合病院 OPR・ICU	5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある患者と家族を支える看護の理解 	8月 11月 1日間	聖ヨハネ病院
区分	単位	時間	内容	時期	場所																					
成人看護学実習Ⅱ	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. 慢性期または回復期にある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携の必要性を理解 4. グループの一員および看護チームの一員として、各自の役割の理解と基本的態度の習得 	5～7月 12日間	北九州総合病院 各病棟																					
成人看護学実習Ⅲ	3	17.5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける対象の不安や緊張を緩和するための看護の理解 2. 生命危機的状況にある患者の生理的ニーズ充足のための看護と精神的安定のための看護の理解 	4月 半日 5～8月 2日間	北九州総合病院 OPR・ICU																					
		5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期にある患者と家族を支える看護の理解 	8月 11月 1日間	聖ヨハネ病院																					

<p>実習の概要</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="392 170 491 584"></td> <td data-bbox="499 170 587 584"></td> <td data-bbox="595 170 683 584">112.5</td> <td data-bbox="691 170 1062 584"> 1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. あらゆる健康レベルにある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携をとり継続看護を計画し一部実施 4. 専門職としての態度の取得 5. 自己の目指す看護師像と課題へ向けての取り組み方の明確化 </td> <td data-bbox="1070 170 1193 584">6～9月 16日間</td> <td data-bbox="1201 170 1398 584">北九州総合病院 各病棟</td> </tr> </table>			112.5	1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. あらゆる健康レベルにある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携をとり継続看護を計画し一部実施 4. 専門職としての態度の取得 5. 自己の目指す看護師像と課題へ向けての取り組み方の明確化	6～9月 16日間	北九州総合病院 各病棟
		112.5	1. 健康障害を持つ成人期にある対象の理解 2. あらゆる健康レベルにある対象への看護過程の展開 3. 他職種との連携をとり継続看護を計画し一部実施 4. 専門職としての態度の取得 5. 自己の目指す看護師像と課題へ向けての取り組み方の明確化	6～9月 16日間	北九州総合病院 各病棟		
<p>授業時間外の学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に事前学習課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 ・実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。 						
<p>テキスト</p>	<p>基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、成人看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅴで使用した教科書</p>						
<p>参考文献</p>	<p>実習中に必要に応じて指定する。</p>						
<p>成績評価の方法と基準</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学実習Ⅱ評価表を用いて評価する。 ・成人看護学実習Ⅲ評価表を用いて評価する。 <p>成人看護学実習Ⅲは</p> <p>① 病棟実習 100点、② 手術室・集中治療室、緩和ケア病院実習 100点で評価し、①②ともに 60点以上を合格とする。</p> <p>成人看護学実習の最終評価は</p> <p>①病棟実習 80%、②手術室・集中治療室、緩和ケア病院 20%で評価する。</p>						

授業科目	小児看護学実習	担当 教員	氏名	松井 なつみ																									
単位・時間数	2単位・93.5時間		所属	専任教員																									
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																									
受講要件	1・2年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。																												
授業概要	<p>小児看護学実習では、既習の学習をもとに、個々の成長発達の過程や集団の中での成長発達について理解する。また、小児との関わりや遊びを通してコミュニケーションの方法や遊びの意義について考える。それらをふまえ、健康障害のある小児と家族に対して最善の看護とは何か考えられるようにしたい。また、実習全体を通して小児を尊重した関わりとは何か、自分の行動を振り返り考えさせ、子ども観を育んでいきたい。</p> <p>さらに、小児との関わりの中で、小児の生きる力を感じ取り、成長発達を促す関わりについても考え実践できるよう実務経験を活かして実習指導を行う。</p>																												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、成長・発達を促すための援助が実践できる。 2. 小児の疾患特有の諸症状と疾患及び入院が小児と家族に及ぼす影響を理解し、発達段階と疾患の状態に応じた適切な援助ができる。 3. 小児にふさわしい生活環境及び入院環境の調整について理解し、小児の発達段階や疾患の状態、環境に応じた安全・事故防止への援助の視点を持ち看護実践できる。 4. 小児保健医療チームの一員としての小児看護師の役割が理解できる。 5. 健全な小児観を養い、小児看護師として必要な態度を身につけることができる。 																												
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">小児看護学 実習Ⅰ</td> <td rowspan="3">2</td> <td>23</td> <td>乳幼児期にある健康な小児の理解</td> <td>5～8月</td> <td>聖母園 あけぼの保育園 あけぼの愛育保育園</td> </tr> <tr> <td></td> <td>学童期にある健康な小児の理解</td> <td>11月</td> <td>北九州市立葛原小学校</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>障害をもつ小児の理解</td> <td>7月 9月</td> <td>北九州市立 総合療育センター</td> </tr> <tr> <td>小児看護学 実習Ⅲ</td> <td>67.5</td> <td>健康障害をもつ小児と家族の理解 健康障害をもつ小児と家族の看護</td> <td>5～11月</td> <td>北九州総合病院 (病棟・外来)</td> </tr> </tbody> </table>				区分	単位	時間	内容	時期	場所	小児看護学 実習Ⅰ	2	23	乳幼児期にある健康な小児の理解	5～8月	聖母園 あけぼの保育園 あけぼの愛育保育園		学童期にある健康な小児の理解	11月	北九州市立葛原小学校	3	障害をもつ小児の理解	7月 9月	北九州市立 総合療育センター	小児看護学 実習Ⅲ	67.5	健康障害をもつ小児と家族の理解 健康障害をもつ小児と家族の看護	5～11月	北九州総合病院 (病棟・外来)
区分	単位	時間	内容	時期	場所																								
小児看護学 実習Ⅰ	2	23	乳幼児期にある健康な小児の理解	5～8月	聖母園 あけぼの保育園 あけぼの愛育保育園																								
			学童期にある健康な小児の理解	11月	北九州市立葛原小学校																								
3		障害をもつ小児の理解	7月 9月	北九州市立 総合療育センター																									
小児看護学 実習Ⅲ	67.5	健康障害をもつ小児と家族の理解 健康障害をもつ小児と家族の看護	5～11月	北九州総合病院 (病棟・外来)																									
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所実習事前学習 テーマ「乳幼児期の小児を理解するために必要なこと」 2. 小学校実習事前学習 テーマ「学童期の小児を理解するために必要なこと」 3. 病棟実習・北九州総合療育センター事前学習 テーマ「健康障害のある小児を理解するために必要なこと」 <p>※それぞれ、テーマに沿って、実習するとき自分がどのような学習をすれば、学びの多い実習にすることができるか自分で考えて事前学習の内容を考えること。</p>																												
テキスト	<p>奈良間美穂 他：系統看護学講座 専門Ⅱ小児看護学[1] 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院</p> <p>奈良間美穂 他：系統看護学講座 専門Ⅱ小児看護学[2] 小児看護学各論，医学書院</p> <p>任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院</p>																												
参考文献	学研 疾患別看護過程の展開																												
成績評価の方法と基準	別紙評価表（実習オリエンテーション時提示）により評価する。																												

授業科目	母性看護学実習			担当 教員	氏名	平川 宣子																				
単位・時間数	2単位・90時間				所属	専任教員																				
対象学生	2023年度・3年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																				
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。																									
授業概要	学内での学習をもとに、周産期(妊娠・分娩・産褥期)にある母性と新生児及びライフステージ各期にある女性の看護を理解させる。母性看護学実習では母児とその家族の全体像を把握し看護実践を通して必要な援助が提供できる基礎的能力を身につけさせる。また、母児及びその家族に対して看護専門職者が果たすべき役割、他職種との連携について理解させる。地域社会で行われている子育て支援のサポートの実際から子育て支援の必要性を理解させる。さらに生命の尊厳についての認識や自己の母性観・父性観を育む機会となるよう実務経験を活かして実習指導を行う。																									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な妊娠・分娩・産褥各期の経過と胎児及び新生児の成長発達の経過を理解する。 2. 母性看護に必要な援助技術を理解する。 3. 産科病棟(外来)にて母乳管理と母児及び家族への保健指導の実際を知る。 4. 女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)における看護を知る。 5. 母親への子育て支援の実際や必要性を理解できる。 6. 自己の母性観・父性観を深め、母性看護者として必要な態度が習得できる。 																									
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>母性看護学実習Ⅰ</td> <td rowspan="2">2</td> <td rowspan="2">78</td> <td>妊娠・産褥期の看護 女性のライフサイクル各期の看護</td> <td rowspan="2">5～11月</td> <td rowspan="2">北九州総合病院 助産師外来 4階東病棟 学内3時間 (事例検討会)</td> </tr> <tr> <td>母性看護学実習Ⅱ</td> <td>妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 女性のライフサイクル各期の看護</td> </tr> <tr> <td>母性看護学実習Ⅲ</td> <td></td> <td>12</td> <td>子育て支援の実際</td> <td>5～8月</td> <td>北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター</td> </tr> </tbody> </table>						区分	単位	時間	内容	時期	場所	母性看護学実習Ⅰ	2	78	妊娠・産褥期の看護 女性のライフサイクル各期の看護	5～11月	北九州総合病院 助産師外来 4階東病棟 学内3時間 (事例検討会)	母性看護学実習Ⅱ	妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 女性のライフサイクル各期の看護	母性看護学実習Ⅲ		12	子育て支援の実際	5～8月	北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター
区分	単位	時間	内容	時期	場所																					
母性看護学実習Ⅰ	2	78	妊娠・産褥期の看護 女性のライフサイクル各期の看護	5～11月	北九州総合病院 助産師外来 4階東病棟 学内3時間 (事例検討会)																					
母性看護学実習Ⅱ			妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 女性のライフサイクル各期の看護																							
母性看護学実習Ⅲ		12	子育て支援の実際	5～8月	北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター																					
授業時間外の学習	<p>妊娠・分娩・産褥各期の生理及び看護、出生直後の児の看護、新生児の生理及び看護 妊婦健康診査の目的・内容・回数・マイナートラブルとその対処 切迫流産・切迫早産・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の病態と看護 新生児高ビリルビン血症、新生児低血糖の病態及び看護 陣痛促進時の看護、 母性看護技術(レオポルド触診法、NST・CTGの装着と判読、乳房の管理、保健指導時の留意点、沐浴、おむつ交換、新生児の計測など)実習中随時追加していく。</p>																									
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論，医学書院 森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論，医学書院																									

<p>参考文献</p>	<p>石村由利子：根拠と事故防止からみた母性看護技術，医学書院 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他監修：病気がみえる vol.10 産科，MEDIC MEDIA など 平沢美恵子：写真でわかる母性看護技術アドバンス，インターメディカ 櫛引美代子：カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術，医歯薬出版</p>
<p>成績評価の方法と基準</p>	<p>別紙評価表（実習オリエンテーション時提示）により評価する。</p>

授業科目	精神看護学実習	担当 教員	氏名	鉦賀 千夏																									
単位・時間数	2単位・90時間		所属	専任教員																									
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																									
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。																												
授業概要	精神に障害を持つ人に対する理解を深め、精神保健・医療・福祉における看護の役割・機能について学び、精神面の看護を実践するための基礎的能力を習得できるよう担当教員の看護師としての実務経験や精神看護学実習指導経験を活かして指導を行う。																												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルの各段階における精神に障害をもつ人の特徴を理解できる。 2. 精神に障害をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえた看護過程の展開ができる。 3. 対象の個別性を踏まえた日常生活行動への援助、生活指導ができる。 4. 精神に障害を持つ人に対する治療的関わりを理解し、コミュニケーション技術の基本を習得できる。 5. 精神保健・医療・福祉における看護の役割・機能を理解できる。 6. 地域で生活する精神障害者の現状と支援体制を理解できる。 7. 健全な精神障害者観を養い、心のケアを行うための基本的態度を習得できる。 																												
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実習Ⅰ 精神看護学</td> <td>2</td> <td>5.5</td> <td>知的障害をもつ小児の理解</td> <td>9月・10月 1日間</td> <td>北九州市立 北方ひまわり学園</td> </tr> <tr> <td>実習Ⅱ 精神看護学</td> <td></td> <td>76.5</td> <td>精神に障害をもつ成人期・老年期にある人の看護</td> <td>5～9月 10日間</td> <td>小倉蒲生病院 または 南ヶ丘病院</td> </tr> <tr> <td>実習Ⅲ 精神看護学</td> <td></td> <td>8</td> <td>地域における精神障害者支援の理解</td> <td>9～10月 1日間</td> <td>北九州市立浅野 社会復帰センター</td> </tr> </tbody> </table> <p>*詳細は実習要項にて説明する。</p>					区分	単位	時間	内容	時期	場所	実習Ⅰ 精神看護学	2	5.5	知的障害をもつ小児の理解	9月・10月 1日間	北九州市立 北方ひまわり学園	実習Ⅱ 精神看護学		76.5	精神に障害をもつ成人期・老年期にある人の看護	5～9月 10日間	小倉蒲生病院 または 南ヶ丘病院	実習Ⅲ 精神看護学		8	地域における精神障害者支援の理解	9～10月 1日間	北九州市立浅野 社会復帰センター
区分	単位	時間	内容	時期	場所																								
実習Ⅰ 精神看護学	2	5.5	知的障害をもつ小児の理解	9月・10月 1日間	北九州市立 北方ひまわり学園																								
実習Ⅱ 精神看護学		76.5	精神に障害をもつ成人期・老年期にある人の看護	5～9月 10日間	小倉蒲生病院 または 南ヶ丘病院																								
実習Ⅲ 精神看護学		8	地域における精神障害者支援の理解	9～10月 1日間	北九州市立浅野 社会復帰センター																								
授業時間外の学習	事前学習：詳細は事前学習オリエンテーションで説明する。(2年次の年度末)実習に臨む前に、実習要項をよく読み、実習目標が達成できるように学習を行う。授業資料を実習時に活用できるように整理する。実習前・中・後で、不足していた点などがあれば追加する。																												
テキスト	武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1] 精神看護の基礎，医学書院 武井麻子他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開，医学書院																												
参考文献	川野雅資：精神看護学Ⅱ（精神臨床看護学），ヌーヴェルヒロカワ 森 千鶴：これからの精神看護学，ピラールプラス 平澤久一：非言語的コミュニケーションUP術，メディカ出版 南 裕子 他：精神科看護の理論と実践—卓越，ヌーヴェルヒロカワ 田中美恵子 他：精神看護学—学生-患者のストーリーで綴る実習展開—，医歯薬出版 岡田佳詠：看護のための認知行動療法，医学書院																												
成績評価の方法と基準	別紙評価表による																												

統合分野

授業科目	在宅看護論方法論Ⅱ－1		担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1単位・15時間			所属	専任教員
対象学生	2023年度・3年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	在宅看護の対象者は小児から高齢者まで幅広く、疾患も多様である。また、対象者の家族や取り巻く環境・地域も看護の対象である。既習の看護の基本や看護援助の方法を踏まえて、在宅における特有の看護について理解を深めてほしい。実務経験を通して得た療養者の実際を伝えることで、療養者の多様な生活や価値観を想起しながら、医療を継続していくという医療の側面と療養者の生き方・考え方を支えるという生活の側面を考えた上で看護過程が展開できるよう、個人学習、共同学習を通して学びを深められるよう授業を進める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における看護展開の特徴について述べることができる。 2. 対象別の在宅療養者とその家族に対する事例展開ができる。 				
授業計画	回	時間	内容		方法
	1	2	在宅看護における看護過程の特徴 在宅看護における情報収集およびアセスメントの視点		講義
	2	3	看護過程展開（個人）：事例紹介・決定、情報の整理、アセスメント		講義・演習
	3	2	看護過程展開（個人）：全体図		演習
	4	2	看護過程展開（個人）：看護目標、問題の明確化		演習
	5	2	看護過程展開（個人）：看護計画立案		演習
	6	2	看護過程展開（GW）：発表会準備		演習
	7	2	看護過程展開：発表会		演習
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・第5・6・7回の授業終了時に看護過程展開レポートの提出がある。授業時間内に完成できるよう事前学習が必要である。 ・授業終了後、展開を通しての学びをレポートする。 				
テキスト	秋山正子 他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論，医学書院				
参考文献	授業中に提示する。				
成績評価の方法と基準	看護過程展開レポート 45%・受講態度 5%・筆記試験 50% <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程の展開・受講態度についてはルーブリックの評価表を配布する。 ・提出遅れは1日ごとに減点する。 ・筆記試験は45分とする。 				

授業科目	在宅看護論方法論Ⅱ－2	担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1単位・30時間		所属	専任教員
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>多様な療養者と家族の在宅生活での理解を深められるよう事例を用いて、在宅療養者とその家族の支援に必要な看護や社会資源について講義で学んだことを生かし実践（役割演技）を通して考える演習とする。</p> <p>学生の考えや演じた内容を学生間で共有した上で、学生が在宅での生活や療養場面をイメージしやすいよう担当者の実務経験をふまえ助言指導を行う演習形態で授業を進める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅において医療や看護を提供するにあたり、必要となる知識や技術について説明し、実践することができる。 2. 対象に応じた社会資源の内容や活用方法について説明できる。 3. 対象の多様な価値観を尊重し、それに応じた考え方、療養の指導方法について考えることができる。 			
授業計画	回	時間	内容	方法
	1	2	演習オリエンテーション	演習
	2	4	看護器具の紹介とパンフレット作成	演習
	3	4	事例演習	演習
	4	4	事例演習	演習
	5	4	事例演習	演習
	6	2	事例組み立て	演習
	7	2	各事例情報収集	演習
	8	4	看護計画立案	演習
	9	2	指導実施	演習
	10	2	演習のまとめ・レポート作成についての説明	講義
授業時間外の学習	演習事例を考える上で必要な制度、在宅看護技術の予習・復習			
テキスト	秋山正子 他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論，医学書院			
参考文献	必要時演習の中で紹介する。			
成績評価の方法と基準	演習参加度（40％）レポート（40％）提出物の期限（20％）別紙評価表にそって評価する。			

授業科目	統合技術演習Ⅱ		担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1単位・30時間			所属	専任教員
対象学生	2023年度・3年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>看護に関する各科目において修得した内容をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に 適応できるように知識と技術の統合を図ることをねらいとしている。これまで学習した 技術を複数の課題をもつ患者に複合して技術提供できるよう、シミュレーションを通し て、安全安楽に実践できることを目指す。さらに、優先すべき事象、予期しない患者の 反応、突発的な事象、時間的緊迫に対応できる能力を体得できているか、複数のシナリ オの看護場面を技術試験することで評価する。その後の振り返りを通して自己の課題を 明確にして統合実習に取り組めるようにする。また注射等の安全な看護技術の習得を目 指す。看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できるよう、急性期病院での実務 経験を活かし教授していく。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の看護の知識・技術を統合して、複数の対象の状況を把握し、優先順位と必要 な援助の判断ができる。 2. 対象の状況に応じて、適切な診療の補助技術が安全に実施できる。 				
授業計画			内容	方法	
回	時間				
1	2	1. ガイダンス 2. ケーススタディ シナリオ紹介 複数患者の状態把握			講義・演習
2	2	1. 複数患者の状態把握 2. 優先度、時間配分を考慮してタイムスケジュール作成			演習
3	2	1. 複数患者の状態把握 2. 優先度、時間配分を考慮してタイムスケジュール作成			発表・講義
4	2	患者の状態を踏まえた援助技術の根拠の理解			演習
5	2	患者の状態を踏まえた援助技術の根拠の理解			演習
6	4	吸引、経管栄養、浣腸、導尿、創傷処置、血糖測定 いずれかの技術演習			技術演習
7	4	吸引、経管栄養、浣腸、導尿、創傷処置、血糖測定 いずれかの技術演習			技術演習
8	2	1. 技術試験オリエンテーション(複数のシナリオの看護場面) 2. 技術テストに向けた練習			オリエンテーション・ 技術演習
9	2	技術テストに向けた練習			技術演習
10	4	1. 筋肉注射 (皮下注射) 2. 静脈内注射 3. 技術試験オリエンテーション (注射)			技術演習
11	4	1. 採血 2. 点滴静脈内注射 3. 留置針固定			技術演習
授業時間外の 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・各演習、技術演習前には、事前学習が必要となる。 ・第3回発表前には発表用資料を作成する。第2回の授業内で完成しない場合は時間外 での作成が必要となる。 ・第6・7回技術演習前に手順書の作成、印刷を行う。第4・5回の授業内で完成しな い場合は時間外でグループでの作成が必要となる。 				

テキスト	茂野香おる 他：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子 他：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 その他、各看護学領域での使用教科書
参考文献	各看護学領域での使用教科書
成績評価の方法と基準	<p>1. 課題レポート</p> <ul style="list-style-type: none"> ①複数患者のタイムスケジュール ②患者の状態を踏まえた援助計画 <ul style="list-style-type: none"> ・評価については、評価表を配布する。 ・課題レポートの提出遅れは1日ごとに減点とする。 <p>2. 技術試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ①複数のシナリオの看護場面 ②注射 <ul style="list-style-type: none"> ・技術試験については、評価表を配布し、別途オリエンテーションを行う。 ・①②共に100点で評価し、60点以下は再試験を行う。 <p>科目の最終評価は、受講態度・課題レポート60%、技術試験40%で評価する。</p>

授業科目	医療安全と災害看護		担当 教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2023 年度・3 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	<p>患者や家族の安全を保証することは看護職の責務である。安全で質の高い医療を提供するために、医療安全の基礎的知識を学ばせる。人間の特性を前提とし、医療事故が起きやすい状況や背景、また回避するための方策を考え理解させる。</p> <p>災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職者は健康に関わる専門職として、役割を発揮していくことが求められる。災害により生命や健康生活への被害を少なくするための予防から災害後の看護活動について考え、理解させる。急性期病院での経験を活かし教授する。</p>				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 安全な医療を提供するために必要な知識と技術、考え方を理解する。 2. 医療事故の現状を理解し、必要な対応（事故防止・発生時の対応）を考えることができる。 3. 看護者の倫理的態度について考え、よりよい行動を考えることができる。 4. 災害各期における看護の役割を理解し、看護活動が行える基本的な知識を理解する。 				
授業計画			内容	方法	
回	時間				
1	2	ガイダンス（科目の目標・学習内容など） 医療におけるリスクマネジメント			講義
2	2	リスクマネジメントの考え方 医療安全における看護師の役割			講義
3	2	事故防止のための知識と技術（起こりやすい事故への対策）			演習
4	2				
5	2				
6	2	リスクマネジメント（医療事故分析）			講義・演習
7	2	リスクマネジメント（医療事故分析）			演習
8	2				
9	2	看護場面における倫理的行動			講義・演習
10	2	看護場面における倫理的行動			演習
11	2	医療事故発生時・災害発生時の対応 医療安全対策			講義・演習
12	2	医療安全と看護記録			講義・演習
13	2	災害概論 災害看護活動			講義
14	2	災害看護における役割と方法			演習
15	2				
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑にグループワークを行うために、事前に項目について調べておく。 ・グループワークでの学びを授業で発表する。発表前は発表準備を行い、発表後はレポート課題がある。 ・夏季休暇中に「石巻赤十字病院の100日間」を読み、課題に沿ってレポートする。 				

テキスト	山内豊明 他：医療安全 多職種でつくる患者安全をめざして，南江堂 浦田喜久子 他：系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学，医学書院
参考文献	由井りょう子：石巻赤十字病院の100日間，小学館 その他、授業中に必要に応じ指示する。
成績評価の方法と基準	グループワーク（個人レポート含む）70%、筆記試験（45分）30% レポートの提出期限の遅れは減点する。

授業科目	看護管理	担当 教員	氏名	【国際看護】①岩崎 三佳 【看護管理】②牧之瀬 一二三
単位・時間数	1単位・15時間		所属	①神戸大学大学院保健学研究所 ②北九州安部山公園病院
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	①青年海外協力隊として派遣 ②病院にて看護部長として勤務
受講要件	なし			
授業概要	<p>【国際看護】 国内外にいる多様な文化的背景もつ対象の特徴や医療の特性を知り、グローバルな視点で看護の共通の課題は何かを考えられるよう担当教員の实務経験を交えながら授業を行う。</p> <p>【看護管理】 看護管理の概念と原則を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職者個人および看護組織が担う役割が理解できるよう講義する。組織と個人の関係、組織のマネジメントについて理解し、管理的視点をもった看護職者となるよう看護管理者として看護の現場と関連させながら講義する。また、看護をめぐる法律や社会の仕組み、変遷について学び、これからの看護職者としての役割を考えられるようにする。</p>			
到達目標	<p>【国際看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルな視点で考える必要性について述べるができる。 2. 我が国と他国の多様な文化を知り比較することによって、看護に共通の課題とは何かを考えることができる。 <p>【看護管理】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護におけるマネジメントの意義と方法を理解する。 2. 組織と個人の関係を理解し、組織の一員としての役割やあり方を理解する。 			
授業計画		内容		方法
回	時間			
1	5	<p>【国際看護】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際保健における課題、国際看護の特徴について説明する。 2. 国内外における看護教育比較：日本と海外における看護教育の体制について比較し看護の役割について考察する。 3. 異文化理解を通して、グローバルな視点での看護について考察する。 4. 国内外の看護において共通する課題について：課題を整理して、考えをまとめて記載し、提出する。 		講義・演習
2	2	<p>【看護管理】</p> <p>第1章：看護とマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護管理とは 2) 看護におけるマネジメント <p>第2章：看護ケアのマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護ケアのマネジメントの看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 		講義
3	2	<ol style="list-style-type: none"> 3) 安全管理 4) チーム医療 5) 看護業務の実践 <p>第3章：看護職のキャリアマネジメント</p>		講義
4	2	<p>第4章：看護サービスのマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護サービスのマネジメント 2) 組織目的達成のマネジメント 3) 看護サービスの提供の仕組みづくり 4) 人材のマネジメント 		講義

5	2	5) 施設・設備環境のマネジメント 6) 物品のマネジメント 7) 情報のマネジメント 8) 組織におけるマネジメント 9) サービスの評価	講義
6	2	第5章：マネジメントに必要な知識と技術 1) マネジメントとは 2) 組織とマネジメント 3) リーダーシップとマネジメント 4) 組織の調整 第6章：看護を取り巻く諸制度 1) 看護の定義 2) 看護職 3) 医療制度 4) 看護政策と制度	講義
授業時間外の 学習	各時間の予習復習を行う。		
テキスト	【国際看護】 浦田喜久子 他：系統看護学講座 統合分野 災害看護・国際看護，医学書院 【看護管理】 上泉和子 他：系統看護学講座 統合分野 看護管理，医学書院		
参考文献	必要時指示する。		
成績評価の 方法と基準	国際看護は講義への参加度とレポートで評価（100点）する。 看護管理は100点のテストを行う。 国際看護、看護管理ともに60点以上を合格とする。 【最終評価】 看護管理 80%、国際看護 20%で換算し、その合計点を科目の評価とする。		

授業科目	看護観演習		担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2023 年度・3 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	1・2 年次配当の授業科目 (実習科目を含む) の単位をすべて修得している。				
授業概要	看護観は看護実践の核となり、また専門職業人 (看護師) としての自己のあり方を決定するものである。臨地実習で体験した看護場面の分析を通して、看護において自分自身が大切にしたいことや看護についての考え方をリフレクションやナラティブを通して深めてほしい。看護観を論理的に表現する中で、これからの看護実践への動機づけとともに、職業人として看護実践から学び得る力を身につけることを求める。指導にあたってはリフレクションの理論とともに教員の看護師としての自己洞察の経験も活かして指導を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨地実習で体験した看護場면을リフレクションし、記録することができる。 2. ナラティブを通して、考える視点を増やし、思考の整理ができる。 3. 看護観を論理的に表現することができる。 4. 看護観の主題が伝わるように発表ができる。 				
授業計画	回	時間	内容	方法	
	1	2	ガイダンス (科目の目標・学習内容など)	講義	
	2	2	看護体験を語る (準備)	演習	
	3	4	看護体験を語る (グループワーク)	演習	
	4	2	論文作成計画立案	演習	
	5	4	論文作成 : 草稿発表 (グループワーク)	演習	
	6	2	発表会準備 : 発表原稿作成、プログラム作成、役割分担	演習	
	7	2	発表会準備 : 各係の打合せ、発表練習	演習	
	8	2	発表会準備 : 会場準備、リハーサル	演習	
	9	8	看護観演習発表会	演習	
	10	2	まとめ	講義・演習	
授業時間外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中に7場면을リフレクションし、実習担当教員に提出する。 ・草稿、論文、発表原稿を期限内に看護観担当教員に提出し、看護観発表ができるよう計画的に進める。 				
テキスト	なし				
参考文献	<p>図書室の看護に関する文献。自らの看護観を培うために多くの文献に目を通してほしい。</p> <p>看護観担当教員が必要に応じて指示することもある。</p>				
成績評価の方法と基準	<p>学習の取り組み状況 (50%) と論文内容 (50%) を看護観演習評価表を用いて評価する。</p> <p>リフレクション記録の不足、提出期限の遅れは減点する。</p>				

授業科目	在宅看護論実習	担当 教員	氏名	福田 敦子																						
単位・時間数	2単位・90時間		所属	専任教員																						
対象学生	2023年度・3年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																						
受講要件	1・2年次配当の授業科目(実習科目を含む)の単位をすべて修得している。																									
授業概要	<p>デイサービスの見学・参加を通して、デイサービスの役割や意義、在宅療養者の生活に合わせたリハビリテーションについて考える機会となるよう支援する。</p> <p>市町村保健センターの実習において、保健福祉機関の役割を理解するとともに、保健師の活動の見学や地域住民との関わりの中から地域で生活している在宅療養者や家族に対してどのような看護が提供されているのかを理解できるよう指導する。また、地域における看護の継続性が理解できるように指導する。</p> <p>訪問看護ステーションでは、看護師との同行訪問を通し、在宅療養者とその家族の生活を把握し、健康障害や生活障害を持ちながら在宅でその人らしい生活を送ることを可能にする看護の実際について授業の内容と関連付けながら学ぶことを支援する。その過程を通して在宅看護に必要な基礎知識・技術・態度を考える機会とする。実習で関わる事例を通して、在宅での生活を支える看護職や多職種を理解を深め、多職種との連携の必要性や保健医療福祉チームの一員としての看護の役割を理解できるよう看護師としての経験を活かして実習指導を行う。</p>																									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者とその家族および生活の場が理解できる 2. 在宅療養者とその家族の特徴をふまえた看護過程が展開できる。 3. 在宅療養への看護活動の実際が理解できる。 4. 在宅における保健・医療・福祉機関の概要を知り、看護の役割が理解できる。 5. 地域における看護の継続性が理解できる。 6. 訪問看護師としての態度が習得できる。 																									
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実習Ⅰ 在宅看護論</td> <td rowspan="3">2</td> <td>2</td> <td>地域での生活に合わせたリハビリの理解</td> <td>5～6月</td> <td>デイサービス せいかつCAN 曾根</td> </tr> <tr> <td>実習Ⅱ 在宅看護論</td> <td>21</td> <td>保健福祉機関の機能役割と保健活動の理解</td> <td>10月</td> <td>小倉南区役所保健福祉課</td> </tr> <tr> <td>在宅看護論実習Ⅲ</td> <td>67</td> <td>訪問看護ステーションの機能役割と訪問看護の理解</td> <td>5～11月</td> <td>恵友会訪問看護ステーション 北九州ヘルスケアサービス 八幡訪問看護ステーション 湯川訪問看護ステーション</td> </tr> </tbody> </table> <p>*詳細は実習要項にて説明する。</p>				区分	単位	時間	内容	時期	場所	実習Ⅰ 在宅看護論	2	2	地域での生活に合わせたリハビリの理解	5～6月	デイサービス せいかつCAN 曾根	実習Ⅱ 在宅看護論	21	保健福祉機関の機能役割と保健活動の理解	10月	小倉南区役所保健福祉課	在宅看護論実習Ⅲ	67	訪問看護ステーションの機能役割と訪問看護の理解	5～11月	恵友会訪問看護ステーション 北九州ヘルスケアサービス 八幡訪問看護ステーション 湯川訪問看護ステーション
区分	単位	時間	内容	時期	場所																					
実習Ⅰ 在宅看護論	2	2	地域での生活に合わせたリハビリの理解	5～6月	デイサービス せいかつCAN 曾根																					
実習Ⅱ 在宅看護論		21	保健福祉機関の機能役割と保健活動の理解	10月	小倉南区役所保健福祉課																					
在宅看護論実習Ⅲ		67	訪問看護ステーションの機能役割と訪問看護の理解	5～11月	恵友会訪問看護ステーション 北九州ヘルスケアサービス 八幡訪問看護ステーション 湯川訪問看護ステーション																					
授業時間外の学習	<p>事前学習：講義で配布した資料、テキスト内容を整理し、実習で活用できるよう実習開始前に学習しておく。</p> <p>実習中：事前学習で不足していた学習内容は随時追加学習を行う。</p>																									

テキスト	秋山正子 他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論，医学書院
参考文献	清水忠彦：わかりやすい公衆衛生学，ヌーヴェルヒロカワ 平林勝政 他：ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度，メディカ出版
成績評価の方法と基準	在宅看護論実習評価表に基づき評価を行う。 在宅看護論実習Ⅰ（4%）レポート内容にて評価 在宅看護論実習Ⅱ（16%）レポート内容にて評価 在宅看護論実習Ⅲ（80%）

授業科目	統合実習		担当 教員	氏名	尾倉 幸奈												
単位・時間数	2単位・90時間			所属	専任教員												
対象学生	2023年度・3年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務												
受講要件	1・2年次配当の授業科目の単位をすべて修得している。																
授業概要	複数患者の受け持ちや夜間実習を通して、看護の役割と看護師の行動を理解し、チームナーシングを円滑に行うための看護実践ができることを目指す。担当教員は看護師としての実務経験を活かし、看護の判断、優先順位の判断、時間管理の方法、医療チーム・看護チームとの連携等についても指導する。																
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者を受け持ち、必要な援助と優先順位を判断し、医療・看護チームと連携しつつ看護実践ができる。 2. 夜間の患者の状況を理解し、看護活動を理解する。 3. 専門職業人としての看護師の態度が習得できる。 																
実習の概要	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>単位</th> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>時期</th> <th>場所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>統合実習</td> <td>2</td> <td>90</td> <td> <ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得 </td> <td>11～ 12月</td> <td>北九州総合病院</td> </tr> </tbody> </table>					区分	単位	時間	内容	時期	場所	統合実習	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得 	11～ 12月	北九州総合病院
区分	単位	時間	内容	時期	場所												
統合実習	2	90	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得 	11～ 12月	北九州総合病院												
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前学習 <ol style="list-style-type: none"> ① チーム医療における看護の役割 ② 看護の組織、職位と役割、円滑に運営するための各自の役割 ③ リーダーシップとフォロワーシップ ④ 看護職者の自律性 ⑤ 病棟における安全管理 2. 受け持ち患者の看護に必要な事項 																
テキスト	各看護学教科書 上泉和子他：系統看護学講座 看護の統合と実践[1] 看護管理																
参考文献	学内図書室にある看護系の図書																
成績評価の方法と基準	別紙「実習評価表」により評価する																